

天野山金剛寺遺跡

(その1)

2001年3月

河内長野市教育委員会
河内長野市遺跡調査会

序 文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、豊かな自然に恵まれ、高野街道に代表される和歌山や奈良へ向かう街道の要衝として発展してきた街です。このため市内には数多くの文化財が残されています。

このような河内長野市は、大阪市内への通勤圏に位置しているため、住宅都市として発達してきました。この住宅開発がもたらした文化財や自然に対する影響も大きいものがあります。とくに、地下に眠る埋蔵文化財は開発と直接に結び付く大きな問題です。

遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージである文化遺産を保護・保存し、さらには未来の市民へ伝えていくことは、現代に生きる私達の責務であります。河内長野市に於いては、重要な課題である開発と文化財保護との調和のため、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その把握に努めています。

本書は発掘調査の成果を収録しています。皆様が先人達の残したメッセージの一部でもある文化財に対するご理解を深めていただくとともに、文化財の保護・保存・研究するための資料として活用していただければ幸いです。

これらの発掘調査に協力していただきました施主の方々の埋蔵文化財への深いご理解に末尾ながら謝意を表すものです。

平成13年3月

河内長野市教育委員会

教育長 福田 弘行

例 言

1. 本報告書は昭和63年度及び平成元年度に河内長野市から委託を受けて、河内長野市教育委員会と河内長野市遺跡調査会が実施した天野山金剛寺遺跡（KG T88-1・KG T89-1）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は本市教育委員会教育部社会教育課主幹兼文化財保護係長尾谷雅彦を担当者として実施し、内業調査は河内長野市立ふれあい考古館館長中西和子が指導した。
3. 調査にかかる事務は調査会事務局長釜ヶ谷正己（昭和63年度）、植田兵武（平成元年度）が主担した。
4. 本書の執筆は尾谷雅彦が行い、遺物については杉本（中村）清美がこれを補助した。
5. 編集は尾谷が行い、鈴木（明地）奈緒美・中村幸子が補助した。本書の文責は尾谷が負うものである。
6. 発掘調査及び内業整理については下記の方々の参加を得た。
阿部園子・今西（杉山）和良・梶谷佳世・喜多順子・久保八重子・高田加容子・中野雅美・平井令子・松尾寿美子・村上貴美・結城（阪本）桂子
7. 調査の実施に関しては下記の方々の協力を得た。（敬称略）
河内長野市建設部土木交通防災課（昭和63年当時）・写測エンジニアリング株式会社・国際航業株式会社・大和興産株式会社・株式会社島田組・天野山金剛寺・各地主の方々・各地区自治会
8. 写真撮影は、遺構については尾谷、遺物については中西が行った。
9. 調査の記録はスライドフィルム等でも保管しており、広く一般の方々に活用されることを望むものである。
10. 本報告書の刊行は、財政的原因から10年以上遅延した。また、原稿内容は当初のままで、遺構については最近の周囲の調査結果を加味していない。調査者としては非常に怠慢な報告となっていることをお詫び申し上げます。

凡 例

1. 本報告書に記載されている標高はT Pを基準としている。
2. 土色は『新版標準土色帖』による。
3. 平面測量は国家座標第VI系による5mメッシュを基準に実施した。
4. 図中の北は座標北である。
5. 本書の遺構名は下記の略記号を用いた。
S A…柱列（扉） S B…掘建柱建物・建物 S D…溝 S E…井戸 S K…土坑
S L…埋甕 S N…埋桶 S P…遺物出土ピット S W…石組遺構
S X…土釜埋納遺構 N R…自然流路 N V…谷地形・落ち込み
6. 遺構実測図の縮尺は、1/5・1/10・1/20・1/30・1/40・1/50・1/60・1/80・1/100・1/200・1/300とした。
7. 遺構実測図の縮尺は、石器2/3、土器1/4・1/8、木製品1/4・1/6・1/8、金属製品1/3、銅錢原寸、石製品1/4、土製品1/4、瓦1/4とした。
8. 遺物名は土師質土器を土師質、瓦質土器を瓦質、須恵質土器を須恵質と略称し、器種名を付した。
9. 瓦器・瓦質土器・須恵質土器・陶磁器の断面は黒塗り、土師質土器の断面は白抜き、金属製品、木製品、瓦の断面は斜線である。
10. 本文中の瓦器の型式分類は尾上実氏の和泉型瓦器梳の編年、瓦質皿の型式分類は尾谷の天野山金剛寺編年に基づくものである。器種名については本調査会の標記によるものとする。
11. 遺物番号と写真図版の番号は一致する。
12. 本文中「旧境内」は『金剛寺境内図』に含まれる寺域を指し、「境内」は現在の寺域、「伽藍」は主要伽藍を指すものとする。

目 次

序文

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

付図目次

図版目次

第1章　はじめに	1
第1節　調査に至る経過	1
第2節　位置と環境	2
第2章　調査の成果	7
第1節　概略	7
第2節　第1次遺構群	7
第3節　第2次遺構群	18
第4節　第3次遺構群	53
第5節　第4次遺構群	78
第6節　包含層出土遺物	83
第3章　まとめ	97
第1節　遺構の分布	97
第2節　焼土層	97
第3節　『金剛寺境内図』との関係	98

挿図目次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 天野山金剛寺遺跡調査区位置図 (1/4000)	3
第3図 河内長野市遺跡分布図 (1/40000)	4
第4図 第1次遺構群遺構配置模式図	7
第5図 S B 1 遺構実測図 (1/80)	8
第6図 S B 2 遺構実測図 (1/80)	8
第7図 S B 1・2 出土遺物実測図	9
第8図 S B 3 遺構実測図 (1/80)	9
第9図 S E 1 遺構実測図 (1/30)	9
第10図 S E 1 出土遺物実測図	10
第11図 S E 2 遺構実測図 (1/30)	10
第12図 S E 2 出土遺物実測図	11
第13図 S E 3 出土遺物実測図	12
第14図 S E 3 遺構実測図 (1/30)	12
第15図 S D 1・S K 1 遺構実測図 (1/30)	13
第16図 S D 1 出土遺物実測図	13
第17図 S K 1 出土遺物実測図	13
第18図 S K 2 遺構実測図 (1/30)	14
第19図 S K 2・3 出土遺物実測図	14
第20図 S K 4 遺構実測図 (1/20)	14
第21図 S K 4 出土遺物実測図	15
第22図 S K 5 出土遺物実測図	15
第23図 S K 5 遺構実測図 (1/20)	15
第24図 S K 6 遺物出土状況図 (1/30)	15
第25図 S K 6 出土遺物実測図	16
第26図 S K 7 出土遺物実測図	16
第27図 S K 8 出土遺物実測図	16
第28図 S K 9 遺構実測図 (1/40)	17
第29図 S K 9 出土遺物実測図	17
第30図 S P 1～3 出土遺物実測図	18
第31図 第2次遺構群遺構配置模式図	18
第32図 S A 1 遺構実測図 (1/50) 及び出土遺物実測図	19

第33図	S A 2 遺構実測図 (1/50)	20
第34図	S E 4 遺構実測図 (1/30)	21
第35図	S E 4 出土遺物実測図	21
第36図	S D 2 石組部分遺構実測図 (1/30)	22
第37図	S D 2 出土遺物実測図	22
第38図	S D 3 遺構実測図 (1/40)	23
第39図	S D 3 出土遺物実測図	23
第40図	S D 4・5 出土遺物実測図	23
第41図	S D 5・6 遺構実測図 (1/30)	24
第42図	S D 6 出土遺物実測図	25
第43図	S D 7~10遺構実測図 (平面1/100・断面1/40)	26
第44図	S D 7 出土遺物実測図	27
第45図	S D 8 出土遺物実測図	27
第46図	S D 9 出土遺物実測図	28
第47図	S D10出土遺物実測図	28
第48図	S D11・12遺構実測図 (1/50)	29
第49図	S K10・11出土遺物実測図	29
第50図	S K12出土遺物実測図	30
第51図	S K13~15出土遺物実測図	30
第52図	S K15遺構実測図 (1/40)	31
第53図	S K16遺構実測図 (1/30) 及び出土遺物実測図	31
第54図	S K17遺構実測図 (1/20) 及び出土遺物実測図	32
第55図	S K18出土遺物実測図	32
第56図	S K19遺構実測図 (1/30)	32
第57図	S K19出土遺物実測図	33
第58図	S K20出土遺物実測図	33
第59図	S K21遺構実測図 (1/30) 及び出土遺物実測図	33
第60図	S K22遺構実測図 (1/40)	33
第61図	S K22出土遺物実測図	34
第62図	S K23・24遺構実測図 (1/40)	35
第63図	S K23出土遺物実測図	35
第64図	S K24出土遺物実測図	36
第65図	S X 1 遺構実測図 (1/10)	36
第66図	S X 1 出土遺物実測図	36
第67図	S X 2 出土遺物実測図	37

第68図	S X 3 遺構実測図（1/30）	37
第69図	S X 3 ①出土遺物実測図	38
第70図	S X 3 ②出土遺物実測図	39
第71図	S X 3 ③出土遺物実測図	40
第72図	S X 3 ④出土遺物実測図	40
第73図	S X 3 ⑤出土遺物実測図	41
第74図	S X 4・5 遺構実測図（1/10）	41
第75図	S X 4 出土遺物実測図	42
第76図	S X 5 出土遺物実測図	43
第77図	S X 6 遺構実測図（1/5）	43
第78図	S X 6 出土遺物実測図	44
第79図	S X 6 出土輸入銭拓影（1）	45
第80図	S X 6 出土輸入銭拓影（2）	46
第81図	S X 7 遺構実測図（1/20）	47
第82図	S X 7 出土遺物実測図	48
第83図	N V 1 遺構実測図（平面1/80・断面1/40）	48
第84図	N V 1 出土遺物実測図	49
第85図	S P 8 遺構実測図（1/20）	50
第86図	S P 4～8 出土遺物実測図	50
第87図	N R 1（第3～4 調査区西壁）土層断面実測図（1/40）	51
第88図	N R 1（下層）出土遺物実測図	51
第89図	S L 1 遺構実測図（1/20） 及び出土遺物実測図	52
第90図	S L 2 遺構実測図（1/20） 及び出土遺物実測図	52
第91図	S L 3 遺構実測図（1/20） 及び出土遺物実測図	53
第92図	第3次遺構群遺構配置模式図	54
第93図	S B 4 遺構実測図（1/30）	55～56
第94図	S B 4 出土遺物実測図（1）	57
第95図	S B 4 出土遺物実測図（2）	58
第96図	S B 4 出土遺物実測図（3）	59
第97図	S B 4 出土遺物実測図（4）	60
第98図	S E 5 遺構実測図（1/30）	60
第99図	S E 5 出土遺物実測図	60
第100図	S E 6 遺構実測図（1/30）	61
第101図	S E 6 出土遺物実測図	61
第102図	S E 7 遺構実測図（1/30）	61

第103図	S E 8 遺構実測図（1/30）	62
第104図	S E 8 出土遺物実測図	62
第105図	S E 9 遺構実測図（1/30）	63
第106図	S E 9 出土遺物実測図	63
第107図	S D16出土遺物実測図	64
第108図	S D17～25遺構実測図（平面1/200・断面1/40）	65
第109図	S D20～22出土遺物実測図	66
第110図	S D23出土遺物実測図	66
第111図	S D24遺構実測図（1/30）	67
第112図	S D24出土遺物実測図	68
第113図	S K25遺構実測図（1/20）	68
第114図	S K26遺構実測図（1/30）	69
第115図	S K27遺構実測図（1/20）	69
第116図	S K25～27出土遺物実測図	69
第117図	S W 1 出土遺物実測図（1）	69
第118図	S W 1 出土遺物実測図（2）	70
第119図	S W 1 遺構実測図（1/30）	70
第120図	N V 2 出土遺物実測図	71
第121図	N R 1（上層）出土遺物実測図	71
第122図	S N 1 遺構実測図（1/20）	71
第123図	S N 1 出土遺物実測図	72
第124図	S L 4 遺構実測図（1/10）	72
第125図	S L 4 出土遺物実測図	72
第126図	S L 5 遺構実測図（1/20）及び出土遺物実測図	72
第127図	S L 6 遺構実測図（1/20）及び出土遺物実測図	73
第128図	S L 7 遺構実測図（1/20）及び出土遺物実測図	73
第129図	S L 8・9 遺構実測図（1/20）	74
第130図	S L 8 出土遺物実測図	74
第131図	S L 9 出土遺物実測図	74
第132図	S L10 遺構実測図（1/20）	75
第133図	S L10出土遺物実測図	75
第134図	S L11遺構実測図（1/20）及び出土遺物実測図	76
第135図	S L12遺構実測図（1/20）	76
第136図	S L12出土遺物実測図	77
第137図	S L13・14出土遺物実測図	77

第138図	第4次遺構群遺構配置模式図	78
第139図	S E10出土遺物実測図	78
第140図	S E10遺構実測図(1/30)	79
第141図	S K28出土遺物実測図	80
第142図	S K29遺構実測図(1/30)	81
第143図	S K29出土遺物実測図	81
第144図	S K30遺構実測図(1/30)	81
第145図	S K30出土遺物実測図	81
第146図	S N2遺構実測図(1/20)	82
第147図	S L15遺構実測図(1/20)	82
第148図	S L15出土遺物実測図	83
第149図	第1~3調査区包含層出土遺物実測図	84
第150図	第4調査区包含層出土遺物実測図(1)	85
第151図	第4調査区包含層出土遺物実測図(2)	86
第152図	第5調査区包含層出土遺物実測図(1)	87
第153図	第5調査区包含層出土遺物実測図(2)	88
第154図	第6調査区包含層出土遺物実測図(1)	89
第155図	第6調査区包含層出土遺物実測図(2)	90
第156図	第6調査区包含層出土輸入錢拓影(1)	91
第157図	第6調査区包含層出土輸入錢拓影(2)	92
第158図	第6調査区包含層出土輸入錢拓影(3)	93
第159図	第7・8調査区包含層出土遺物実測図(1)	95
第160図	第7・8調査区包含層出土遺物実測図(2)	96
第161図	第7・8調査区包含層出土輸入錢拓影	96
第162図	『金剛寺境内図』(部分)	99
第163図	調査地周辺地籍図	99
第164図	『金剛寺境内図』	100

表 目 次

第1表	河内長野市遺跡地名表	5
第2表	S X6出土輸入錢一覧表	47
第3表	第6調査区包含層出土輸入錢一覧表	93
第4表	第7・8調査区包含層出土輸入錢一覧表	94

付 図 目 次

付図1 KGT88-1・89-1遺構配置図(1/300)及び土層断面実測図(1/60)

図 版 目 次

- 図版1 遺構 第1～3調査区(KGT89-1)全景(西から)、
第4～8調査区(KGT88-1)全景(西から)
- 図版2 遺構 第1次遺構群 第1～3調査区全景(南から)
- 図版3 遺構 第1次遺構群 SB1(北から)、SB2-P1遺物出土状況(北から)
- 図版4 遺構 第1次遺構群 SD1・SE1(西から)、SE2(西から)
- 図版5 遺構 第1次遺構群 SE2遺物出土状況(東から)、SE3(西から)
- 図版6 遺構 第1次遺構群 SK1(北東から)、SK2(北西から)
- 図版7 遺構 第1次遺構群 SK4遺物出土状況(南から)、
SK5遺物出土状況(東から)
- 図版8 遺構 第1次遺構群 SK6遺物出土状況(西から)、SK9(西から)
- 図版9 遺構 第2次遺構群 第4調査区全景(南から)、第5・6調査区全景(北から)
- 図版10 遺構 第2次遺構群 SA1(南から)
- 図版11 遺構 第2次遺構群 SE4(北から)、SE4竹管検出状況(西から)
- 図版12 遺構 第2次遺構群 SD2(西から)、SD3(南から)
- 図版13 遺構 第2次遺構群 SD6石垣部分(西から)、SD7～10(西から)
- 図版14 遺構 第2次遺構群 SD11・12(北から)、SK12(東から)
- 図版15 遺構 第2次遺構群 SK15(南から)、SK16(東から)
- 図版16 遺構 第2次遺構群 SK21(北から)、SK22漆器椀出土状況
- 図版17 遺構 第2次遺構群 SK23(西から)、SX1遺物出土状況(北から)
- 図版18 遺構 第2次遺構群 SX3遺物出土状況(北から、東から)
- 図版19 遺構 第2次遺構群 SX4遺物出土状況(東から)、SX4・5(北から)
- 図版20 遺構 第2次遺構群 SX6遺物出土状況(北から、東から)
- 図版21 遺構 第2次遺構群 SX7(北から)、NV1漆器椀出土状況
- 図版22 遺構 第2次遺構群 NR1(東から)、SL1(東から)
- 図版23 遺構 第2次遺構群 SL2遺物出土状況(北から)、
SL3遺物出土状況(南東から)
- 図版24 遺構 第3次遺構群 第7調査区全景(南から)、SB4(南から)

- 図版25 遺構 第3次遺構群 S B 4 埋桶・埋甕検出状況（南から、西から）
- 図版26 遺構 第3次遺構群 S E 5（東から）、S E 6（西から）
- 図版27 遺構 第3次遺構群 S E 6（東から）、S E 8（北から）
- 図版28 遺構 第3次遺構群 S E 9（北から）、S D 13～15（北から）
- 図版29 遺構 第3次遺構群 S D 24（東から）、S D 24瓦・石臼検出状況（南西から）
- 図版30 遺構 第3次遺構群 S W 1（北から）、S N 1 埋桶検出状況（南から）
- 図版31 遺構 第3次遺構群 S L 4 遺物出土状況（南から）、
S L 5 遺物出土状況（南から）
- 図版32 遺構 第3次遺構群 S L 6 遺物出土状況（南から）、
S L 7 遺物出土状況（東から）
- 図版33 遺構 第3次遺構群 S L 9 遺物出土状況（西から）、
S L 10 遺物出土状況（南西から）
- 図版34 遺構 第3次遺構群 S L 11 遺物出土状況（南から）、
S L 12 遺物出土状況（東から）
- 図版35 遺構 第3次遺構群 S L 13 遺物出土状況（東から）、
S L 14 遺物出土状況（北西から）
- 図版36 遺構 第4次遺構群 S L 15（北東から）、S L 15 遺物出土状況（西から）
- 図版37 遺物 第1次遺構群 S B 1（1）、S B 2（2）、S E 1（3～5・7・8）、
S E 2（10・11・13～17）
- 図版38 遺物 第1次遺構群 S E 2（18～28）、S E 3（29）
- 図版39 遺物 第1次遺構群 S E 3（30～39）、S D 1（40・42～44）
- 図版40 遺物 第1次遺構群 S E 2（12）、S D 1（41・45・46）、S K 1（47・48）、
S K 2（49・50）、S K 3（51・52）、S K 4（53～59）
- 図版41 遺物 第1次遺構群 S K 4（60）、S K 5（62～64）、S K 6（67・68・70～79）
- 図版42 遺物 第1次遺構群 S K 4（61）、S K 5（65）、S K 6（80～92）、
S K 7（93～97）、S K 9（103～105）
- 図版43 遺物 第1次遺構群 S K 8（98・99）、S K 9（100～102）、S P 1（106・107）、
S P 2（108）、S P 3（109）
第2次遺構群 S A 1（110～113）
- 図版44 遺物 第2次遺構群 S E 4（114～117）、S D 2（118～124）、
S D 3（125・126・128～131）
- 図版45 遺物 第2次遺構群 S D 3（132・133）、S D 4（134）、S D 5（135～139）、
S D 6（140～152）
- 図版46 遺物 第2次遺構群 S D 7（154～160）、S D 8（161～166）、
S D 9（167～169）、S D 10（170）、S K 10（171）

- S K11 (172)、S K12 (173~178)
- 図版47 遺物 第2次遺構群 S K13 (179)、S K15 (181)、S K16 (182~184)、
S K17 (185・186)、S K18 (187~190)、
S K19 (191~193)、S K20 (194)、S K22 (203)、
S K23 (208・209)、S K24 (210・211)
- 図版48 遺物 第2次遺構群 S K21 (195)、S K22 (198~202・204~206)、S K23 (207)
- 図版49 遺物 第2次遺構群 S X 1 (212・213・215~228)
- 図版50 遺物 第2次遺構群 S X 1 (214・229~231)、S X 2 (232~240)、
S X 3⑤ (384~386・388・390・393・394・396~399・402)
- 図版51 遺物 第2次遺構群 S X 3⑤ (387・389・391・392・395・400・401・403)、
S X 3① (241~282)
- 図版52 遺物 第2次遺構群 S X 3② (283~329)、S X 3③ (330~353)
- 図版53 遺物 第2次遺構群 S X 3④ (354~383)、S X 4 (404~443)
- 図版54 遺物 第2次遺構群 S X 6 (445~521)
- 図版55 遺物 第2次遺構群 S X 7 (522~551)、N V 1 (552・553・555~558・560・
561)
- 図版56 遺物 第2次遺構群 S X 5 (444)、N V 1 (554・559)、S P 8 (567)
- 図版57 遺物 第2次遺構群 S P 4 (564)、S P 5 (562)、S P 6 (563)、
S P 7 (565)、S P 8 (566)、N R 1下層 (568~570・
572~574)、S L 1 (575)、S L 2 (576)、S L 3 (579)
- 図版58 遺物 第2次遺構群 S L 3 (577・578)
第3次遺構群 S B 4 (580・582・585・586・590・591)
- 図版59 遺物 第3次遺構群 S B 4 (584・587~589・593~595・606~609)
- 図版60 遺物 第3次遺構群 S B 4 (596~604)
- 図版61 遺物 第3次遺構群 S B 4 (605)
- 図版62 遺物 第3次遺構群 S E 5 (610)、S E 6 (612~614)、S E 8 (615~619)、
S E 9 (620~623)
- 図版63 遺物 第3次遺構群 S D 20 (626~628)、S D 21 (629~631)、
S D 22 (632・633)、S D 23 (634~636)、
S D 24 (640)、S K 25 (641)、S K 26 (642・643)
- 図版64 遺物 第3次遺構群 S K 26 (644)、S W 1 (646~651)、N V 2 (652)、
N R 1上層 (653~656)
- 図版65 遺物 第3次遺構群 S N 1 (657・658)、S L 4 (660)、S L 5 (661)、
S L 6 (662)、S L 7 (663)、S L 8 (664・666)、
S L 9 (667)

- 図版66 遺物 第3次遺構群 S L 9 (668)、S L 10 (669～671)、S L 11 (672)、
S L 12 (673・674)
- 図版67 遺物 第3次遺構群 S L 13 (677)、S L 14 (678)
第4次遺構群 S K 28 (680～682・684・685)、S K 30 (687～689)
- 図版68 遺物 第4次遺構群 S E 10 (679)、S K 28 (683)、S K 29 (686)、
S K 30 (690・691)、S L 15 (693～697)
包含層 第1～3調査区包含層 (698・699)
- 図版69 遺物 包含層 第1～3調査区包含層 (700～707・709～717・719～723)
- 図版70 遺物 包含層 第4調査区包含層 (724～729・732・734～736・740・742)
- 図版71 遺物 包含層 第4調査区包含層 (730・731・733・737～739・741・743～756)、
第5調査区包含層 (762・764・770・771)
- 図版72 遺物 包含層 第5調査区包含層 (763・765～769・772・773・775～786・788・
789・792・794)
- 図版73 遺物 包含層 第5調査区包含層 (790・791・793・795・796)、
第6調査区包含層 (797・799・804～812)
- 図版74 遺物 包含層 第6調査区包含層 (798・800～803・813～822・824・825・827～
872)
- 図版75 遺物 包含層 第6調査区包含層 (832～877)、
第7・8調査区包含層 (878～885・887～890)
- 図版76 遺物 包含層 第7・8調査区包含層 (884・886・891～895・897～908)

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

近年の地価の高騰は、比較的安価であった河内長野市の住宅開発に拍車をかけるきっかけとなった。大規模な住宅開発は減少してきただが、ミニ開発や集合住宅の建設が盛んとなつた。このような状況の中で、河内長野市は公共上下水道、アクセス道路、公園等の都市機能の整備、文化会館などの文化施設の充実に努めている。

しかし、公共関係の整備も一般の開発と同じように埋蔵文化財を避けて通ることはできず、教育委員会と都市整備部局（昭和63年当時）は文化財保護と開発の調整に力を注いでいた。公共事業に関連する埋蔵文化財の取り扱いについては、前年度からの計画段階での保存協議を進めている。

調査は市道門前下里線道路改良事業に先立ち実施したものである。当該事業地の内、史跡天野山金剛寺に近接する道路延長180mについては周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、事業主体者で、主管担当課である建設部土木交通防災課（昭和63年当時）と教育委員会は埋蔵文化財の取り扱いについて協議を進めた。その結果、予定地内について記録保存を実施することとなり、調査については河内長野市遺跡調査会が実施することになった。調査は道路計画部分（1000m²）を対象に、平成元年2月16日から3月31日まで第1次調査（KG T88-1）として実施し、その北側（600m²）について平成元年12月27日から平成2年3月24日まで第2次調査（KG T89-1）として実施した。



第1図 遺跡位置図

第2節 位置と環境

和泉山脈、金剛山地に源を発する石川の各支流や西除川は狭小な河谷を形成しながら北流する。河内長野市はこれら河川によって造られた谷や河岸段丘上に集落が発達している。特に中心となる長野や三日市は谷口の集落として、また、各谷筋を通る街道の要衝として発達してきたものである。

遺跡もまた、谷筋毎に分布している。縄文時代の遺跡は最近増加しているが、石川本流から天見川沿いに北から向野遺跡、喜多町遺跡、三日市遺跡の3遺跡があり、後期を中心とする土器が出土している。また、石川本流には高向遺跡や宮山遺跡があり、宮山遺跡では中期後半の土器と共に堅穴住居も確認されている。さらに、三日市遺跡からは早期の土器も出土している。これらの遺跡以外に、高木遺跡、寺ヶ池遺跡、菱子尻遺跡からはサヌカイト片や石器が出土している。

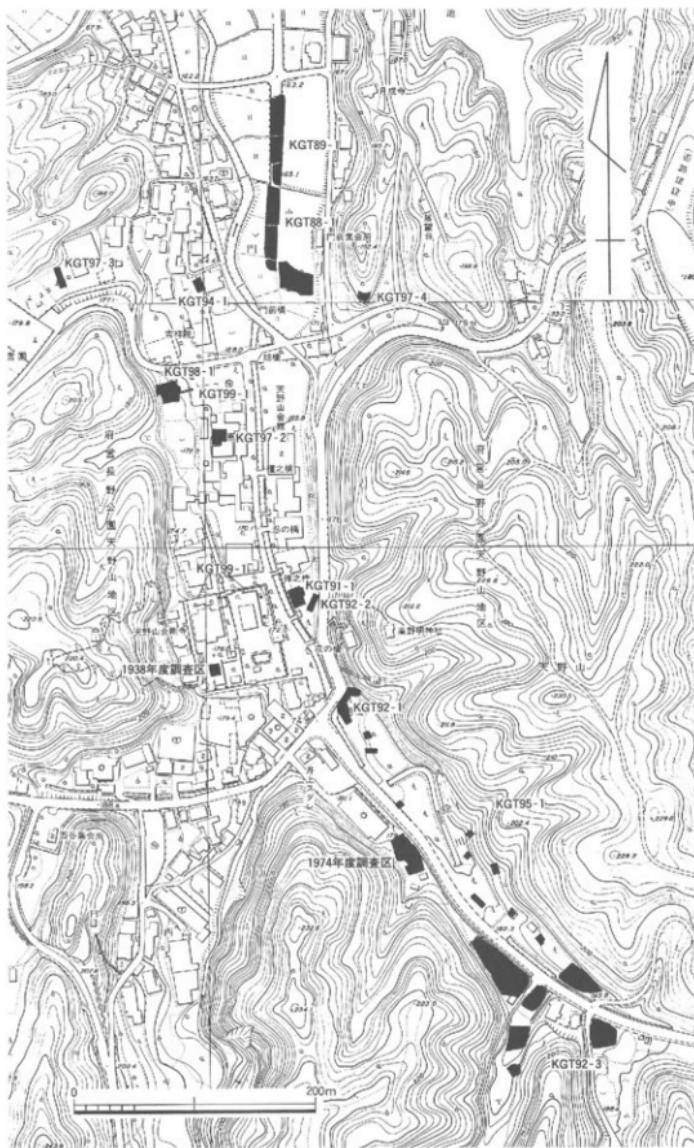
弥生時代は石川左岸の塩谷遺跡や天見川右岸の三日市遺跡から中期が、大師山遺跡からは後期の土器が出土している。

古墳時代は天見川を見下ろす位置に前期の前方後円墳の大師山古墳、中期の三日市遺跡の古墳群、後期の鳥帽子形古墳が分布している。石川本流の向野町には五ノ木古墳、法師塚、双子塚などの古墳が分布していた。また、石川左岸の上原町には塚穴古墳が現存している。集落遺跡では前期から中期にかけては天見川沿いに三日市遺跡があり、後期前半では同じく天見川沿いに小塙遺跡や加塙遺跡がある。

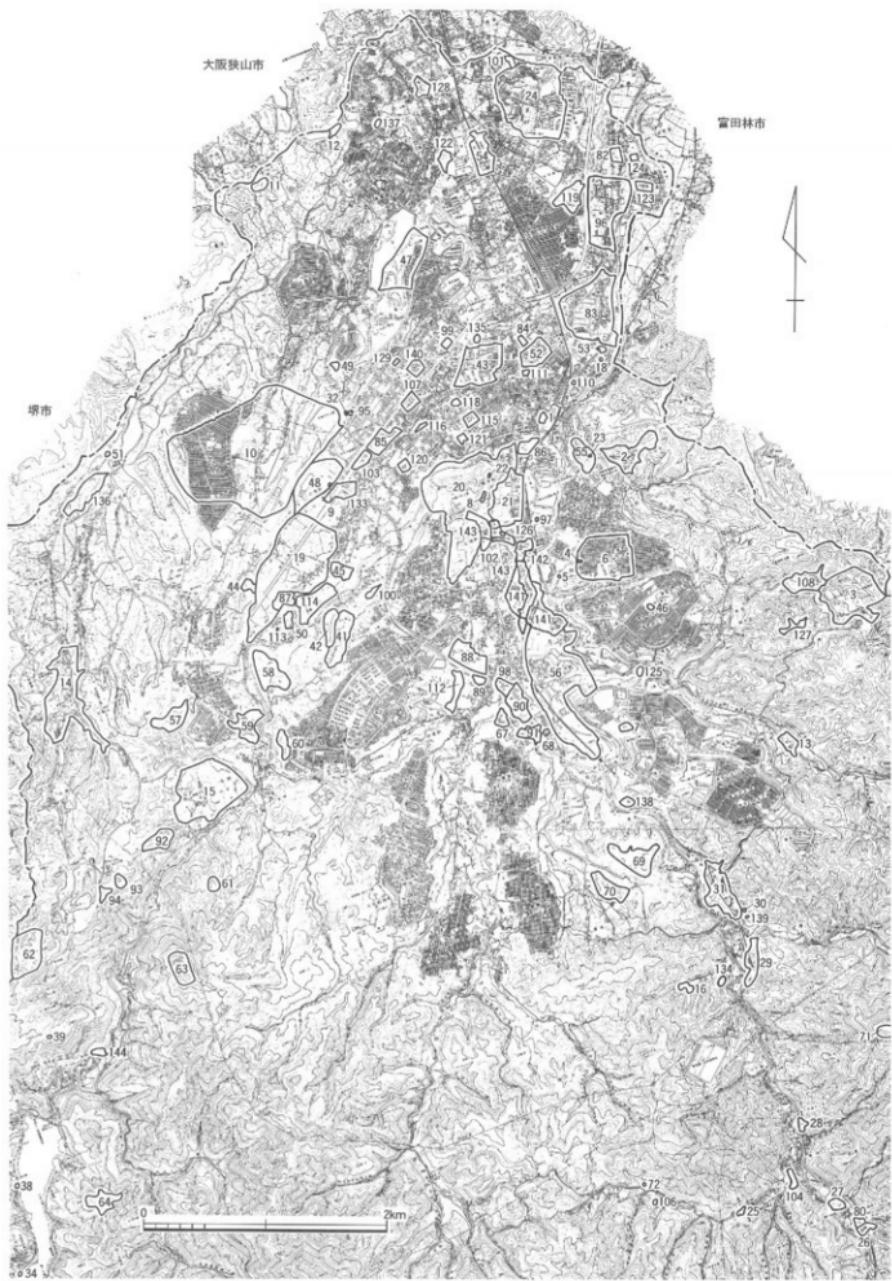
奈良時代になると、高向遺跡や喜多町遺跡、加塙遺跡から掘立柱建物や土坑が検出されている。また、本市と大阪狭山市との市境の小山田町からは2基の火葬墓が発見されている。

平安時代の遺跡は、尾崎遺跡の10世紀の掘立柱建物や三日市遺跡の11~12世紀の掘立柱建物以外は確認されていない。しかし、觀心寺や金剛寺などの寺院はこの時期、広大な莊園を有していた。

中世になると、各谷筋（高野街道や天野街道沿い）に集落が分布している。とくに、高野街道に沿っては、西高野街道では北から菱子尻遺跡や古野町遺跡があり、東高野街道では向野遺跡がある。西、東が一つとなって天見川沿いを南にのびる高野街道では、石川との合流付近の長野神社遺跡や、鳥帽子形城跡、さらに南に、三日市遺跡、石仏遺跡、尾崎遺跡、清水遺跡、千早口駅南遺跡、天見駅北方遺跡、蟹井淵遺跡、蟹井淵南遺跡と集落跡が続く。これらは明らかに街道と共に発達した遺跡である。集落跡以外では、街道を見下ろす尾根上に南北朝から戦国時代にかけての城塞が20数カ所分布している。生産遺跡としては、平安時代末から中世にかけての炭焼窯と思われる窯跡が市内の山間部に分布している。



第2図 天野山金剛寺遺跡調査区位置図 (1/4000)



第3図 河内長野市遺跡分布図(1/40000)

番号	文化財名称	種類	時代	番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町以降	(73)	葛城第18塚	墳墓	平安以降
2	河合寺遺跡	社寺	平安以降	(74)	葛城第19塚	墳墓	平安以降
3	觀心寺遺跡	社寺	平安以降	(75)	徒尾	墓	中世
4	大師山古墳	古墳	古墳(前期)	(76)	大沢	墓	中世
5	大原山古墳	古墳?	古墳(後期)	(77)	三國山	庭	平安以降
6	大原山遺跡	集落・生產	弥生(後期)・平安	(78)	光庵寺遺跡	社寺	中世以降
7	興福寺遺跡	社寺	中世以降	(79)	猿子城跡	城館	中世
8	鳥帽子形八幡神社遺跡	社寺	室町以降	(80)	蟹井祖神社遺跡	社寺	中世以降
9	坂穴古墳	古墳・墳墓	古墳(後期)・近世	(81)	川上神社遺跡	社寺	中世以降
10	長瀬廃跡群	生產	平安～近世	(82)	千代田神社遺跡	社寺	中世以降
11	小山田1号古墓	墳墓	奈良	(83)	向野遺跡	集落・生產	纏文・平安～近世
12	小山田2号古墓	墳墓	奈良	(84)	古野町遺跡	散布地	中世
13	延命寺遺跡	社寺	平安以降	(85)	ヒ原北遺跡	集落	中世
14	天野山金剛寺遺跡	社寺	平安以降	(86)	大日寺遺跡	社寺・古墳・墳墓	弥生～中世
15	日野観音寺遺跡	社寺	平安・生産	(87)	高向南遺跡	散布地	譯書
16	地藏寺遺跡	社寺	中世以降	(88)	小塙遺跡	集落	纏文・奈良
(17)	岩湧寺遺跡	社寺	平安以降	(89)	御塗遺跡	集落	古墳(後期)
18	五木本古墳	古墳	古墳(後期)	(90)	尾崎遺跡	集落	古墳～中世
19	高向遺跡	集落	石器器・中世	(91)	ショウマエ遺跡	城壁?	中世
20	島帽子形城跡	城跡・生產	中世～近世	(92)	仁王山城跡	城館	中世
21	喜多町遺跡	集落	纏文・古墳～中世	(93)	タヨラ城跡	城館	中世
22	鳥帽子形古墳	古墳	古墳(後期)	(94)	岩立城跡	城館	中世
23	末広堂跡	堂跡	中世	(95)	上原汎世窓	生產	近世
24	旗谷遺跡	散布地	纏文・近世	(96)	古町東遺跡	散布地	弥生・中世
25	流谷八幡神社	社寺	平安以降	(97)	上田町遺跡	生產	近世
26	蟹井源南遺跡	散布地	中世	(98)	尾崎北遺跡	集落	古墳～中世
27	蟹井源北遺跡	散布地	中世	(99)	西之山町遺跡	散布地	中世
28	天見駅北方遺跡	散布地	中世	(100)	野間里遺跡	集落	平安
29	千草口駅南遺跡	社寺	中世	(101)	鳴尾遺跡	散布地	中世
30	岩瀬豪信寺遺跡	社寺	中世以降	(102)	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
31	清水遺跡	散布地	中世	(103)	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
32	伝「仲哀廟」古墳	古墳?	?	(104)	小野冢遺跡	墳墓	中世
(33)	堂堂地蔵院跡	社寺	近世	(105)	葛城第17塚	墳墓	平安以降
34	庵細塙	墓	墳墓	(106)	第六御堂跡	社寺	中世以降
(35)	中村阿弥陀堂跡	社寺	近世	(107)	野作遺跡	生產	奈良・中世
(36)	東の村觀音堂跡	社寺	近世	(108)	寺元遺跡	集落・社寺	奈良・中世
(37)	西の村觀音堂跡	社寺	近世	(109)	鳴原遺跡	散布地	中世
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世	(110)	法師塚古墳跡	古墳	古墳
39	庵尾寺跡	社寺	近世	(111)	山上講山古墳跡	古墳	古墳
(40)	宮の下内墓	墓	古墳	(112)	西浦遺跡	集落	古墳・中世・近世
41	宮山古墳	古墳	古墳	(113)	地福寺跡	社寺	近世
42	宮山遺跡	集落	纏文・奈良	(114)	宮の下遺跡	集落	平安～中世
43	西代陣屋跡	散布地・試跡	飛鳥～奈良・江戸	(115)	柴町遺跡	散布地	弥生・古墳・中世
44	上原町墓	墓	古墳	(116)	錦町遺跡	散布地	中世
45	慈待寺跡	施設跡・社寺	近世	(117)	太平井遺跡	散布地	纏文・中世
46	栗山遺跡	祭祀	祭祀	(118)	錦町北遺跡	集落	弥生・中世・近世
47	寺ヶ池遺跡	散布地	?	(119)	市町西遺跡	集落	纏文・中世
48	上原遺跡	散布地	石器器・近世	(120)	柴町南遺跡	集落	中世
49	住吉神社遺跡	社寺	近世以降	(121)	柴町東遺跡	散布地	弥生・中世
50	高向神社遺跡	社寺	中世以降	(122)	鶴町東遺跡	散布地	弥生
51	青が原神社遺跡	社寺	中世以降	(123)	沙の宮町南遺跡	散布地	弥生・奈良
52	諸所藩代官所跡	城館	江戸	(124)	沙の宮町遺跡	散布地	中世
53	双子塚古墳跡	古墳	古墳	(125)	神ガ丘近世墓	墓	近世
54	斐尼尻遺跡	散布地・社寺	纏文～近世	(126)	増福寺跡	社寺	中世以降
55	河合寺	寺跡	中世	(127)	三味城遺跡	墳墓・城跡	中世・近世
56	三日市遺跡	集落・古墳地	旧石器～近世	(128)	松林寺遺跡	寺跡	近世以降
57	日の谷城跡	城跡	中世	(129)	昭栄町東遺跡	散布地	中世
58	高木城跡	城跡	散布地	(130)	東高野街道	街道	平安以降
59	沙の山城跡	城跡	中世	(131)	西高野街道	街道	平安以降
60	峰山城跡	城跡	中世	(132)	高野街道	街道	平安以降
61	福荷山城跡	城跡	中世	(133)	上原東遺跡	散布地	弥生・中世・近世
62	国見城跡	城跡	中世	(134)	地藏寺東方遺跡	墳墓	譯書
63	旗城跡	城跡	中世	(135)	木多町北遺跡	散布地	中世
64	權度城跡	城跡	中世	(136)	下里町遺跡	散布地	古墳・中世
(65)	天神社遺跡	社寺	中世以降	(137)	あかし台遺跡	散布地	近世
(66)	葛城第15塚	墳墓	経摩	(138)	岩頭北遺跡	集落	中世
67	加賀田神社遺跡	社寺	中世以降	(139)	岩瀬近世墓	墓	近世
68	庚申堂遺跡	社寺	近世以降	(140)	昭栄町東遺跡	散布地・地盤	纏文・中世・近世
69	石弘城跡	城跡	中世	(141)	三日市北遺跡	集落	弥生・中世
70	佐近城跡	城跡	中世	(142)	三日市宿跡	宿場	中世～近世
71	旗尾城跡	城跡	中世	(143)	上田町遺跡	散布地	都に伴う街並
72	葛城第16塚	墓	経摩	(144)	庵尻遺跡	散布地	纏文・古代・中世

() は地図範囲外 * は街道につき地図上にプロットせず

第1表 河内長野市遺跡地名表

近世になると近江膳所藩や河内西代藩の陣屋跡があり、さらに、確認数は少ないが瓦窯も、地元の伝承通り確認されている。

当該遺跡は、国史跡天野山金剛寺を中心に西除川の谷部分に分布する天野山金剛寺旧境内を含むものである。調査地は、旧境内の北側、西除川の右岸の河岸段丘上に所在するもので、標高160mを測った。この天野山金剛寺の位置する天野谷は、和泉山脈から北に向かって派生する丘陵性山地に源を発する西除川によって形成された幅100mの谷である。西除川は北流して狭山池に注いでいる。天野山金剛寺は天野谷の最深部に位置する。

旧境内の南側は東側から1条、南側から2条の小谷が合流し天野谷へと続いている。旧境内は『金剛寺境内図』（年代不詳）によれば主要伽藍を中心 北の天野谷、南の小谷に坊跡が分布していることが判明している。また、昭和49年度には大阪府による滝畠ダム建設に伴って現在の滝畠ダムに通じる道路が調査され、今回の調査と同様の時期の墓地跡が確認されている。^{註1}

本調査以降、当該遺跡においてはKG T91-1^{註2}、92-1^{註3}、92-2^{註4}、92-3^{註5}、94-1^{註6}、95-1^{註7}、97-2^{註8}、97-3^{註9}、98-1^{註10}、99-1^{註11}、00-1^{註12}、など数次にわたって調査が行われ、新しい見知りも増えている。

註1 金剛寺坊跡調査会 1975年2月 『天野山金剛寺 中世墓地発掘調査』

註2 本報告書（その2）

註3 河内長野市遺跡調査会 1993年3月 『河内長野市遺跡調査会報VI』

註4 註3と同じ

註5 河内長野市遺跡調査会 1994年3月 『河内長野市遺跡調査会報VII』

註6 河内長野市教育委員会 1995年3月 『河内長野市埋蔵文化財調査報告書XII』

註7 河内長野市遺跡調査会 1997年3月 『河内長野市遺跡調査会報X』

註8 註2と同じ

註9 註2と同じ

註10 註2と同じ

註11 註2と同じ

註12 河内長野市教育委員会 2001年3月 『河内長野市埋蔵文化財調査報告書XX』

第2章 調査の成果

第1節 概略

本報告書では、調査結果は第1次調査及び第2次調査とも含めて報告する。このため、調査区の呼称については、地形に沿って各水田ごとに北から順に第1調査区から第8調査区とした。遺構図示、遺物の取り上げについては国土座標に基づく5mメッシュの区割りをもちいて実施した。

遺構と遺物は鎌倉から室町時代、近世の各時期が検出された。遺構は第1次から第4次まで検出された。第1次は鎌倉期、第2次は室町期、第3次は鐵肥期から江戸期、第4次は江戸期に大略できるが、厳密な時期差によって分けたわけではない。

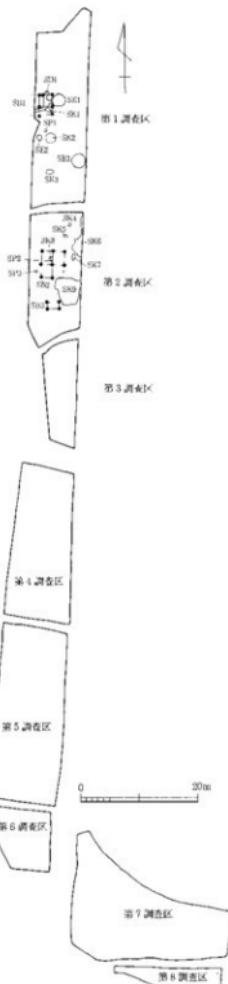
調査区の層序は、大きく第1調査区から第3調査区、第4調査区から第8調査区の二つに分けることができる。

第1調査区から第3調査区の層序は、耕土、床土、第2調査区付近の灰褐色疊混じりシルト、あるいは第1調査区と第3調査区で見られる黒褐色粘土質シルトの包含層の3層が基本層序である。また、南側では第3調査区と第4調査区の間に流路があり、河川堆積の砂、礫が堆積していた。

第4調査区から第8調査区の層序は、耕土、床土、焼土の小ブロック及び灰混じり層、焼土層、そしてその下層の灰黄色シルト質粘土が基本層序となる。遺物はこの焼土層及び上層の焼土の小ブロック及び灰混じり層に多く含まれる。この焼土層は厚いところで0.4mを測り、大規模な火災によるものと推測される。(付図1)

第2節 第1次遺構群

第1調査区から第2調査区で、掘立柱建物3、井戸3、溝1、土坑9などが検出された。



第4図 第1次遺構群
遺構配置模式図

(1) 掘立柱建物

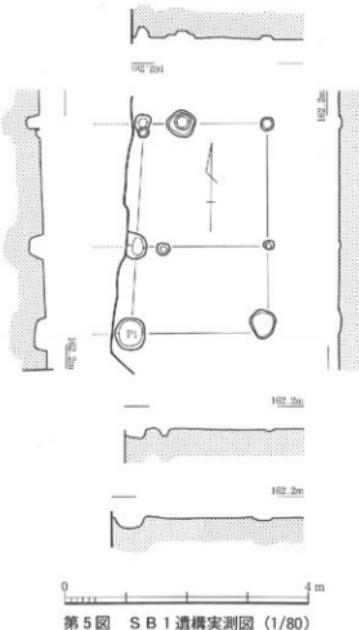
[S B 1] (第5・7図、図版3・37)

第1調査区の中央西側に位置する。南北2間(3.4m)×東西1間(2.2m)以上の建物である。南北柱間は北側から2m・1.4mを測り、東西の柱通りは調査区外西側にのびる可能性が高い。柱穴は径0.2~0.5m、深さ0.1~0.2mを測る。主軸方向は座標北を示す。

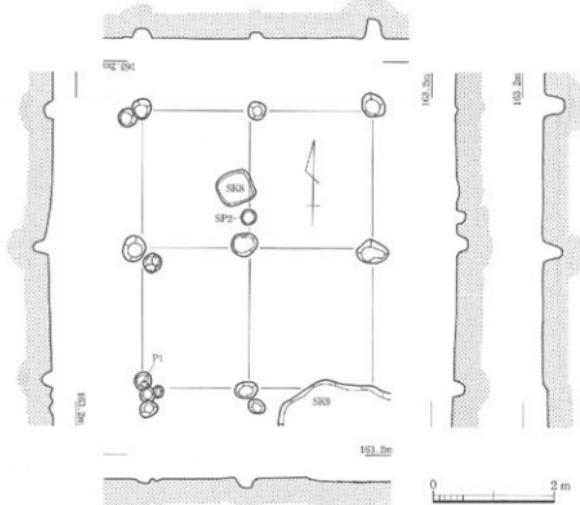
遺物はP1から瓦器皿(1)が出土した。

[S B 2] (第6・7図、図版3・37)

第2調査区の中央、S B 1の南側23mに位置する。桁行2間(4.4m)×梁行2間(3.8m)の建物で南東隅の柱穴はSK9によって削平を受けている。桁行柱間は2.2m、梁行柱間は1.9mを測る。柱穴は径0.3~0.4m、深さ0.2~0.4mを測る。主軸方向は座標北を示す。



第5図 S B 1 遺構実測図 (1/80)



第6図 S B 2 遺構実測図 (1/80)

遺物はP 1から土師質皿（2）が出土した。

[S B 3] (第8図)

第2調査区の南側、S B 2の南側4mに位置する。桁行1間（2m）×梁行1間（1.2m）の建物である。柱穴は径0.2~0.3m、深さ0.1m前後を測る。主軸方向はN-85°-Eを示す。

遺物は出土しなかった。

(2) 井戸

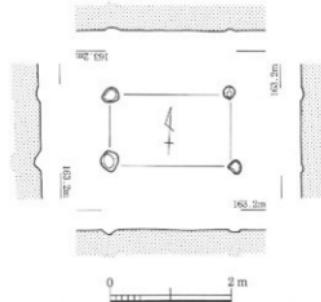
[S E 1] (第9・10図、図版4・37)

第1調査区の中央で、一部S B 1と重複して位置する。平面形が椭円形を呈する素掘りの井戸のようである。西側はS D 1と繋がる。

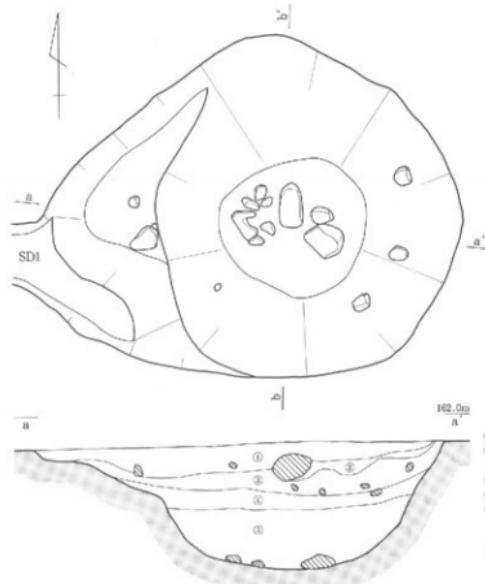
規模は長径2.55m、短径2.1m、深さ0.78mを測る。埋土は上層から順にシルトからシルト質粘土、疊混じり粘土へと変化し、最下層は木質など植物の遺体が混じる。色調は黄褐色



第7図 S B 1・2出土遺物実測図

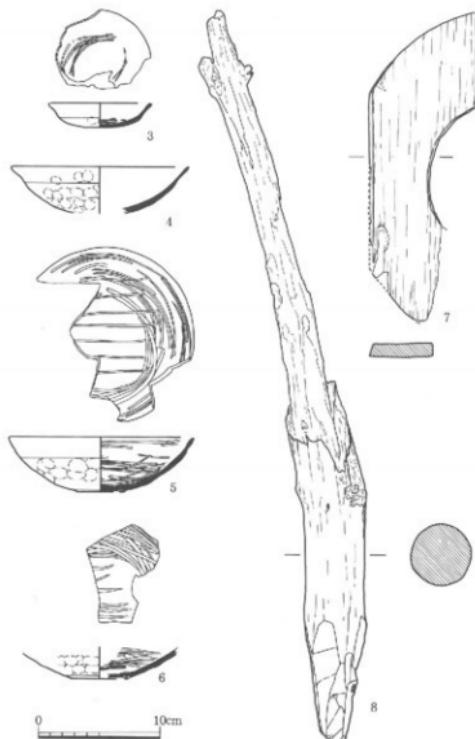


第8図 S B 3遺構実測図 (1/80)



第9図 S E 1遺構実測図 (1/30)

- ① 10YR 4/3 II-III 黄褐色疊混じリシキト
- ② ①の上に2.5Y 8/6 黄色のブロック土の
粒土が覆じる
- ③ 2.5Y 5/3 黄褐色疊混じリシリト質粘土
- ④ 7.8Y 6/1 灰色疊混じリ粘土
- ⑤ 30Y 4/1 深褐色疊混じリ粘土(木質混じり)



第10図 S E 1出土遺物実測図

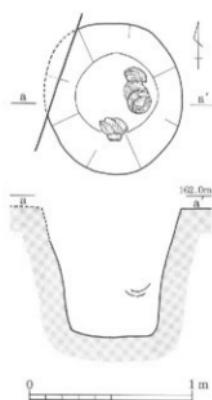
色から灰色に変化している。

遺物は瓦器の皿（3）・塊（4～6）、不明板状木製品（7）、杭（8）が図示できた。

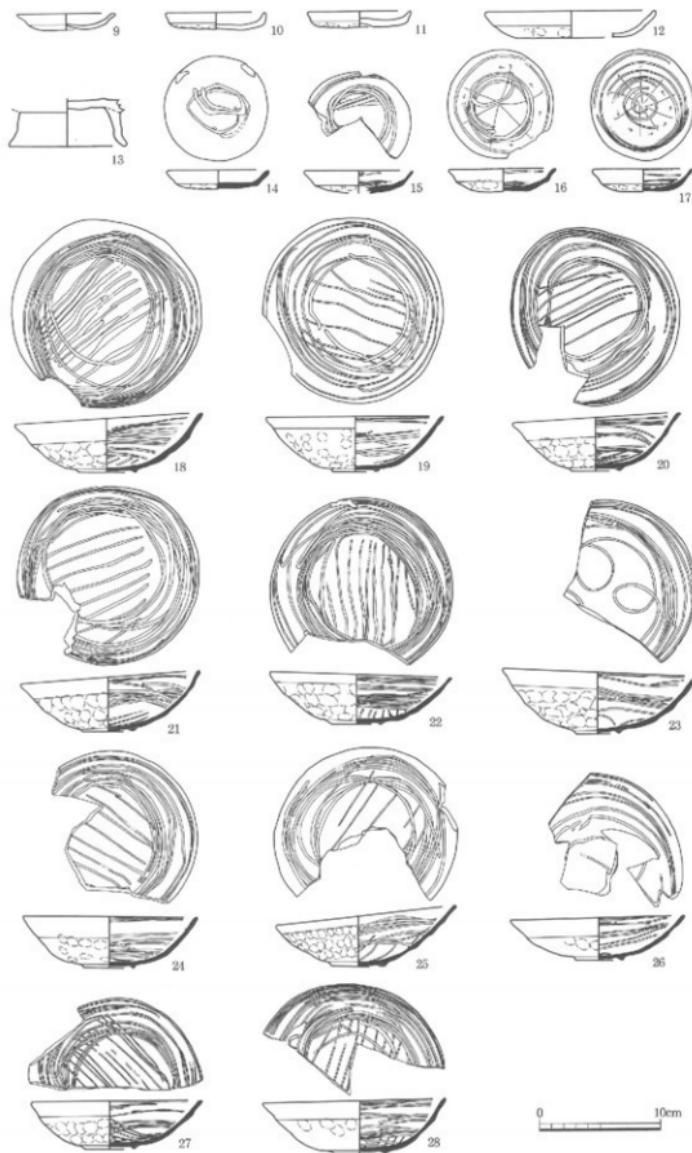
〔S E 2〕（第11・12図、図版4・5・37・38・40）

第1調査区の中央西端、S B 1の南側3mに位置する。平面形が円形を呈する素掘りの井戸である。規模は径0.9m、底径0.5m、深さ0.82mを測る。井戸中位から下位にかけて遺物が出土した。

遺物は土師質の皿（9～12）・台付皿（13）、瓦器の皿（14～17）・塊（18～28）が図示できた。

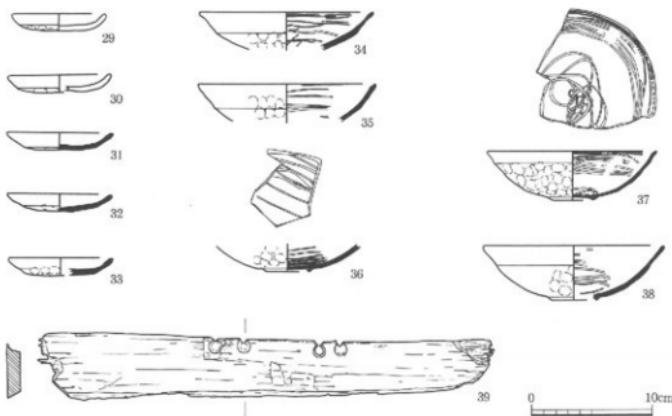


第11図 S E 2遺構実測図 (1/30)



第12図 SE 2 出土遺物実測図

第1次遺構群



第13図 SE 3出土遺物実測図

[SE 3] (第13・14図、
図版5・38・39)

第1調査区の南東側、S E 2の南東側6mに位置する。平面形が椭円形を呈する素掘りの井戸である。規模は長径2.48m、短径2.3m、底径1.4m、深さ0.71mを測る。

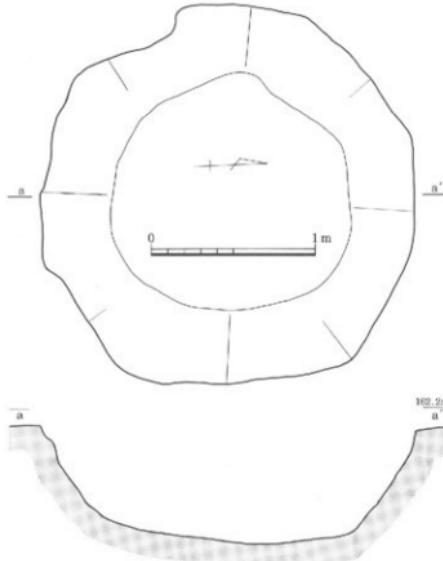
遺物は土師質皿(29・30)、瓦器の皿(31~33)・塊(34~38)が図示できた。さらに火切り板(39)も出土した。

(3) 溝

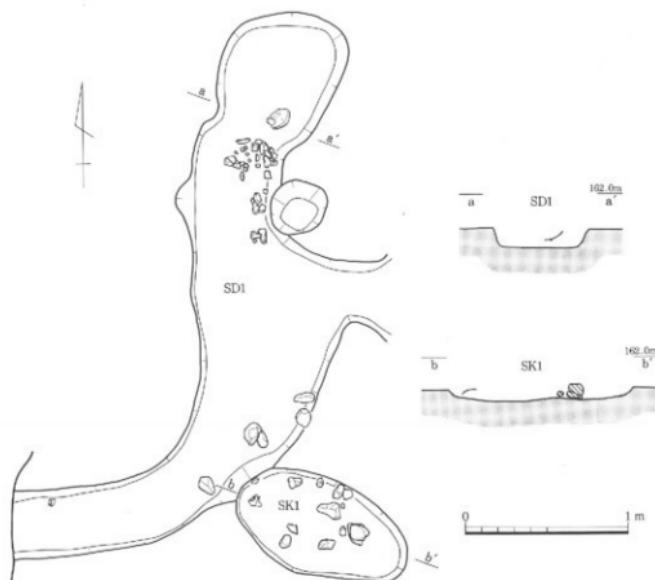
[SD 1] (第15・16図、
図版4・39・40)

第1調査区の中央西側、S B 1と重複して位置する素掘りの溝である。溝は調査区外から北に向かって約4m伸びて終わっている。一部は東側のS E 1と繋がっている。規模は幅0.4~0.7m、深さ0.1mを測り、内部から遺物が出土した。

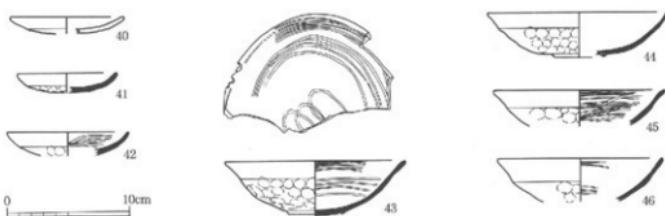
遺物は土師質皿(40)、瓦器の皿(41・42)・塊(43~46)が図示できた。



第14図 SE 3遺構実測図(1/30)



第15図 SD1・SK1遺構実測図 (1/30)



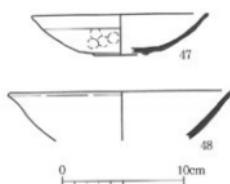
第16図 SD1出土遺物実測図

(4) 土坑

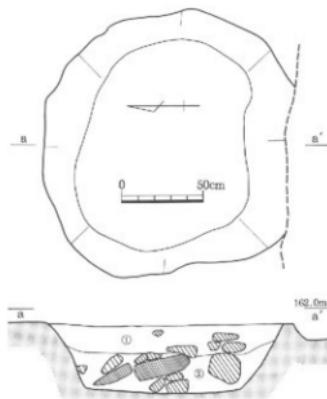
[SK1] (第15・17図、図版6・40)

第1調査区の中央西側、SD1に接して位置する。平面形は長楕円形を呈し、規模は長径1.1m、短径0.6m、深さ0.06mを測る。主軸方向はN-68°-Wを示す。土坑内部から約10×15×20cmの角礫と土器が出土した。

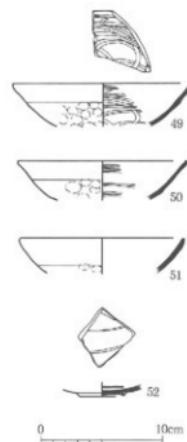
遺物は瓦器塊(47)と白磁碗(48)が図示できた。



第17図 SK1出土遺物実測図



第18図 SK 2 遺構実測図 (1/30)



第19図 SK 2・3 出土遺物実測図

〔SK 2〕（第18・19図、図版6・40）

第1調査区の中央西側、S E 2 の東側1 mに位置する。南側は S D13によって削平されている。平面形は橢円形を呈し、規模は長径1.7m、短径1.45m、深さ0.4mを測る。埋土は2層からなり上層は褐色系の細礫混じり粘土、下層は粘土層を成し、約10×20×30cmの川原石が埋土中に混じっていた。

遺物は瓦器塊（49・50）が図示できた。

〔SK 3〕（第19図、図版40）

第1調査区の南側、S E 3 の西側3.5mに位置する。平面形は歪な長橢円形を呈し、規模は長径1.2m、短径0.6m、深さ0.4mを測る。埋土は1層で灰色礫混じりシルト層である。

遺物は瓦器塊（51・52）が図示できた。

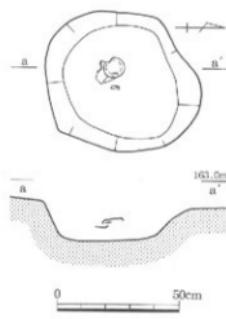
〔SK 4〕（第20・21図、図版7・40～42）

第2調査区の北側、S B 2 の北側4 mに位置する。平面形は歪な橢円形を呈し、規模は長径0.66m、短径0.58m、深さ0.16mを測る。埋土中位から土器類が出土した。

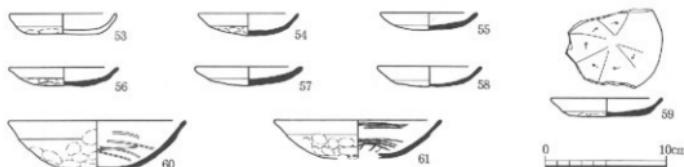
遺物は土師質皿（53）、瓦器の皿（54～59）・塊（60・61）が図示できた。

〔SK 5〕（第22・23図、図版7・41・42）

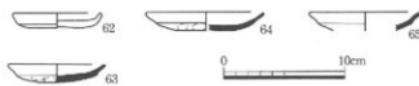
第2調査区の北側、S K 4 の南側1.5mに位置する。平面形は歪な橢円形を呈すると考えられるが、ピットと重複



第20図 SK 4 遺構実測図 (1/20)



第21図 S K 4出土遺物実測図



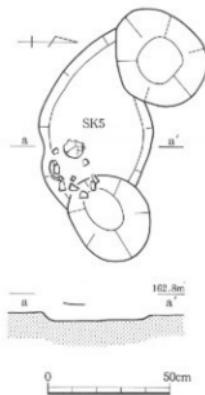
第22図 S K 5出土遺物実測図

しているため全容は不明である。規模は検出長軸0.76m、短軸0.47m、深さ0.04mを測る。遺構内から土器類が出土した。

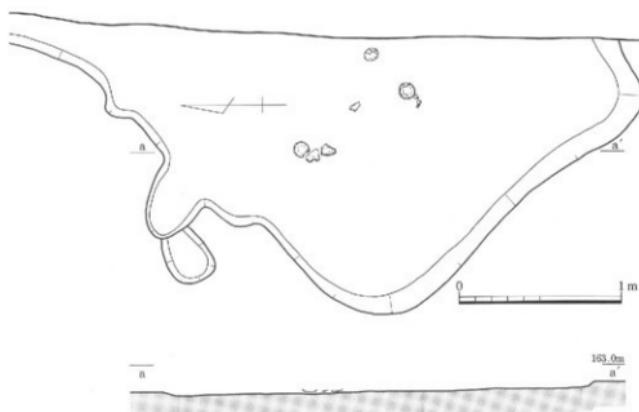
遺物は土師質皿（62）、瓦器皿（63～65）が図示できた。
〔S K 6〕（第24・25図、図版8・41・42）

第2調査区の北側東端に位置する。東側は調査区外に広がり、遺構の全容は不明である。削平を受けているため、深さは浅い。規模は検出長軸7m、検出短軸1.6m、深さ0.03mを測る。底部から瓦器皿・瓦器塊等が出土した。

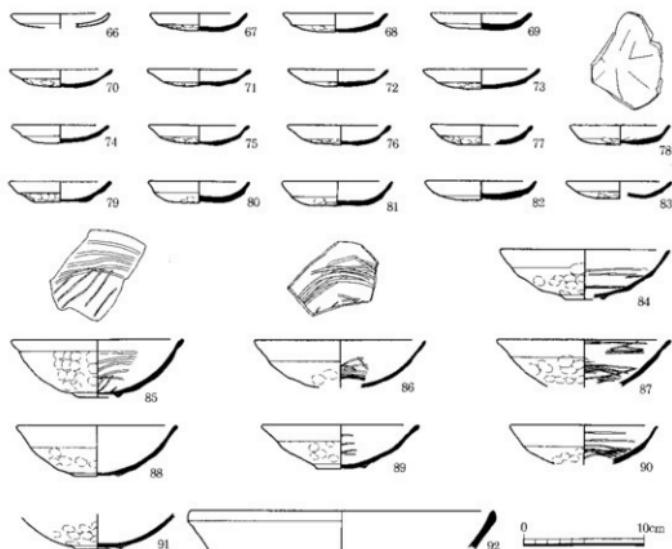
遺物は土師質皿（66）、瓦器の皿（67～83）・塊（84～91）、須恵質練鉢（92）が図示できた。



第23図 S K 5遺構実測図 (1/20)



第24図 S K 6出土遺物実測図 (1/30)



第25図 S K 6出土遺物実測図

〔S K 7〕（第26図、図版42）

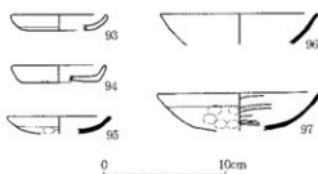
第2調査区の中央東側、S K 6の南西側に近接して位置する。平面形は歪な長椭円形を呈し、土坑の底部は北側で1段深くなっている。規模は長径1.1m、短径0.64m、南側の深さ0.05m、北側の深さ0.15mを測る。底部から瓦器の皿・塊が出土した。

遺物は土師質皿（93・94）、瓦器の皿（95）・塊（96・97）が図示できた。

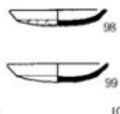
〔S K 8〕（第27図、図版43）

第2調査区の中央、S B 2の中央に位置する。平面形は隅丸の長方形を呈し、土坑の底部は削平を受け、浅くなっている。規模は長辺0.6m、短辺0.5m、深さ0.05mを測る。底部から瓦器皿が出土した。

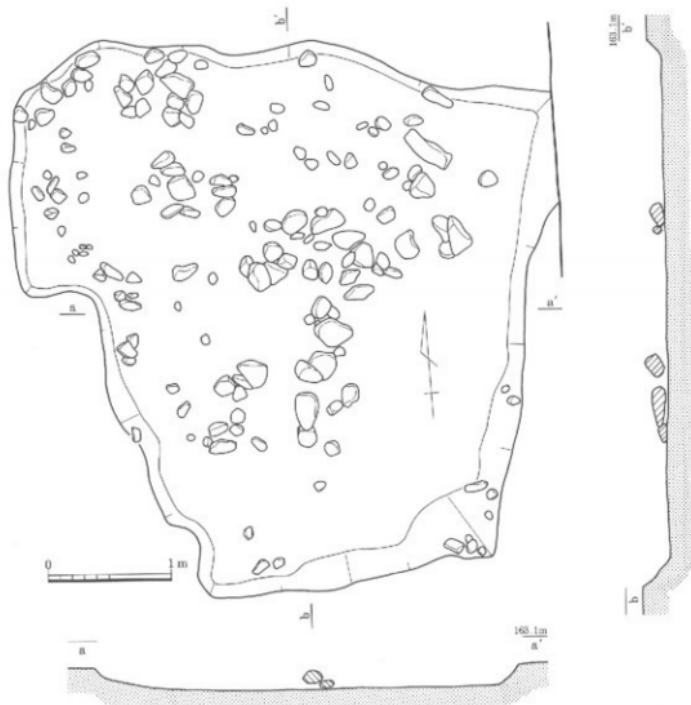
遺物は瓦器皿（98・99）が図示できた。



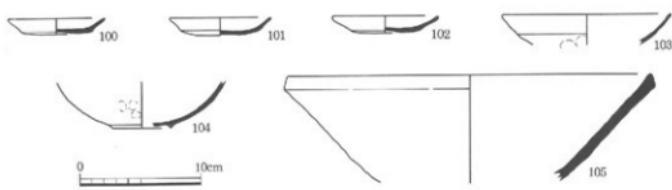
第26図 S K 7出土遺物実測図



第27図 S K 8出土遺物実測図



第28図 SK 9 遺構実測図 (1/40)

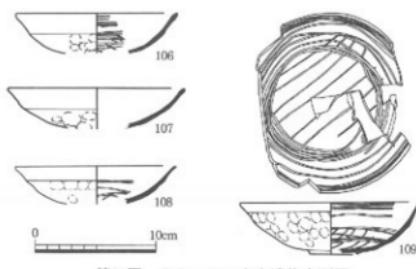


第29図 SK 9 出土遺物実測図

〔SK 9〕（第28・29図、図版8・42・43）

第2調査区の南側、S B 2の南東側に接して位置する。平面形は大型の歪な長方形を呈し、規模は長辺4m、短辺2.4m、深さ0.16mを測る。土坑の底部には最大約 $20 \times 50 \times 60$ cmの川原石が入っており、埋土からは瓦器皿等が出土した。

遺物は瓦器の皿（100～102）・塊（103・104）、須恵質練鉢（105）が図示できた。



第30図 S P 1 ~ 3出土遺物実測図

(5) 遺物出土ピット

〔S P 1〕 (第30図、図版43)

第1調査区の中央西側、S K 2 の北側 1 m に位置する。平面形は円形、断面形は擂鉢状を呈し、規模は径0.5m、深さ0.15mを測る。

遺物は瓦器塊 (106・107) が出土した。

〔S P 2〕 (第30図、図版43)

第2調査区の中央、S B 2 の中央の柱穴の北側に位置し、S B 2 に関連するピットの可能性がある。平面形は円形を呈し、規模は径0.2m、底径0.15m、深さ0.2mを測る。

遺物は瓦器塊 (108) が出土した。

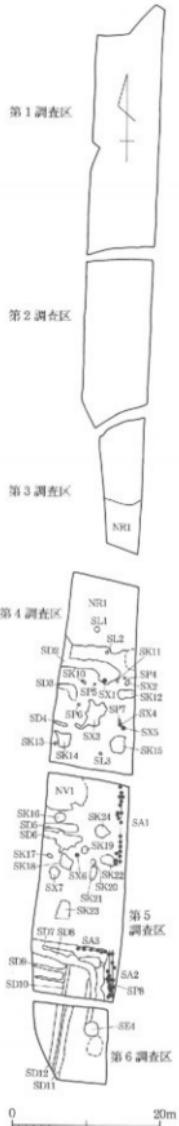
〔S P 3〕 (第30図、図版43)

第2調査区の中央西側、S B 2 の西側0.6mに位置し、S B 2 に関連するピットの可能性がある。平面形は円形を呈し、規模は径0.45m、底径0.3m、深さ0.4mを測る。肩部で川原石が3点検出された。

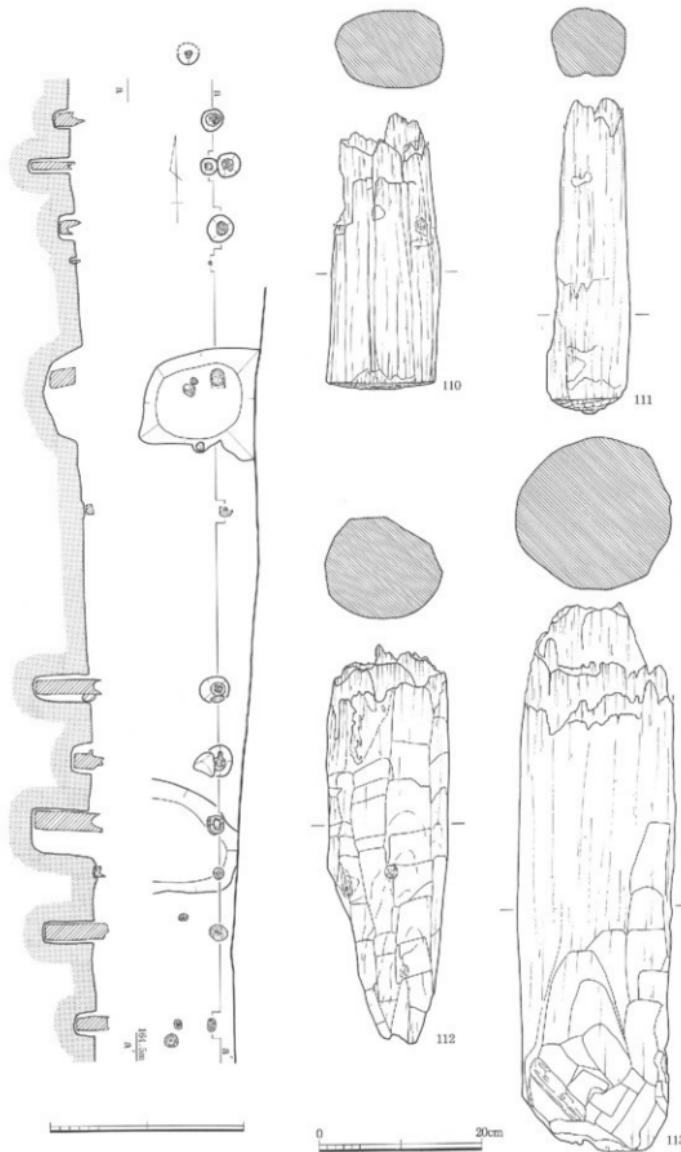
遺物は瓦器塊 (109) が出土した。

第3節 第2次遺構群

第4調査区から第6調査区を中心に、柱列(塙)3、井戸1、溝11、土坑15、祭祀遺構7、谷地形1、自然流路1、埋甕3などが検出された。この遺構面を覆うように焼土層が確認された。



第31図 第2次遺構群
遺構配置模式図



第32図 SA 1 遺構実測図 (1/50) 及び出土遺物実測図

(1) 柱列(塀)

第5調査区を中心に検出された。

[S A 1] (第32図、図版10・43)

第5調査区の北側の東辺に沿って南北に走るのが確認された。第4調査区と第5調査区の境から南に10m伸びる。柱間は北から約5間(4m)まで0.5~1m間隔で、約2m開いて5間分(3m)が0.5m間隔である。柱の径は平均約15cmで、掘形はそれよりも若干広いだけである。

柱(110~113)が図示できたが、その他の遺物は出土しなかった。

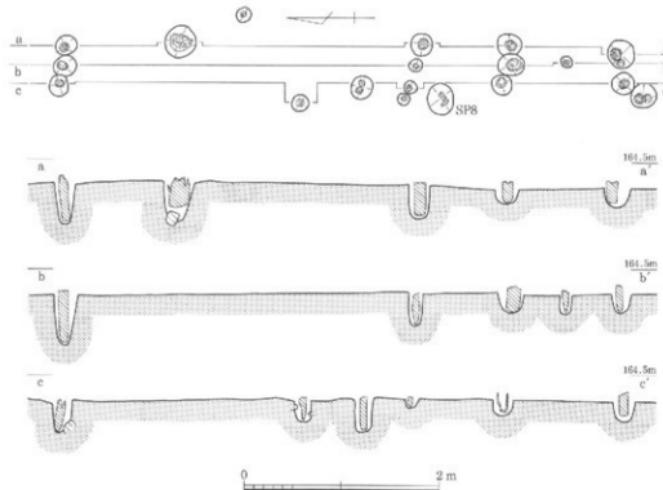
[S A 2] (第33図)

第5調査区の南側の東辺に沿って南北に走るのが確認された。S A 1から南へ12mの位置から南に6m伸び、南側はさらに第5調査区と第6調査区の境とする畦畔に伸びる。柱列は3列確認された。東側列は4間分で柱間は北から1.2m・2.5m・1m・1.1mである。中央柱列も4間で、北から3.5m・1m・0.5m・0.6mである。西側柱列は5間で北から2.5m・0.6m・0.5m・1m・1.2mである。以上の3列を見ると北から第1の柱と南端の柱、さらに南端から1.1mと2.1mの柱の並びが共通する。

遺物は出土しなかった。

[S A 3]

第5調査区の南側で、S D 7の北辺に平行して東西に走るのが確認された。S A 2の北端から西に4m伸びる。柱列は5間分で、柱間は東から0.2m・0.2m・0.4m・0.5m・



第33図 S A 2 遺構実測図 (1/50)

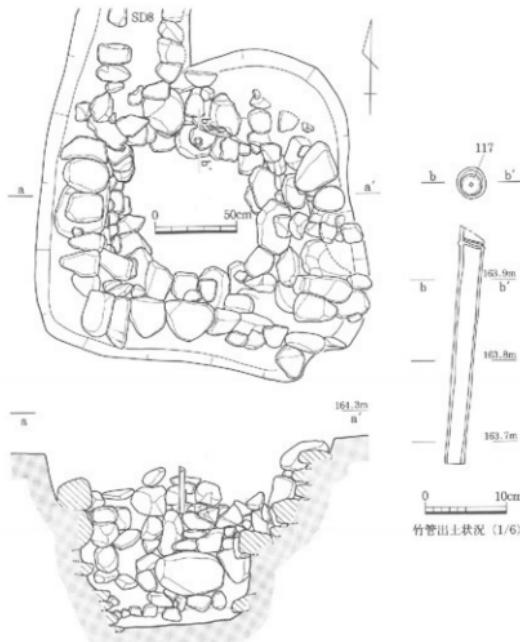
0.4mを測る。平面形から見て S A 2 と S A 3 は一体となる可能性が高い。前者の柱間が若干広いだけである。

遺物は出土しなかった。

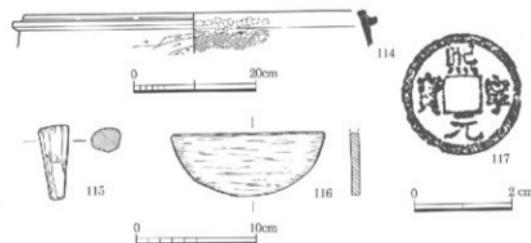
(2) 井戸

[S E 4] (第34・35図、図版11・44)

第6調査区の北東端に位置する。平面形が方形を呈する石組井戸で、井戸の北側から S D 8 が北にのびている。規模は1辺1m、深さ1mを測り、底部になるほど石組は円形となり、底径0.8mを測る。石組は亜角礫の川原石を平坦面を揃えて積み、最上段では方形に築かれている。特に南側と西側の辺



第34図 S E 4 遺構実測図 (1/30)



第35図 S E 4 出土遺物実測図

は直線上に並べられている。石は最大30×40×40cmのものを使用している。また、埋土からこの井戸は人工的に埋め戻したようで、井戸底から0.8m上位で長さ30cm、径2.5cmの竹が立てられ、最上部には熙寧元寶が差し込まれていた。

遺物は瓦質の井戸枠(114)、木製品(115・116)、竹管に差し込まれていた熙寧元寶(北宋 初鑄1068)(117)が図示できた。

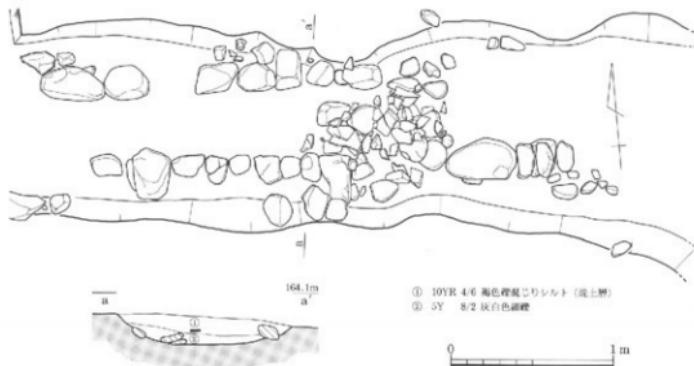
(3) 溝

素掘り溝、石組溝、素掘り+石組溝などが検出された。

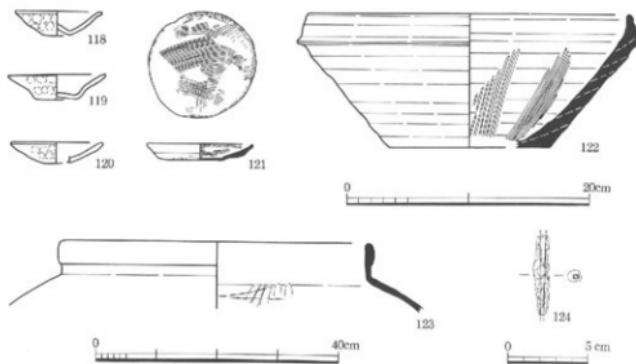
〔S D 2〕 (第36・37図、図版12・44)

第4調査区の中央で東西に7.6m検出され、西側は調査区外に伸びる。西端から5mは平均幅1.4mで東に走り、石組が成されていたようであるが、残存状態はよくない。石組部分は内法幅0.4m、深さ0.2mを測る。使用されている石は最大で約20×25×40cmの川原石である。東端は膨らみ、最大径3mの円形を呈する。この東端部分でS X 1が検出された。埋土は2層に分けられ、上層は褐色礫混じりシルトで多量の焼土を含んでいる。下層は灰白色の細礫層であった。

遺物は土師質皿(118~120)、瓦質皿(121)、備前の捕鉢(122)・甕(123)、鉄釘(124)が図示できた。



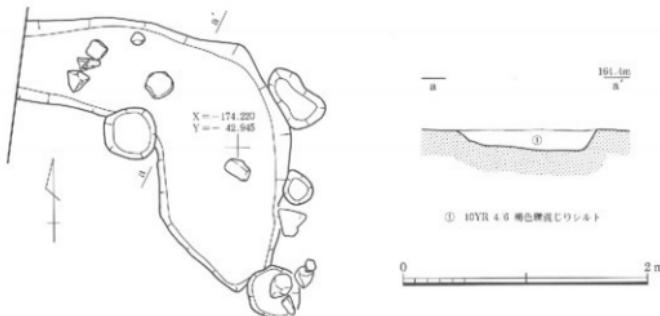
第36図 S D 2 石組部分遺構実測図 (1/30)



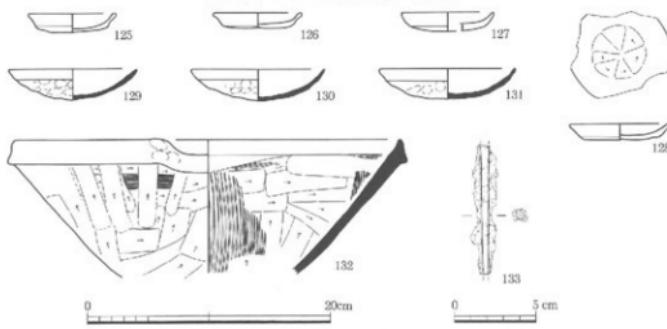
第37図 S D 2 出土遺物実測図

[SD 3] (第38・39図、図版12・44・45)

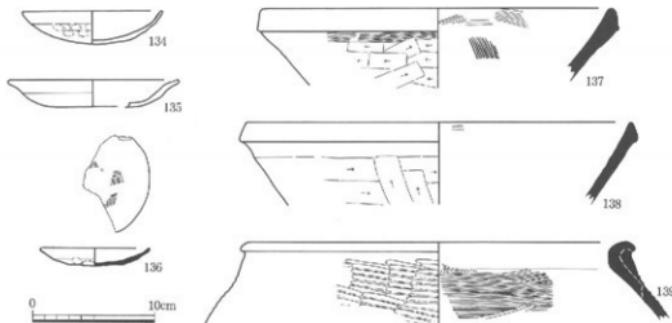
第4調査区の中央西端、SD 2 の南側2.5mに位置し、西側は調査区外にのびる。素掘りの溝で調査区の西端から1.5m東に伸びた後、南に屈曲し終わる。規模は検出長3.2m、



第38図 SD 3 遺構実測図 (1/40)



第39図 SD 3 出土遺物実測図



第40図 SD 4・5 出土遺物実測図

最大幅1.2m、深さ0.18mを測る。

遺物は土師質皿（125～128）、瓦質土器の皿（129～131）・擂鉢（132）、鉄釘（133）が図示できた。

〔SD4〕（第40図、図版45）

第4調査区の南側西端、SD3の南側4mに位置し、西側は調査区外に伸びる。素掘りの溝で調査区の西端から1.8m東に伸びる。規模は最大幅0.4m、深さ0.1mを測る。



第41図 SD5・6 遺構実測図 (1/30)

遺物は土師質皿（134）が図示できた。

[S D 5] （第40・41図、図版45）

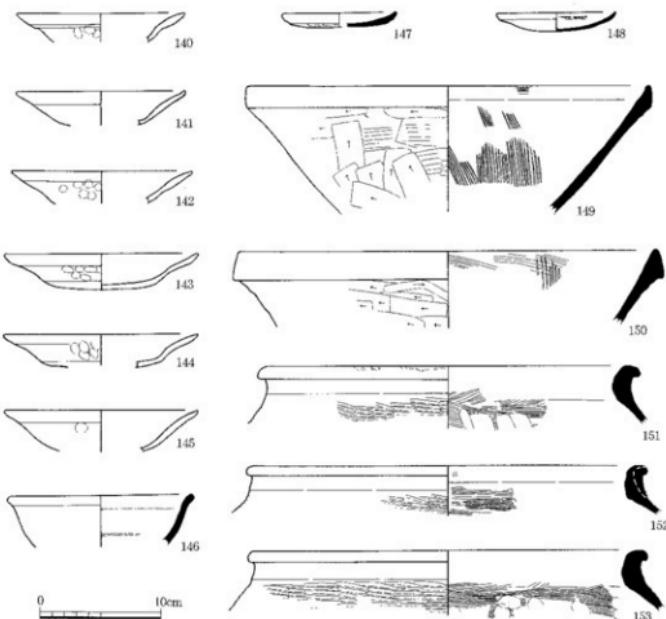
第5調査区の北側西端に位置する。主軸方向N-86°-Wで走る石組溝で、調査区の西端から東側に4.2m検出され、西側は調査区外に伸びる。石組は殆ど崩壊しているが、北側側面が3m程度残存し、約20×20×30cmの川原石による1段ないし2段積みのようである。規模は内法幅0.2m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質皿（135）、瓦質土器の皿（136）・擂鉢（137・138）・甕（139）が図示できた。

[S D 6] （第41・42図、図版13・45）

第5調査区の北側西端、S D 5の南側1mに位置する石組溝で、調査区の西端から東側に4.8m検出された。西側は調査区外に伸びる。石組は殆ど崩壊しているが、辛うじて東側端から約2.8m残存していた。石組部分は約10×15×20cmの川原石による1段ないし2段積みのようである。規模は石組部分の内法幅0.5m、深さ0.2m、素掘り部分の幅0.9m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質皿（140～145）、瓦質の皿（147・148）・擂鉢（149・150）・甕（151～153）、肥前系磁器染付碗（146）が図示できた。

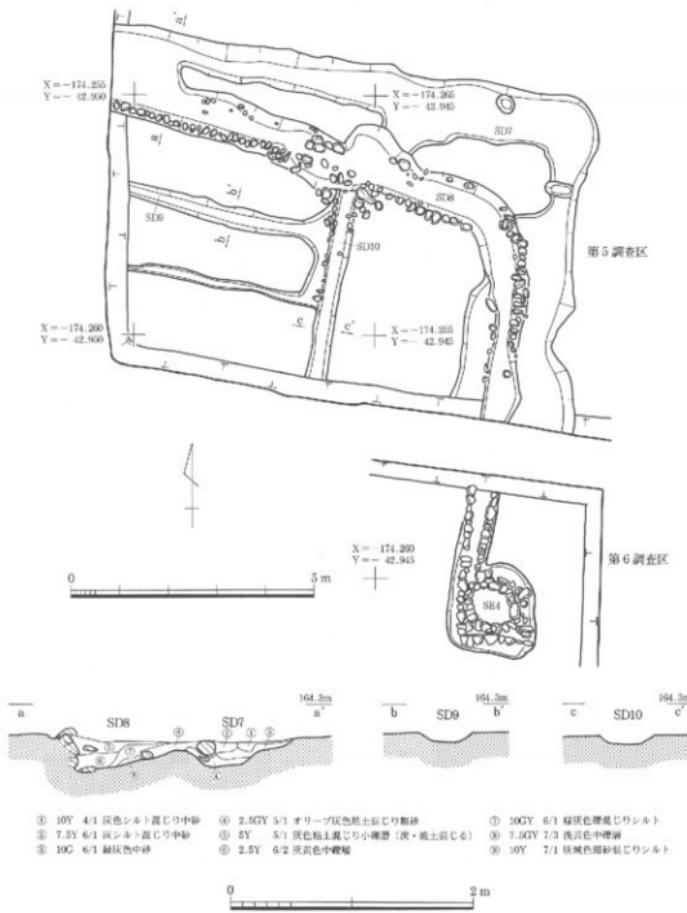


第42図 S D 6 出土遺物実測図

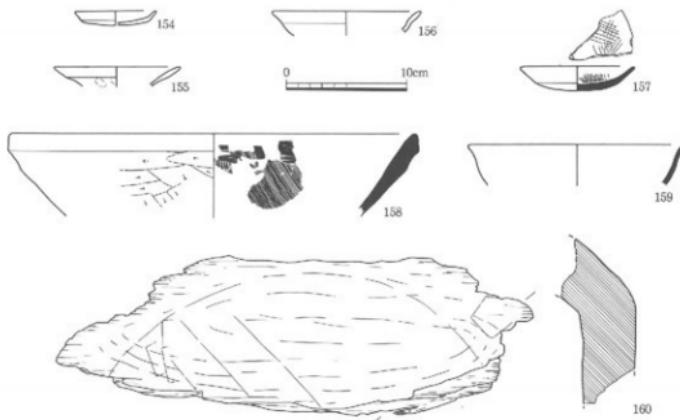
[SD 7] (第43・44図、図版13・46)

第5調査区の南側に位置する素掘りの溝である。溝は調査区の南端から約9°東に振りながら北に6.5m走った後、直角に西に屈曲して10m走り、調査区外に伸びるようである。溝はSD 8と重複し、切られている。規模は検出長16.5m、最大幅2m、深さ0.2mを測る。

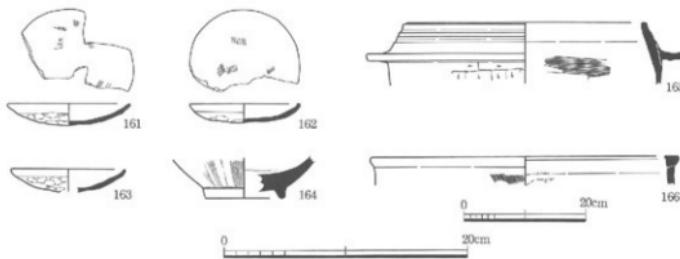
遺物は土師質皿（154～156）、瓦質の皿（157）・擂鉢（158）、青磁碗（159）、不明木製品（160）が図示できた。



第43図 SD 7～10遺構実測図 (平面1/100・断面1/40)



第44図 SD 7出土遺物実測図



第45図 SD 8出土遺物実測図

[SD 8] (第43・45図、図版13・46)

第5調査区の南側から第6調査区の北側にかけて位置する石組溝である。溝は第6調査区のSE4から約5°東に振りながら北に7m走った後、北に20°振りながら西に9m走り、調査区外に伸びるようである。溝はSD 7と重複し、切っている。石組は南側辺の残存がよく、約10×15×20cmの川原石により最大3段積まれていた。規模は検出長16m、最大幅0.9m、深さ0.5mを測る。

遺物は瓦質の皿(161～163)・土釜(165)・井戸枠(166)、青磁碗(164)が図示できた。

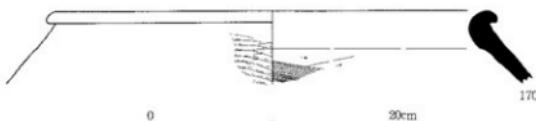
[SD 9] (第43・46図、図版13・46)

第5調査区の南側に位置する素掘りの溝で、SD 8の南側約1.2mを平行して東西に走る。東側はSD 10と重複し、西側は調査区外に伸びる。規模は検出長4.3m、最大幅0.4m、深さ0.11mを測る。

遺物は土師質の皿(167)・土釜(168)、常滑窯(169)が図示できた。



第46図 SD 9出土遺物実測図



第47図 SD 10出土遺物実測図

[SD 10] (第43・47図、図版13・46)

第5調査区の南端に位置する素掘りの溝で、SD 7・8の南北辺に平行して南北に4m走る。北側はSD 8に切られ、南側は調査区外に伸びる。規模は幅0.4m、深さ0.1mを測る。溝の西側辺には一部石組が見られる。

遺物は瓦質甕(170)が図示できた。

[SD 11] (第48図、図版14)

第6調査区のやや西側よりに位置し、東に約10°振りながら平行して南北に走る2条の石組溝のうちの東側である。両端とも調査区外に伸びるが、第5調査区では該当する石組溝は確認されず、西か東に屈曲するようである。石組は最大10×20×20cmの川原石を1段ないし2段積み上げている。規模は検出長10m、内法幅0.3m、深さ0.15mを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

[SD 12] (第48図、図版14)

SD 11と平行して南北に走る石組溝である。両端とも調査区外に伸びるが、崩壊が激しく旧状を留めない。検出長は9mを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

(4) 土坑

[SK 10] (第49図、図版46)

第4調査区の中央西側、SD 2の南側2mに位置する。平面形は歪な長椭円形を呈し、規模は長径0.65m、短径0.3m、深さ0.1mを測る。主軸方向はN-45°-Wを示す。

遺物は土師質甕(171)が図示できた。

[SK 11] (第49図、図版46)

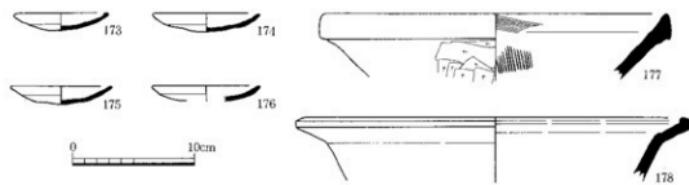
第4調査区の中央東側に位置し、北側はSD 2に切られている。平面形は歪な長椭円形



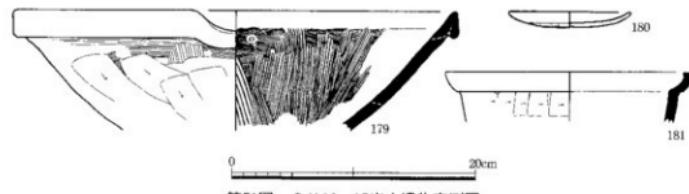
第48図 SD 11・12遺構実測図 (1/50)



第49図 SK 10・11出土遺物実測図



第50図 S K12出土遺物実測図



第51図 S K13~15出土遺物実測図

を呈し、規模は長径0.5m、短径0.35m、深さ0.1mを測る。主軸方向は南北方向を示す。

遺物は瓦質壺（172）が図示できた。

[S K12] (第50図、図版14・46)

第4調査区の中央東端、S K11の南東側2mに位置する。平面形は長楕円形を呈し、東側は調査区外に広がる。規模は検出長径2m、短径0.35m、深さ0.3mを測る。主軸方向は東西方向を示す。埋土は上層がシルトの焼土層、下層が粘土層を成しており、中位に炭層が挟在する。

遺物は瓦質の皿（173～176）・插鉢（177）、鉢（178）が図示できた。

[S K13] (第51図、図版47)

第4調査区の南西端に位置する。平面形は椭円形を呈し、規模は長径0.5m、短径0.3m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦質插鉢（179）が図示できた。

[S K14] (第51図)

第4調査区の南西端、S K13の北東側に近接して位置する。平面形は歪な方形を呈し、規模は長辺1.8m、短辺1.6m、深さ0.2mを測る。主軸方向は南北方向を示す。

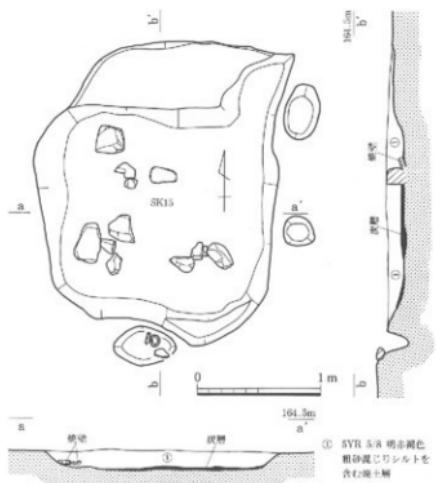
遺物は土師質皿（180）が図示できた。

[S K15] (第51・52図、図版15・47)

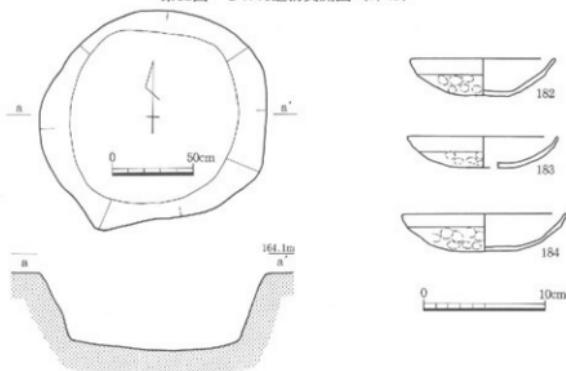
第4調査区の南東端、S K14の東側5mに位置する。平面形は歪な方形を呈し、規模は検出長辺2.5m、短辺2m、深さ0.3mを測る。主軸方向は南北方向を示す。土坑内から最大 $15 \times 20 \times 30\text{cm}$ の亜角礫の川原石が12個出土し、底部には炭層が約0.1m堆積していた。

また、炭層の上層は焼土が充満し、中には焼壁片も見られた。

遺物は瓦質鍋（181）が図示できた。



第52図 SK 15遺構実測図 (1/40)



第53図 SK 16遺構実測図 (1/30)及び出土物実測図

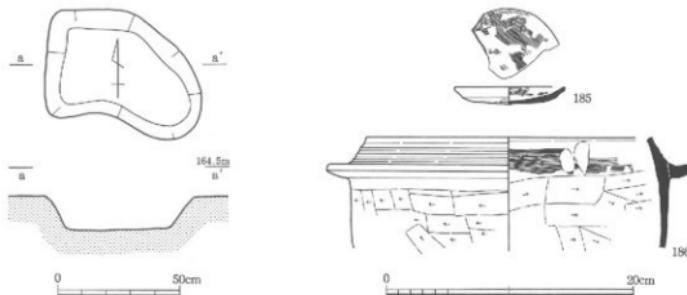
[SK 16] (第53図、図版15・47)

第5調査区の北西側、N V 1の南側に近接して位置する。平面形は円形を呈し、規模は径1.5m、底径1.1m、深さ0.4mを測る。

遺物は土師質皿（182～184）が図示できた。

[SK 17] (第54図、図版47)

第5調査区の中央西側、S D 6の南側5mに位置する。平面形は歪な梢円形を呈し、規模は長径0.75m、短径0.45m、深さ0.15mを測る。



第54図 S K 17遺構実測図(1/20)及び出土遺物実測図

遺物は瓦質の皿(185)・土釜(186)が図示できた。

[S K 18] (第55図、図版47)

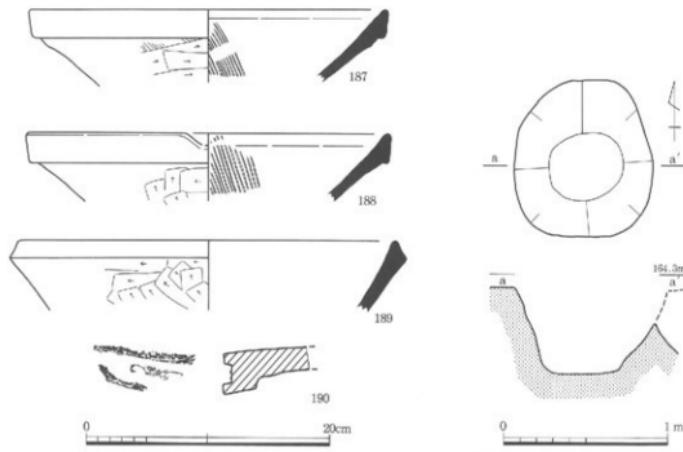
第5調査区の中央西側、S K 17の東側2mに位置する。平面形は歪な菱形を呈し、規模は長軸2.45m、短軸1.8m、深さ0.15mを測る。土坑の周縁には最大 $15 \times 20 \times 30$ cmの亜角礫の川原石が4個置かれていた。

遺物は瓦質擂鉢(187~189)、軒平瓦(190)が図示できた。

[S K 19] (第56・57図、図版47)

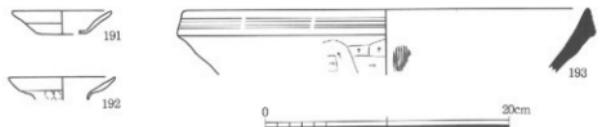
第5調査区の中央、S K 18の北東側2mに位置する。平面形は梢円形を呈し、東側はピットと重複している。規模は長径1m、短径0.85m、深さ0.55mを測る。

遺物は土師質皿(191・192)、瓦質擂鉢(193)が図示できた。



第55図 S K 18出土遺物実測図

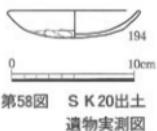
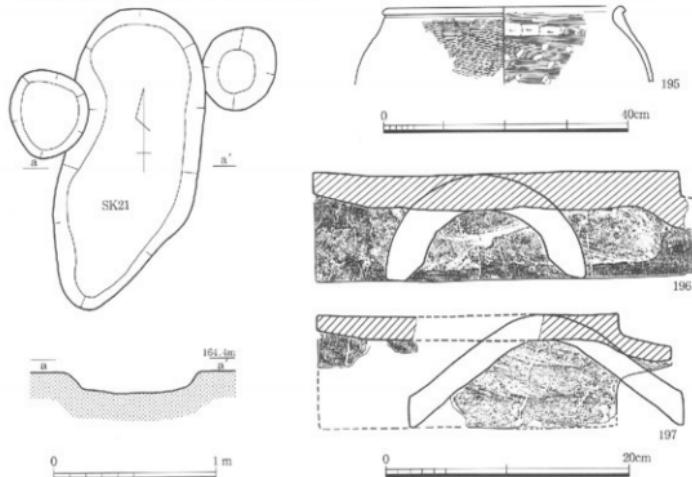
第56図 S K 19遺構実測図(1/30)



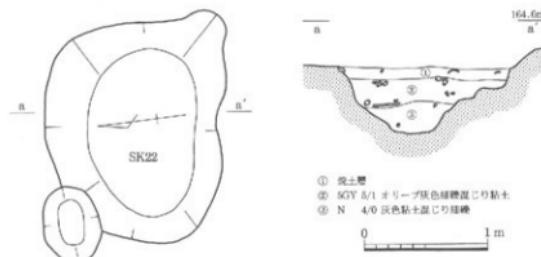
第57図 S K 19出土遺物実測図

[S K 20] (第58図、図版47)

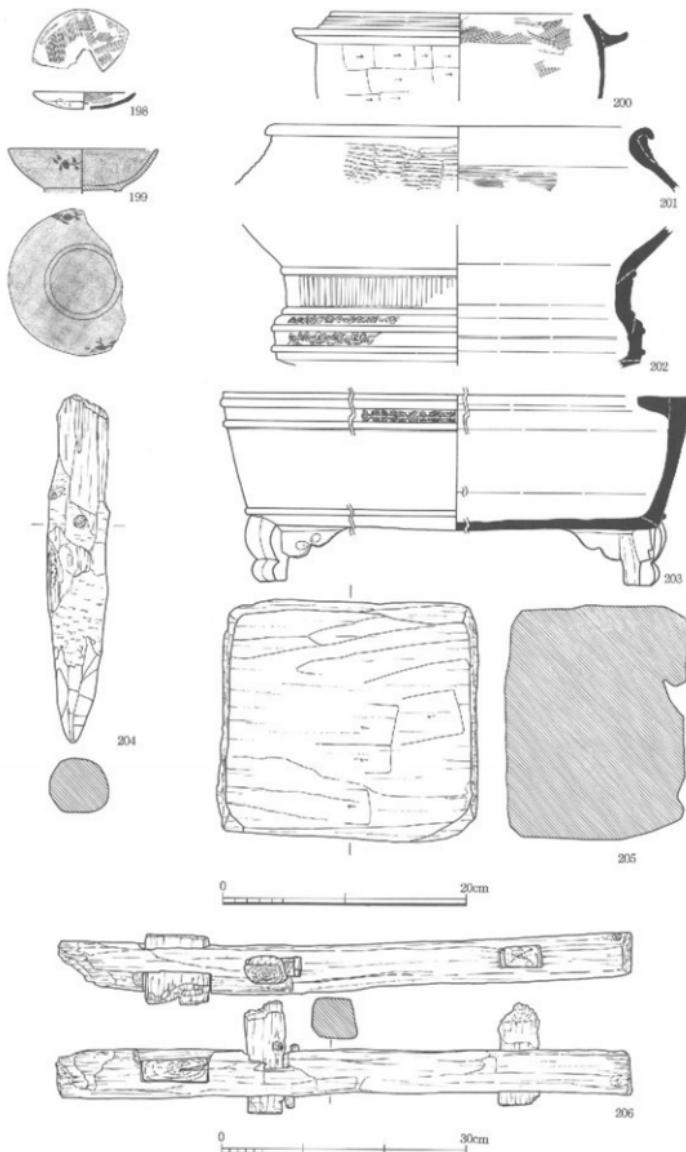
第5調査区の中央、S K 19の南東側1mに位置する。平面形は歪な橢円形を呈し、西側はピットと重複している。規模は長径0.8m、短径0.55m、深さ0.25mを測る。遺物は土師質皿（194）が図示できた。

第58図 S K 20出土
遺物実測図

第59図 S K 21遺構実測図 (1/30) 及び出土遺物実測図



第60図 S K 22遺構実測図 (1/40)



第61図 SK 22出土遺物実測図

[SK21] (第59図、図版16・48)

第5調査区の中央、SK20の南側1mに近接して位置する。平面形は長楕円形を呈し、一部ピットと重複している。規模は長径1.9m、短径0.8m、深さ0.15mを測る。

遺物は土師質甕(195)、丸瓦(196)、雁振瓦(197)が図示できた。

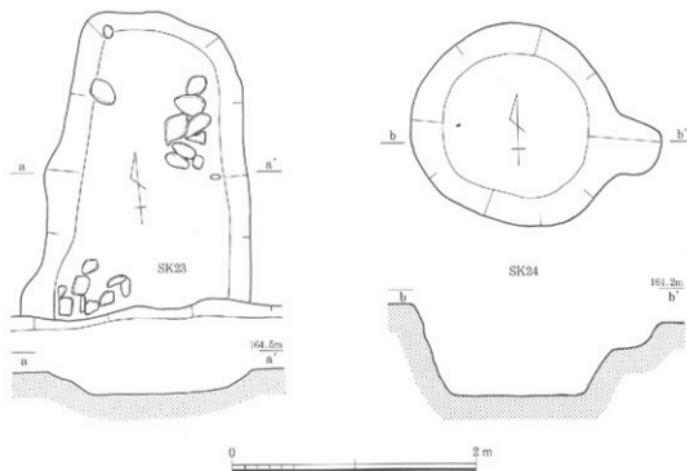
[SK22] (第60・61図、図版16・47・48)

第5調査区の中央東側、SK20の東側1mに位置する。平面形は歪な楕円形を呈し、一部ピットと重複している。規模は長径1.8m、短径1.4m、深さ0.6mを測る。埋土は3層からなり、下層・中層は灰色系の粘土混じり細礫層、上層は焼土層が堆積していた。

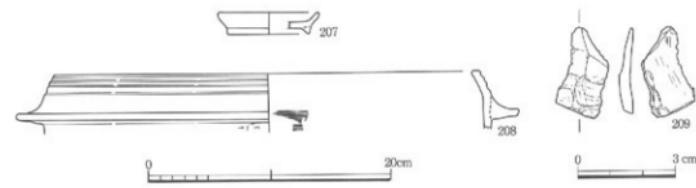
遺物は瓦質の皿(198)・土釜(200)・甕(201)・火鉢(202・203)が図示できた。また、木製品として漆器椀(199)、杭(204)、不明木製品(205)、不明建築部材(206)も出土した。

[SK23] (第62・63図、図版17・47・48)

第5調査区の中央、SK21の南西側4mに位置する。平面形は長方形を呈するが、南側



第62図 SK23・24遺構実測図 (1/40)



第63図 SK23出土遺物実測図

は削平されていた。規模は残存長軸2.5m、短軸1.9m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質の皿(207)・土釜(208)、サスカイトの剥片(209)が図示できた。

〔SK24〕(第62・64図、図版47)

第5調査区の北側中央、S A 1の西側2mに位置する。平面形は梢円形を呈するが、東側に0.4×0.5mの突出部を持つ。規模は長径2.0m、短径1.8m、底径1.2m、深さ0.7mを測る。

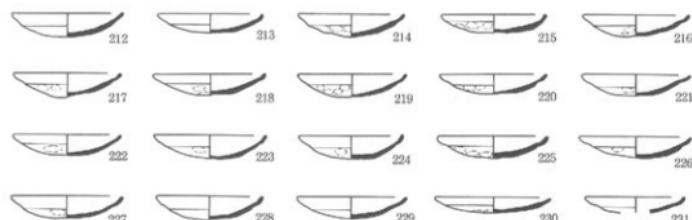
遺物は瓦質擂鉢(210)、須恵質壺(211)が図示できた。須恵質壺の肩には「夫」の字がヘラ書きされていた。

(5) 祭祀遺構

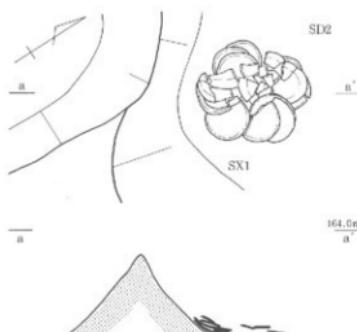
殆どが地鎮祭祀の遺構と考えられる。

〔SX1〕(第65・66図、図版17・49・50)

第4調査区の中央、SD 2の南側底部縁に位置する。20×25cmの範囲で瓦質皿が20枚(212~231)、高さ5cmに積み重ねられた状態で検出された。



第64図 SK24出土遺物実測図



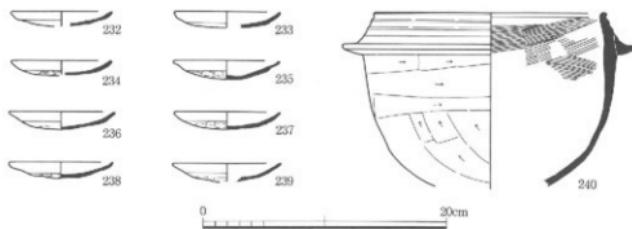
第65図 SX1遺構実測図(1/10)



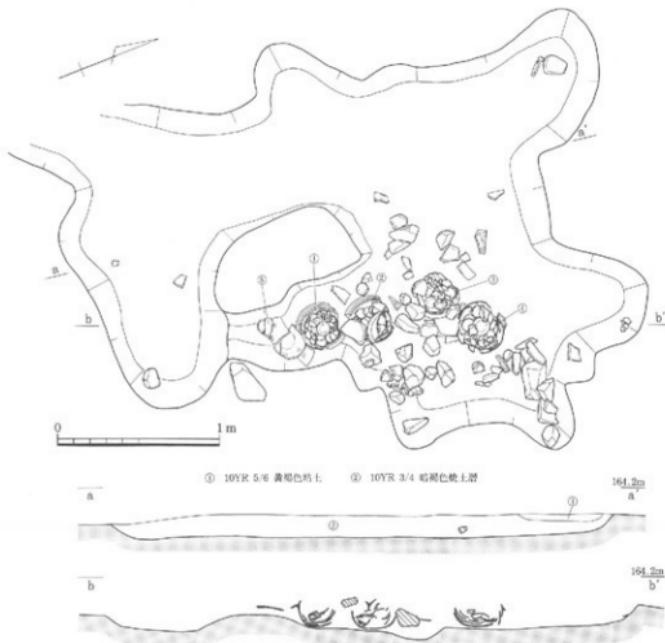
第66図 SX1出土遺物実測図

[S X 2] (第67図、図版50)

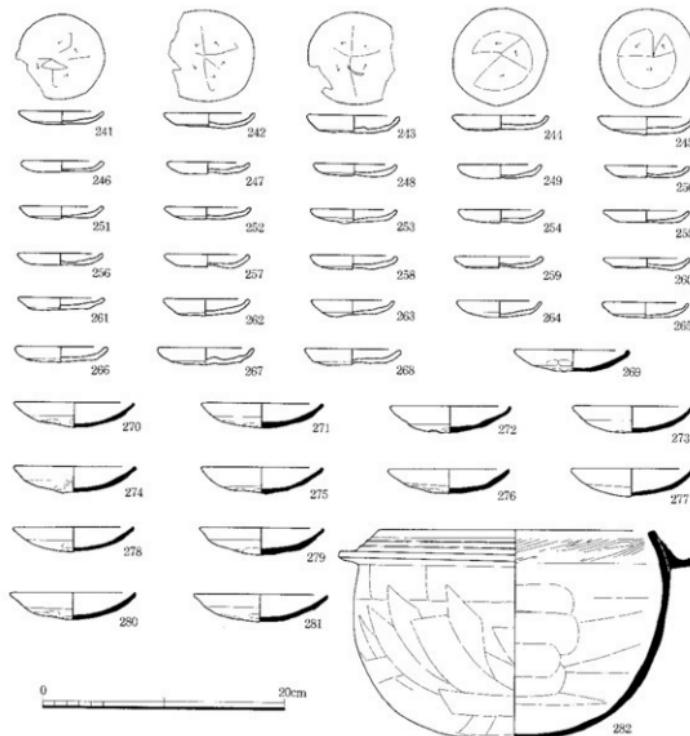
第4調査区の中央東端、S X 1の東側3mに位置する土釜埋納遺構である。土坑の平面形は橢円形を呈し、長径0.8m、短径0.6m、深さ0.1mを測る。銅径24cmの瓦質土釜(240)の中に瓦質皿が埋納されており、8枚が図示できた(232~239)。



第67図 S X 2出土遺物実測図



第68図 S X 3遺構実測図 (1/30)



第69図 S X 3 ①出土遺物実測図

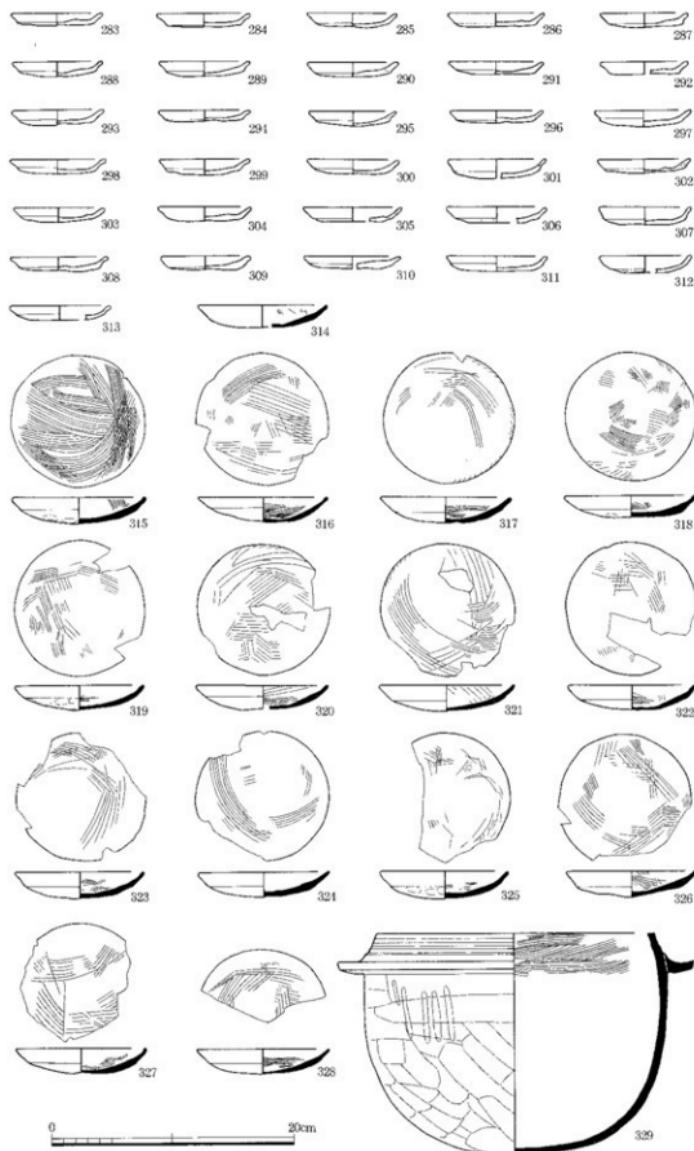
〔S X 3〕（第68～73図、図版18・50～53）

第4調査区のやや南よりの中央に位置し、平面形は不定形な土坑状を呈する。規模は長軸5m、短軸2m、深さ0.2mを測る。埋土は暗褐色焼土層である。この土坑の東側で南北に5カ所の土釜埋納遺構が検出された。いずれも、各時期差をもって埋められたと考えられるが、調査時点では切り合いを示す掘形等は確認できなかった。

S X 3 ①はS X 3 ⑤の北側に切られるように位置する。土師質皿28枚（241～268）、瓦質皿13枚（269～281）が瓦質土釜（282）の中に埋納されていた。

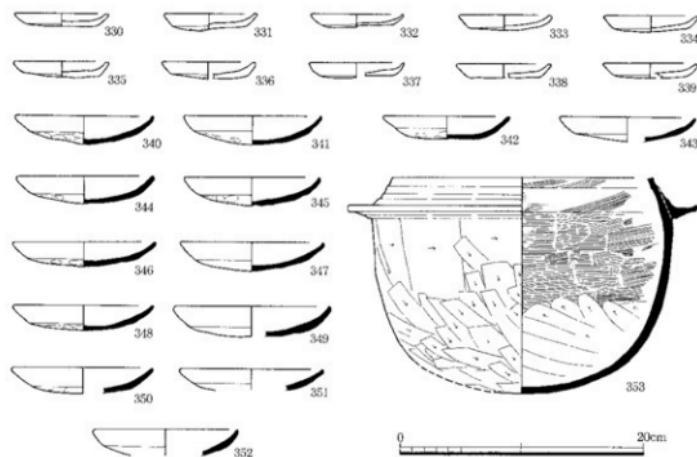
S X 3 ②はS X 3 ①の北側に接するように位置する。土師質皿31枚（283～313）、瓦質皿15枚（314～328）が瓦質土釜（329）の中に埋納されていた。

S X 3 ③はS X 3 ②の北側0.2mに位置する。土師質皿10枚（330～339）、瓦質皿13枚（340～352）が瓦質土釜（353）の中に埋納されていた。

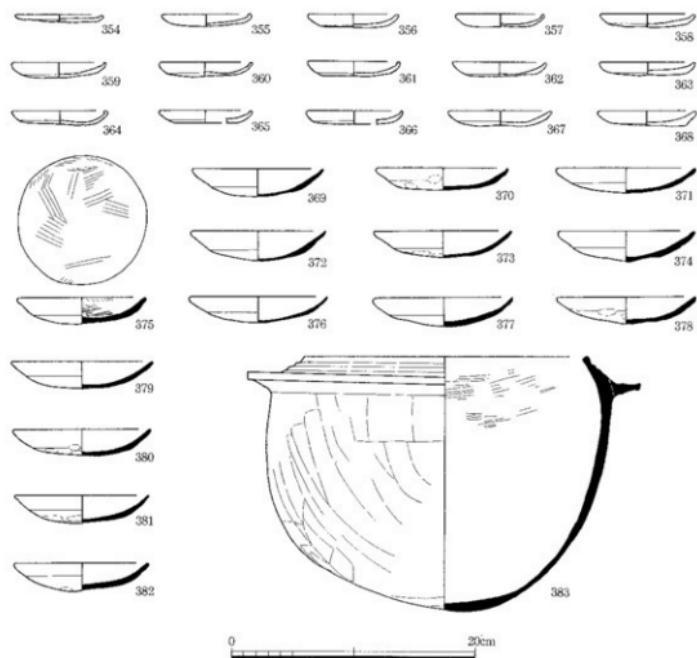


第70図 S X 3②出土遺物実測図

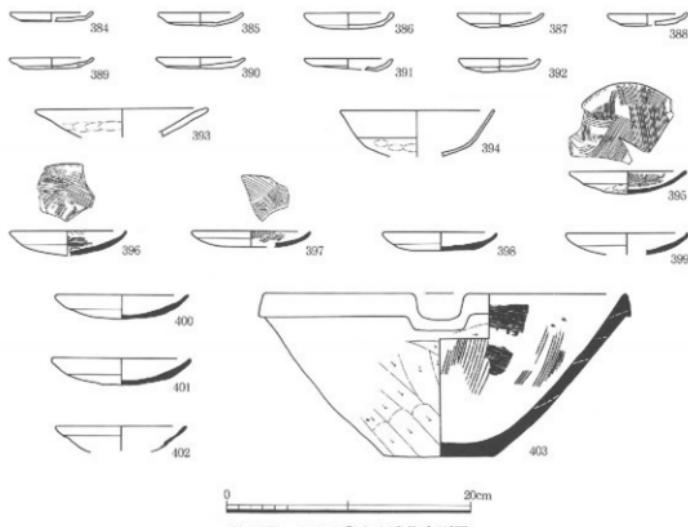
第2次遺構群



第71図 S X 3 (3)出土遺物実測図



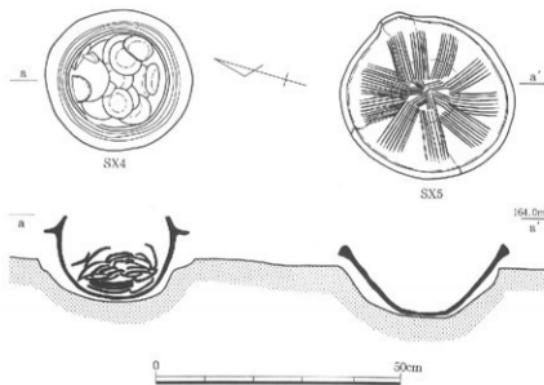
第72図 S X 3 (4)出土遺物実測図



第73図 S X 3 ⑤出土遺物実測図

S X 3 ④はS X 3 ③の北東側に接するように位置する。土師質皿15枚（354～368）、瓦質皿14枚（369～382）が瓦質土釜（383）の中に埋納されていた。

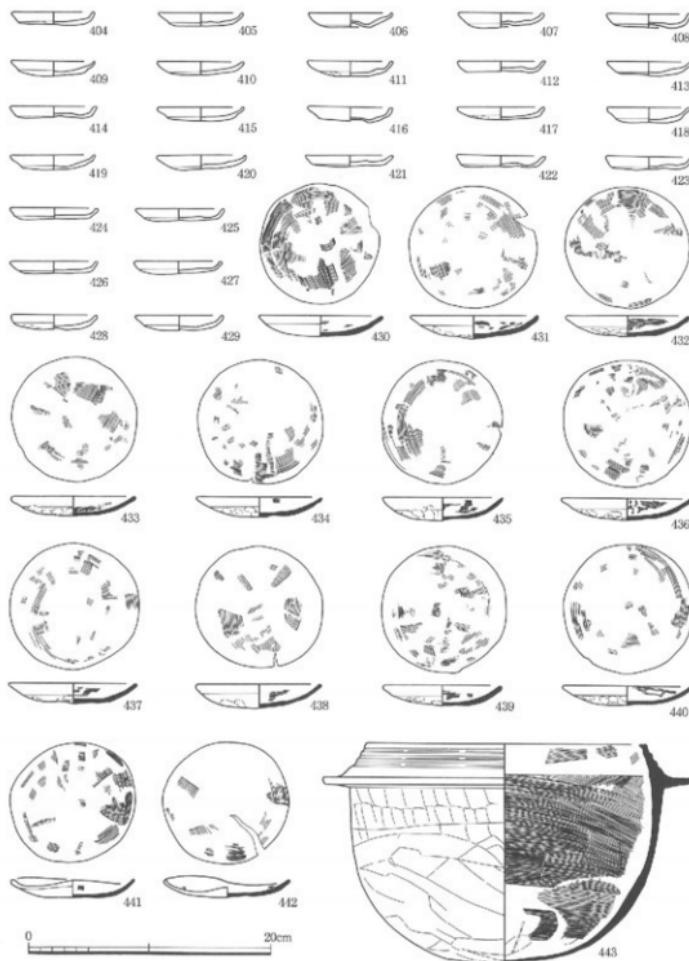
S X 3 ⑤はS X 3 ①を切るように位置する。土師質皿11枚（384～394）、瓦質皿8枚（395～402）が瓦質片口播鉢（403）の中に埋納されていた。



第74図 S X 4 + 5 遺構実測図 (1/10)

[S X 4] (第74・75図、図版19・53)

第4調査区の南東側、S X 3の東側3mに位置する土釜埋納遺構である。土釜を据える為の掘形の平面形は円形を呈し、規模は残存径0.32m、深さ0.1mを測る。掘形は土釜の大きさとほぼ同様である。土師質皿26枚(404~429)、瓦質皿13枚(430~442)が瓦質土釜(443)の中に埋納されていた。



第75図 S X 4 出土遺物実測図

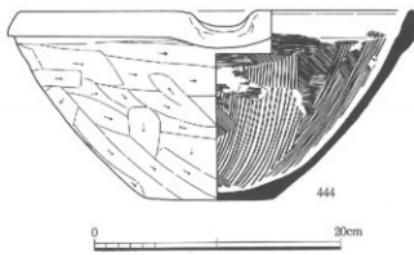
[S X 5] (第74・76図、

図版19・56)

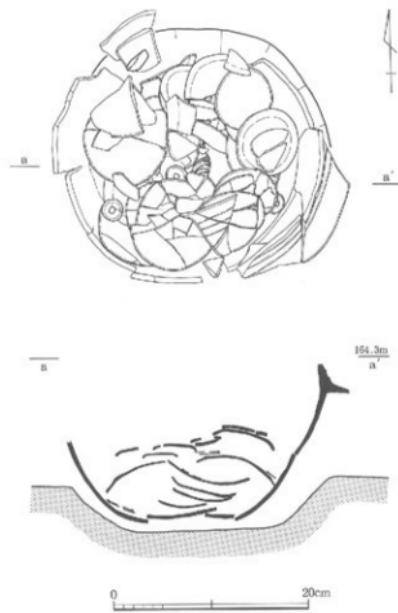
第4調査区の東側、S X 4の南側0.3mに位置し、瓦質片口壺鉢(444)が据えられていた。掘形の平面形は円形を呈し、規模は残存径0.32m、残存の深さ0.1mを測る。この規模はS X 4と同様で、壺鉢の大ささとほぼ同様である。

[S X 6] (第77~80図、第2表、図版20・54)

第5調査区の中央北より、S K 19の南西側1mに位置する土釜埋納遺構である。土釜を据える為の掘形の平面形は円形を呈し、規模は残存径0.27m、残存の深さ0.05mを測る。

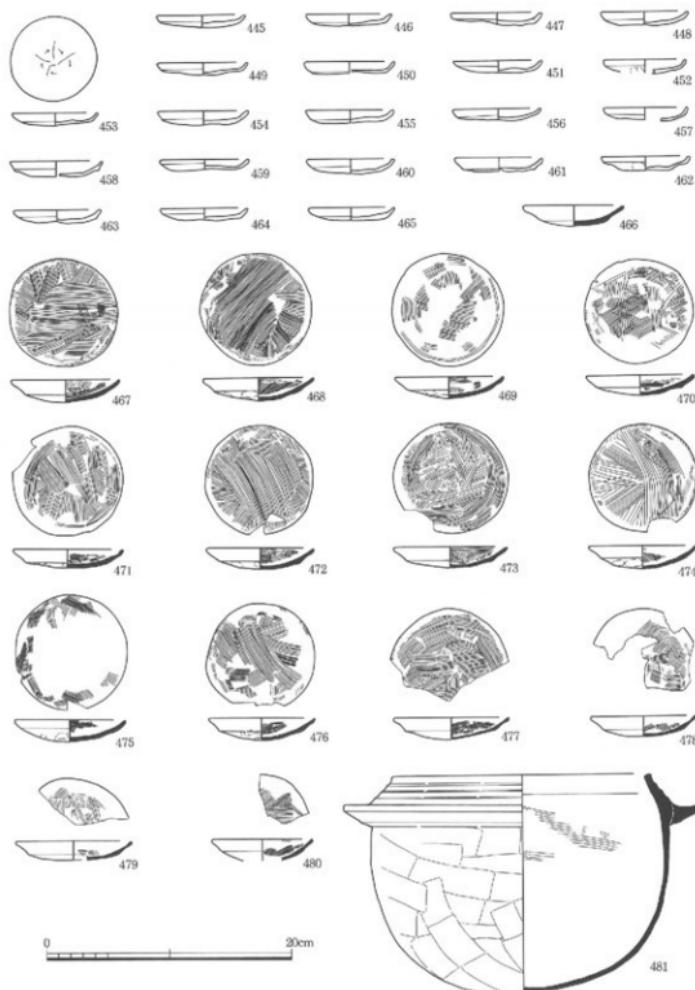


第76図 S X 5出土遺物実測図

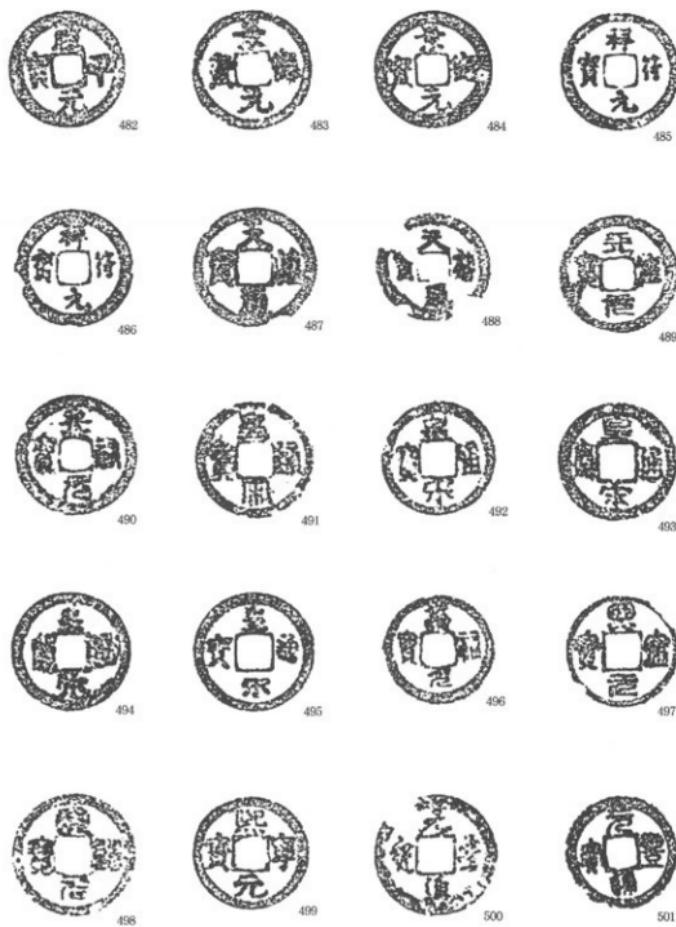


第77図 S X 6遺構実測図 (1/5)

壠形は土釜の大きさとほぼ同様である。土師質皿21枚（445～465）、瓦質皿15枚（466～480）が瓦質土釜（481）の中に埋納されていた。さらに銅鏡が合計40枚（482～521）供伴していた。

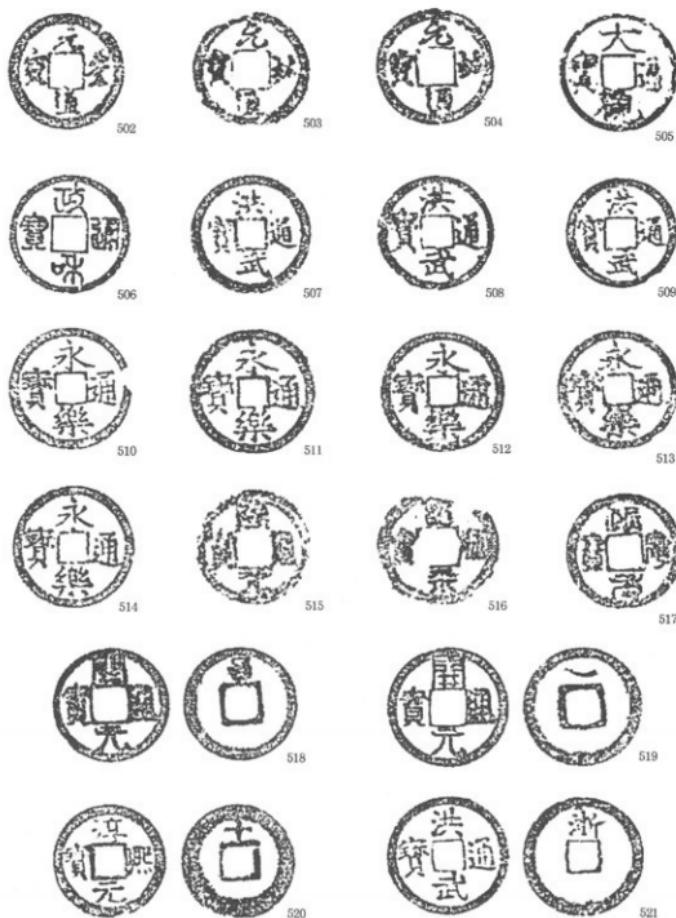


第78図 S X 6 出土遺物実測図



0 10cm

第79図 S X 6 出土輸入銭拓影 (1)



0 10cm

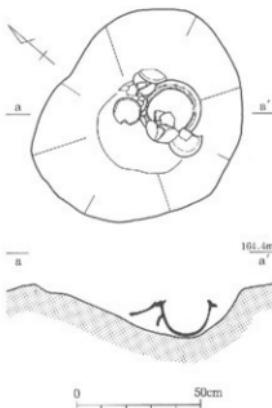
第80図 S X 6 出土輸入銭拓影 (2)

第2表 S X 6 出土輸入銭一覧表

遺物番号	銭貨名	初鑄造年	備考	遺物番号	銭貨名	初鑄造年	備考
482	咸平元宝	998(北宋)		502	元豐通宝	1078(北宋)	
483	景德元宝	1004(北宋)		503	元祐通宝	1086(北宋)	
484	景德元宝	1004(北宋)		504	元祐通宝	1086(北宋)	
485	祥符元宝	1008(北宋)		505	大觀通宝	1107(北宋)	
486	祥符元宝	1008(北宋)		506	政和通宝	1111(北宋)	
487	天禧通宝	1017(北宋)		507	洪武通宝	1368(明)	
488	天禧通宝	1017(北宋)		508	洪武通宝	1368(明)	
489	天聖元宝	1023(北宋)		509	洪武通宝	1368(明)	
490	景祐元宝	1034(北宋)		510	永樂通宝	1408(明)	
491	皇宋通寶	1039(北宋)		511	永樂通寶	1408(明)	
492	皇宋通寶	1039(北宋)		512	永樂通寶	1408(明)	
493	皇宋通寶	1039(北宋)		513	永樂通寶	1408(明)	
494	皇宋通寶	1039(北宋)		514	永樂通寶	1408(明)	
495	皇宋通寶	1039(北宋)		515	熙寧元宝?		不明
496	嘉祐元宝	1056(北宋)		516	□□通寶?		不明
497	熙寧元宝	1068(北宋)		517	熙寧通寶?		不明
498	明道元宝	1032(北宋)		518	開元通寶	621(唐)	背文「昌」
499	熙寧元宝	1068(北宋)		519	開元通寶	621(唐)	背文「一」
500	元豐通宝	1078(北宋)		520	淳熙元宝	1174(南宋)	背文「十」
501	元豐通宝	1078(北宋)		521	洪武通宝	1368(明)	背文「浙」

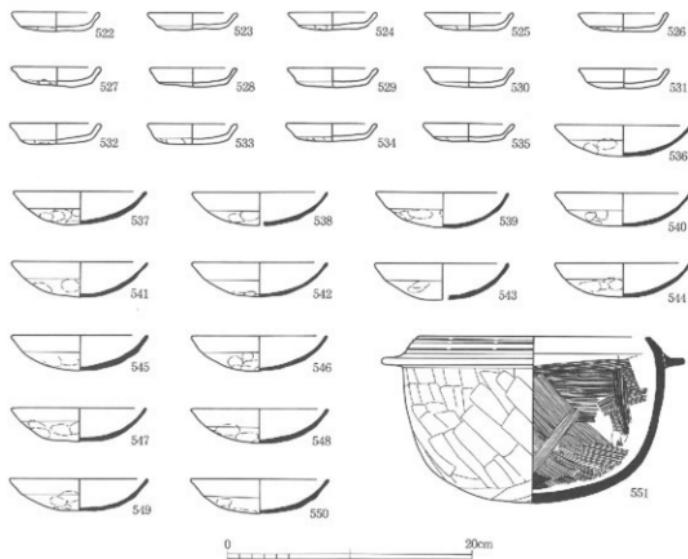
[S X 7] (第81・82図、図版21・55)

第5調査区の中央西側、S X 6の南西側3mに位置する土釜埋納遺構である。土釜を据えるための掘形は他に比べて大きく、平面形が椭円形で、規模は長径0.94m、短径0.72m、深さ0.2mを測る。土師質皿14枚(522~535)、瓦質皿15枚(536~550)が瓦質土釜(551)の中と周囲に埋納されていた。

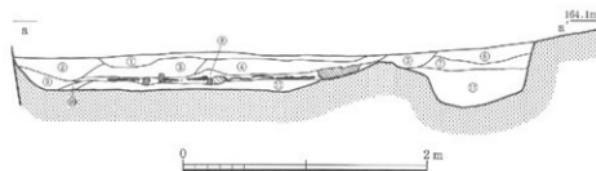
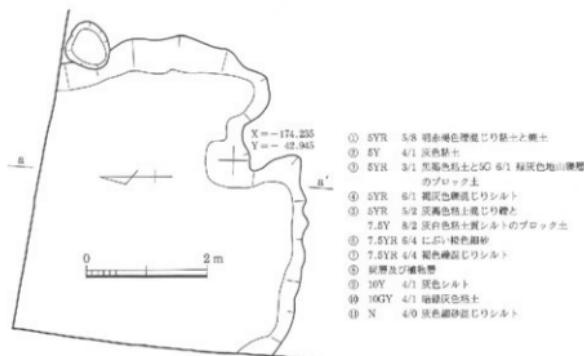


第81図 S X 7 遺構実測図 (1/20)

第2次遺構群



第82図 S X 7出土物実測図



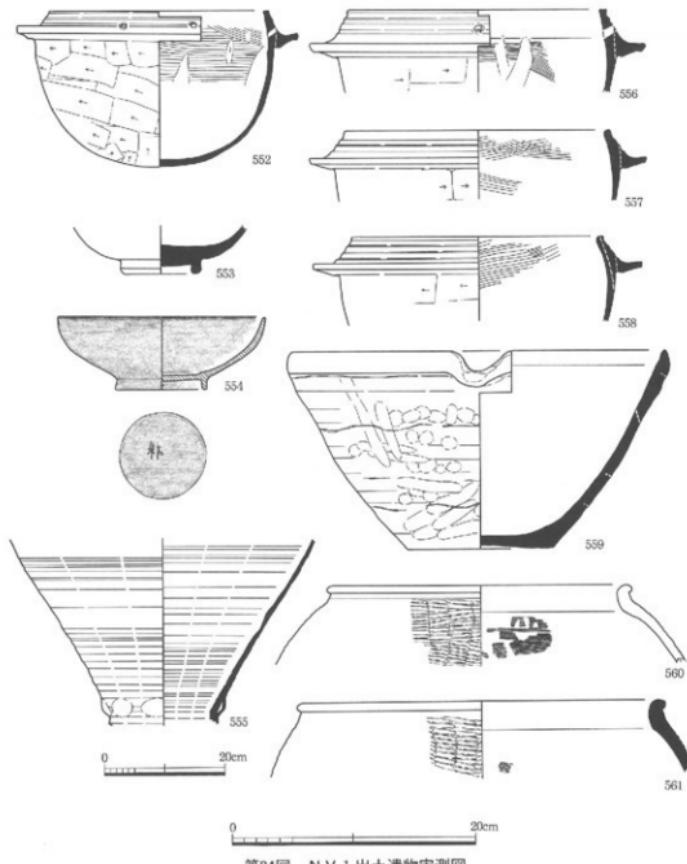
第83図 N V 1 遺構実測図 (平面1/80・断面1/40)

(6) 谷地形

[N V 1] (第83・84図、図版21・55・56)

第5調査区の北西端に位置し、平面形が方形に近い落ち込みであるが、全容は検出されていない。規模は検出長軸5m、検出短軸4.4m、深さ0.48mを測り、北側及び西側は調査区外に広がる。しかし、第4調査区では検出されていない為、長軸は6m位を限ると考えられる。埋土は11層に分層でき、中位に炭層及び植物層が挟在する。主にシルト・粘土・細砂が堆積し、落ち込みが滲水していた可能性が高い。

遺物は土師質甕(560)、瓦質の土釜(552・556～558)・練鉢(559)・甕(561)、青磁碗(553)、褐釉甕(555)、漆器碗(554)が図示できた。



第84図 N V 1 出土遺物実測図

(7) 遺物出土ピット

[S P 4] (第86図、図版57)

第4調査区の中央東側、S X 2 の北西側に近接して位置する。平面形は円形を呈し、規模は径0.28m、深さ0.06mを測る。

遺物は瓦質皿（564）が出土した。

[S P 5] (第86図、図版57)

第4調査区の中央、S X 1 の西側1.5mに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径0.11m、深さ0.08mを測る。

遺物は土師質皿（562）が出土した。

[S P 6] (第86図、図版57)

第4調査区の中央、S X 3 の西側1.5mに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径0.32m、深さ0.13mを測る。

遺物は土師質壺（563）が出土した。

[S P 7] (第86図、図版57)

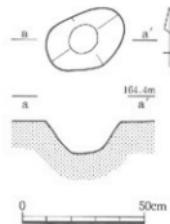
第4調査区の南東側、S X 4 の北側0.6mに位置する。平面形は円形を呈し、規模は径0.32m、深さ0.22mを測る。

遺物は瓦質皿（565）が出土した。

[S P 8] (第85・86図、図版56・57)

第5調査区の南東端、S A 2 に近接して位置する。平面形は梢円形を呈し、規模は長径0.34m、短径0.24m、深さ0.13mを測る。

遺物は瓦質片口縁鉢（566）、漆器椀（567）が出土した。



第85図 S P 8
遺構実測図(1/20)

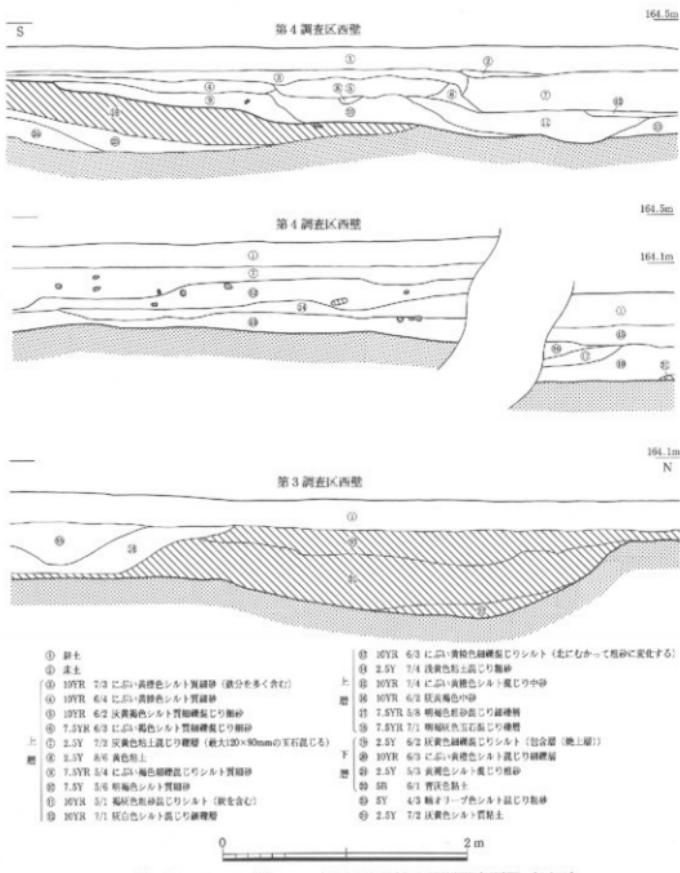


第86図 S P 4～8 出土遺物実測図

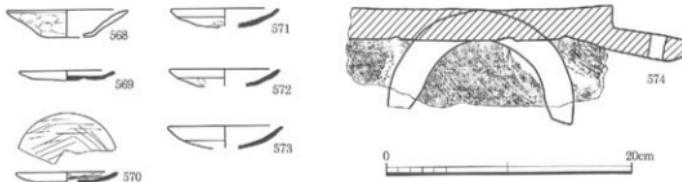
(8) 自然流路

[N R 1 (下層)] (第87・88図、図版22・57)

第3調査区と第4調査区とにまたがる流路で、調査区の西側を北流する西除川に向かって流れる。規模は、幅20m、深さ0.8mを測る。埋土の状況から上下2層に大きく分層でき、下層が第2次遺構群に相当する。分層の難層は焼土を多量に含む灰黄色細礫混じりシルト層で、この層を含む下層は細礫層を中心とし、上層は細砂から細礫、玉石混じりの礫層が中心となっている。このことから、多量の水が流れていることがわかる。



第87図 N R I (第3～4調査区西壁) 土層断面実測図 (1/40)



第88図 N R I (下層)出土遺物実測図

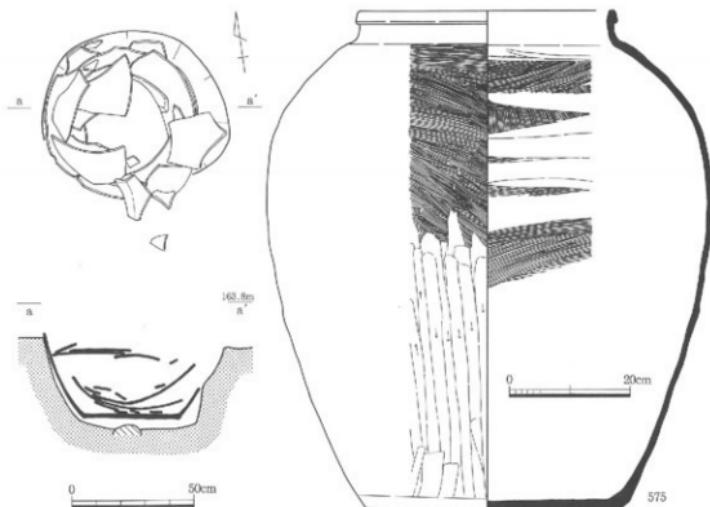
下層から出土した遺物は、土師質皿（568）、瓦質皿（569～573）、丸瓦（574）が図示できた。

(9) 埋甕

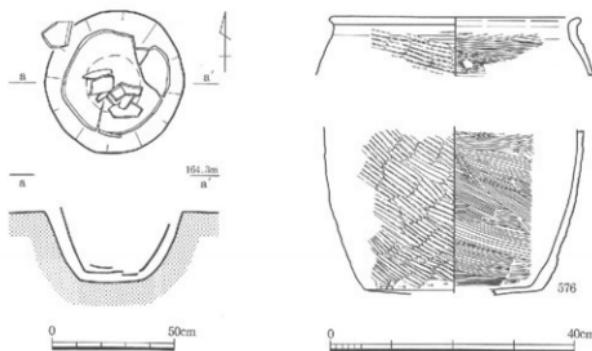
〔S L 1〕 (第89図、図版22・57)

第4調査区の北側、N R 1の南側岸に位置する。備前甕(575)が据えられた状況で検出されたが、上半部は甕内面に落ち込んでいた。掘形の平面形は橢円形を呈し、規模は長径0.78m、短径0.7m、深さ0.4mを測る。

据えられていた甕は口径41cm、底径40cm、器高82cmを測る。



第89図 S L 1 遺構実測図 (1/20) 及び出土遺物実測図



第90図 S L 2 遺構実測図 (1/20) 及び出土遺物実測図

[S L 2] (第90図、図版23・57)

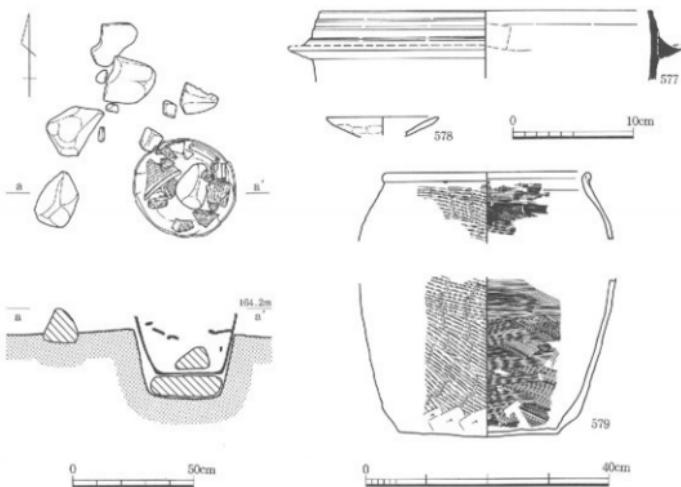
第4調査区の北側、N R 1の南側0.4mに位置する。土師質甕(576)が据えられた状況で検出されたが、上半部は甕内面に落ち込んでいた。掘形の平面形は円形を呈し、規模は径0.6m、深さ0.3mを測る。

据えられていた甕は底径30cm、残存高27cmを測る。

[S L 3] (第91図、図版23・57・58)

第4調査区の南側、S K15の西側1.5mに位置する。土師質甕(579)が、径30cm、厚さ10cmの板石の上に据えられた状況で検出されたが、上半部は甕内面に落ち込んでいた。また、甕の周囲西側から北側に10×20×20cmの川原石が扇状に配され、甕の内部にも石が落ち込んでいた。掘形の平面形は円形を呈し、規模は径0.4m、深さ0.3mを測る。

据えられていた甕は底径26cm、残存高26cmを測る。遺物は甕以外にも土師質皿(578)、瓦質土釜(577)が図示できた。



第91図 S L 3 遺構実測図 (1/20) 及び出土遺物実測図

第4節 第3次遺構群

中世包含層の上面から検出された遺構である。第1調査区から第8調査区にかけて、建物1、井戸5、溝13、土坑3、石組遺構1、落ち込み1、自然流路1、埋桶1、埋甕11などが検出された。この遺構面を覆うように焼土層が確認された。

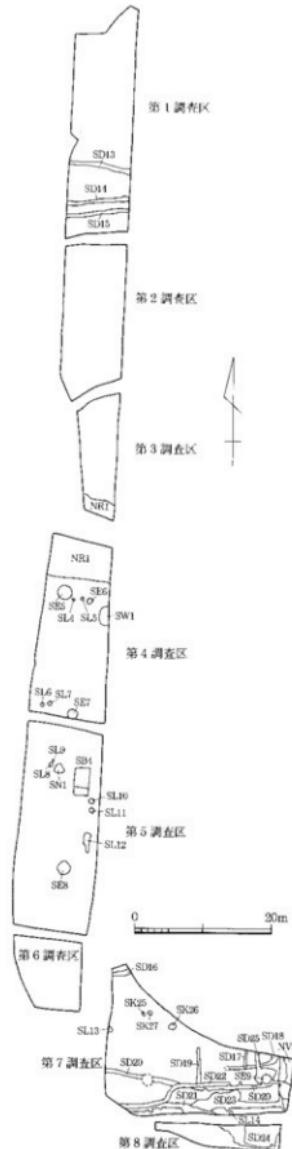
(1) 建物

[S B 4] (第93~97図、図版24・25・58~61)

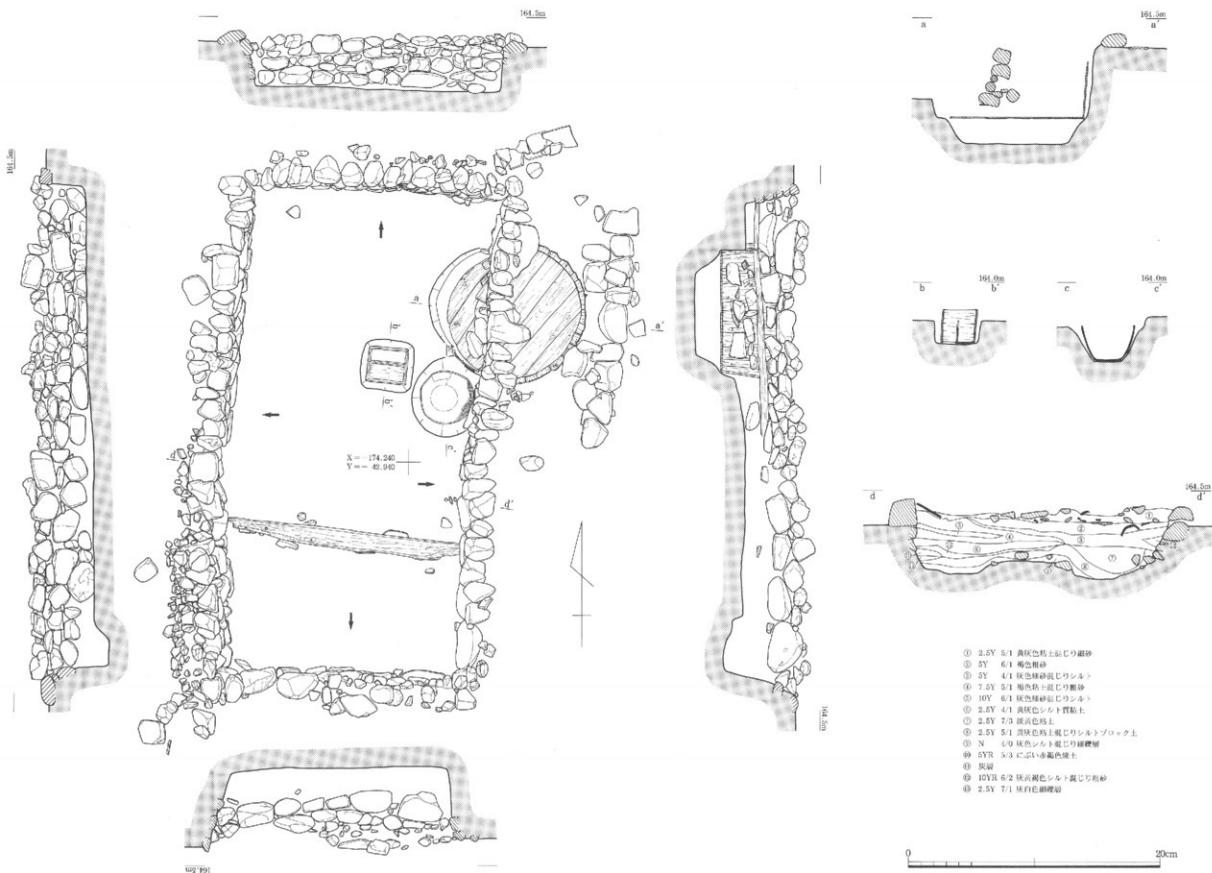
第5調査区の北西側に位置する。建物としたが、平面形が長方形を呈する石組遺構である。遺構の内法は長辺3.75m、短辺1.8m、深さ0.9mを測る。石組は平均5段積みであるが、石材は自然石の川原石で最大20×40×50cmのものを使用している。石組部分は深さ0.9mのうち0.5mである。平行方向はN-85°-Eを示す。

内部は、南側壁から北に1mの底部に径20cmの木材を東西に横たえている。その北側の東壁に接して、土師質甕(581)が径0.6mの掘形に据えられ、また、その西側に接して、元和5年(1619)の墨書きのある仕切りを持つ木製箱(605)が1辺0.4mの方形の掘形に据えられていた。そして、この東壁の北側には1/3を内側に、2/3を外側に出して埋桶が据えられていた。桶の上には径20cmの丸太材が渡され、その上に石組が成されていた。この桶は建物の外側からと内側からとで使用可能ないように置かれたものである。

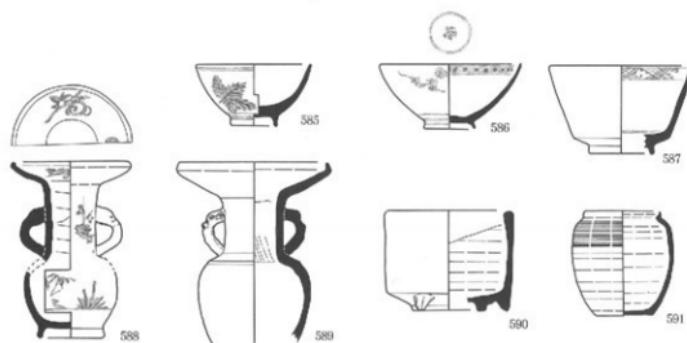
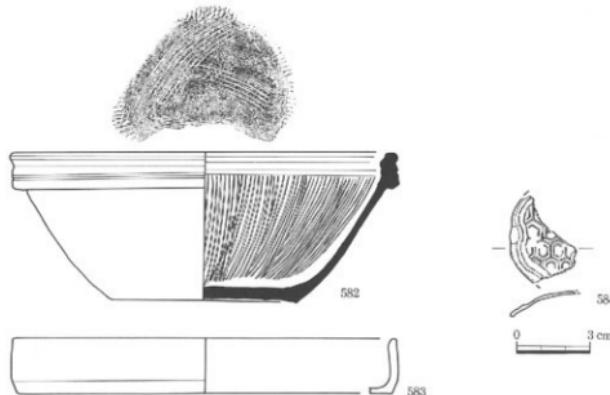
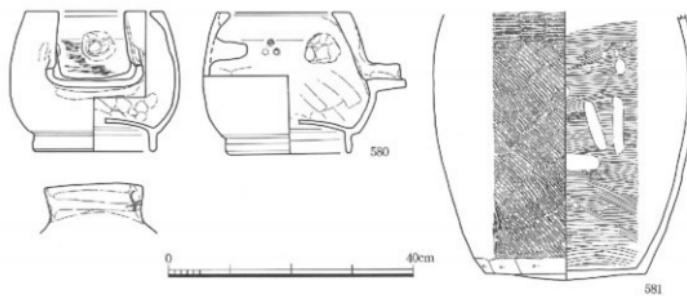
出土遺物には土師質土器、陶磁器類、瓦類、木製品、鉄製品がある。土師質土器では炉(580)・熔炉(583)、陶磁器類では堺播鉢(582)、水注(584)、肥前系磁器染付碗(585~587)・花瓶(588)、青磁の花瓶(589)・香炉(590)、備前窯(591)が図示できた。瓦類は巴文軒丸瓦(592~595)、忍冬唐草文軒平瓦(596~598)がある。木製品は杭先(599)、下駄(600)、ほぞ穴付板状製品(601)、不明木製品(602)、桶状製品底部(603・604)が図示できた。鉄製品は全て釘(606~609)であった。



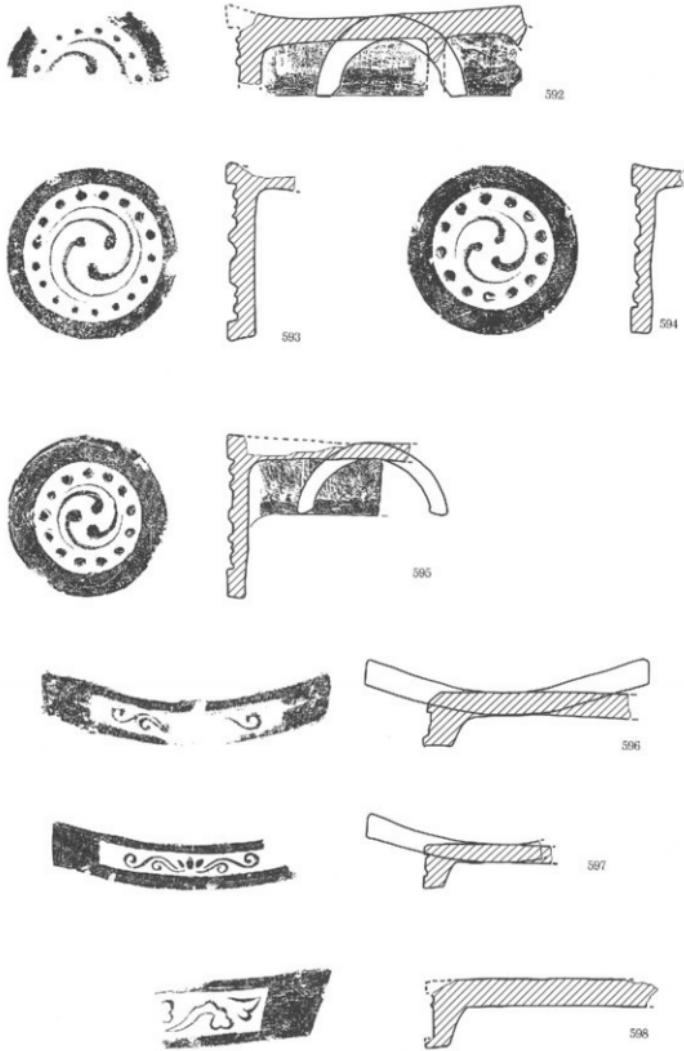
第92図 第3次遺構群遺構配置模式図



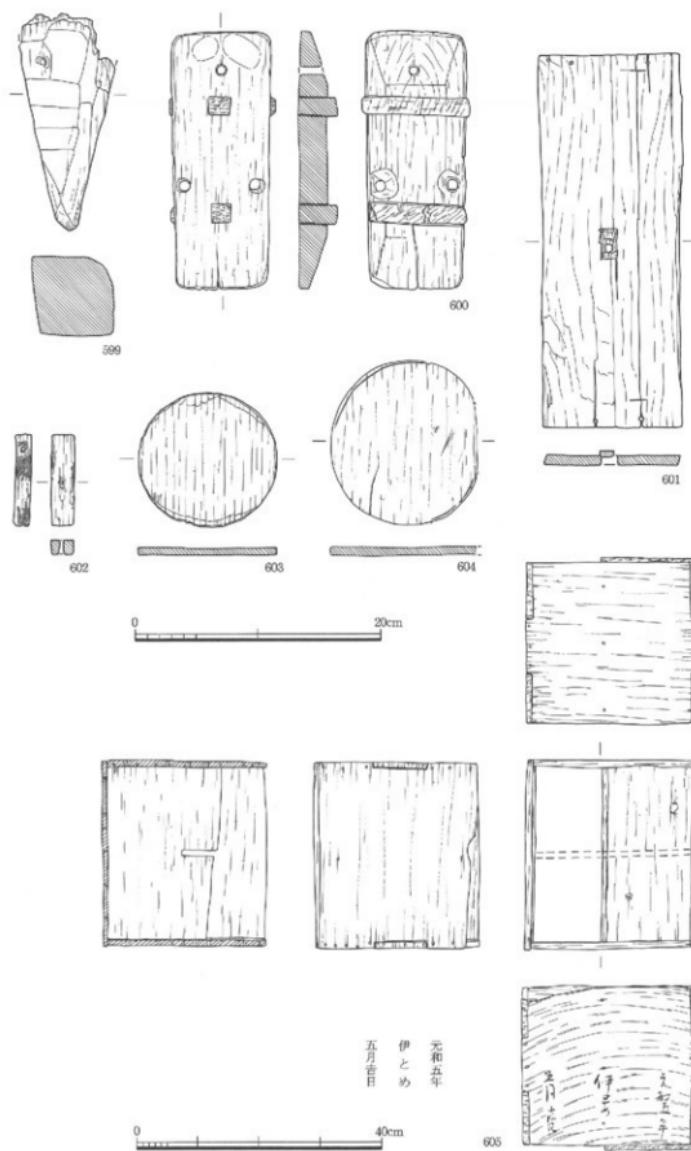
第93図 S B 4 遺構実測図 (1/30)



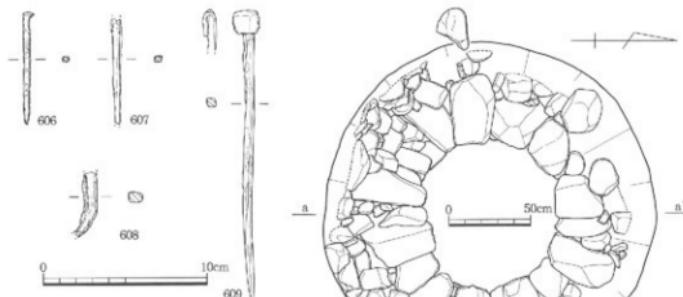
第94図 S B 4 出土遺物実測図（1）



第95図 S B 4 出土遺物実測図（2）



第96図 S B 4 出土遺物実測図（3）



第97図 SB 4出土遺物実測図（4）

（2）井戸

〔S E 5〕（第98・99図、図版26・62）

第4調査区の北側、N R 1の南側1mに位置する石組井戸である。掘形及び石組の平面形は円形を呈する。掘形の規模は径2m、深さ0.9mを測り、上端から0.3m下で幅0.5mのテラスを成す。石組部分は上端内法

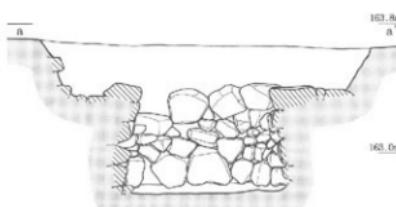
径0.75m、底部内法径0.95m、深さ0.7mを測る。南側テラスから掘形上端までは川原石の小石（約10×20×20cm）が壁面に積まれていた。井戸本体の石組には約20×30×40cmの川原石が使用されていた。

遺物は備前甕（610）が図示できた。

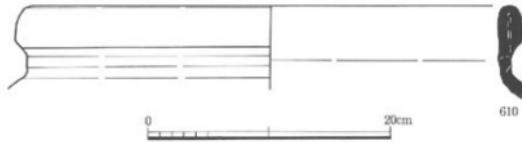
〔S E 6〕（第100・101図、図版26・27・62）

第4調査区の北側、S E 5の西側2mに位置する素掘りの井戸である。平面形を呈し、規模は径0.9m、底径0.6m、深さ0.5mを測る。井戸周囲には最大20×30×40cmの川原石が散在していた。また、井戸上端から北東に向かって丸瓦が4個繋げられている。これは、瓦の方向からN R 1への排水管と考えられる。

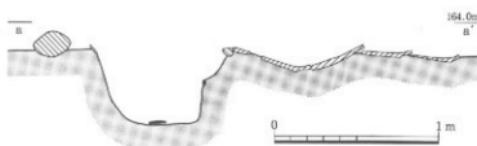
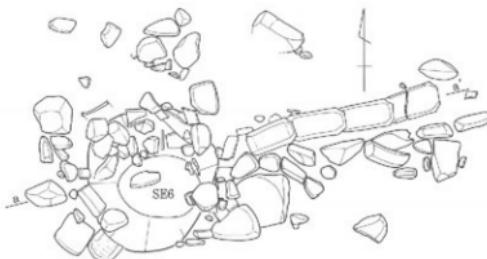
遺物は土師質甕（611）、平瓦（612）、丸瓦（613・614）が図示できた。



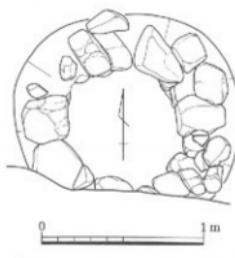
第98図 S E 5遺構実測図（1/30）



第99図 S E 5出土遺物実測図



第100図 S E 6 遺構実測図 (1/30)



第102図 S E 7 遺構実測図 (1/30)

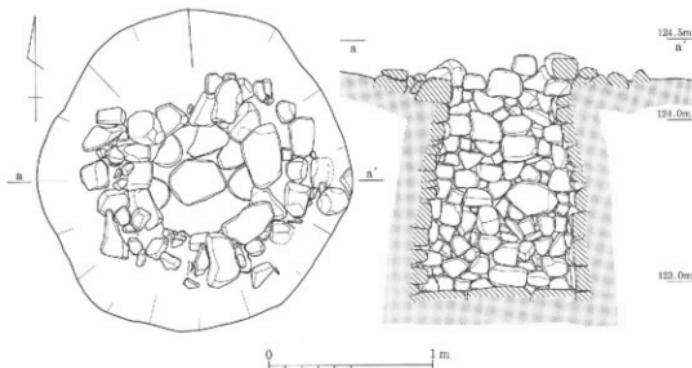


第101図 S E 6 出土遺物実測図

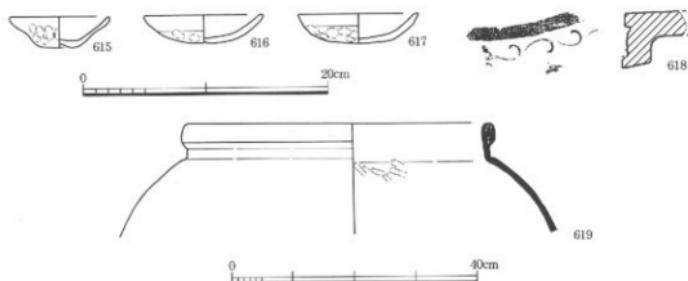
[S E 7] (第102図)

第4調査区の南端中央に位置する石組井戸である。掘形及び石組の平面形は円形を呈し、規模は掘形の径1.4m、石組部分の上端内法径0.7mを測る。深さは遺構が不安定で調査が危険であった為確認できなかった。石組には約20×30×40cmの川原石が使用されていた。

遺物は出土しなかった。



第103図 SE 8 遺構実測図 (1/30)



第104図 SE 8 出土遺物実測図

[SE 8] (第103・104図、図版27・62)

第5調査区の南側、S L 12の南西側3mに位置する石組井戸である。掘形及び石組の平面形は円形、断面形は台形を呈する。規模は掘形の径1.9m、石組部分の上端内法長径0.7m、短径0.6m、底部内法径0.9m、深さ1.3mを測る。石組は最大15×20×30cmの川原石が使用されていた。また、底部にも最大10×30×40cmの板状の石が敷かれていた。

遺物は中世の土師質皿(615～617)、備前甕(619)、軒平瓦(618)が図示できた。

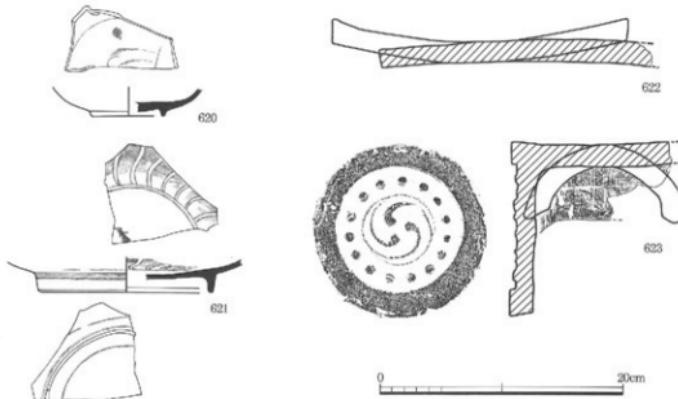
[SE 9] (第105・106図、図版28・62)

第7調査区の東側に位置する石組井戸である。井戸の南側はS D 20、北側はS D 25に接続する。掘形の平面形は方形、石組の平面形は橢円形を呈する。規模は掘形の1辺2.4m、石組部分の内法長径0.7m、短径0.6mを測る。深さは確認できなかった。石組は最大10×20×30cmの川原石が使用されていた。

遺物は肥前系磁器染付皿(620・621)、平瓦(622)、軒丸瓦(623)が図示できた。



第105図 S E 9 遺構実測図 (1/30)



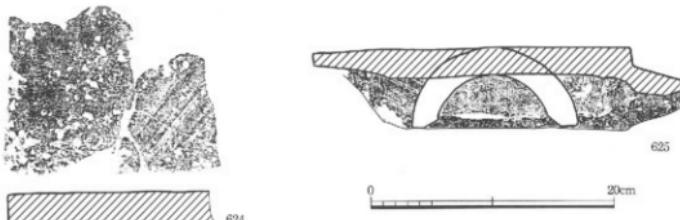
第106図 S E 9 出土遺物実測図

(3) 溝

検出された溝の大部分は、石組あるいは石を充填させた暗渠であった。

[S D13] (図版28)

第1調査区の南側を東西に走り、両端は調査区外へ伸びる。検出長は調査区幅の9m、幅0.6m、深さ0.3mを測る。溝の中には最大10×20×30cmの川原石が充填されていた。



第107図 S D16出土遺物実測図

遺物は出土しなかった。

[S D14] (図版28)

第1調査区の南側、S D13の南側5mを東西に走る。両端は調査区外へ伸びる。検出長は調査区幅の9m、幅0.6m、深さ0.3mを測る。溝の中には最大10×20×30cmの川原石が充填されていた。

遺物は出土しなかった。

[S D15] (図版28)

第1調査区の南側、S D14の1.2m南側を平行して東西に走る。両端は調査区外へ伸びる。検出長は調査区幅の9m、幅0.6m、深さ0.3mを測る。溝の中には最大10×20×30cmの川原石が充填されていた。

遺物は出土しなかった。

[S D16] (第107図)

第7調査区の北端に位置し、東西に走る素掘りの溝である。両端は調査区外へ伸びる。規模は検出長2m、幅0.8m、深さ0.15mを測る。

遺物は平瓦(624)、丸瓦(625)が図示できた。

[S D17] (第108図)

第7調査区の東側に位置し、南北に走る素掘りの溝である。北側は調査区外へ伸びる。規模は検出長2.5m、幅0.26m、深さ0.11mを測る。

遺物は出土しなかった。

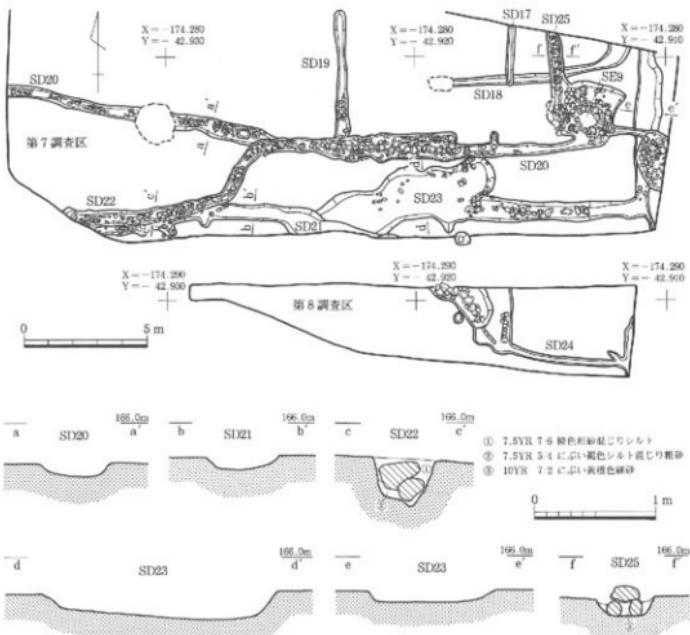
[S D18] (第108図)

第7調査区の東側に位置し、東西に走る素掘りの溝である。溝は調査区の北東端で北に屈曲し、北側は調査区外へ伸びる。S D17・25と一部重複し、西側は削平されている。規模は検出長8m、幅0.3~0.8m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土しなかった。

[S D19] (第108図)

第7調査区の中央に位置し、南北に走る素掘りの溝である。南側はS D22に切られている。規模は検出長6m、幅0.4m、深さ0.1mを測る。素掘りの溝であるが、南側に一部川



第108図 S D 17~25遺構実測図（平面1/200・断面1/40）

原石が入っていた。

遺物は出土しなかった。

[S D 20] (第108・109図、図版63)

第7調査区の中央に位置し、東西に走る暗渠である。S D 22に切られている。西側は調査区外へ伸び、東端はS E 9に至る。規模は検出長24m、幅0.5m、深さ0.1mを測る。暗渠の中には最大10×20×30cmの川原石が充填されていた。

遺物は土師質皿(626)、瓦質皿(627)、肥前系磁器碗(628)が図示できた。

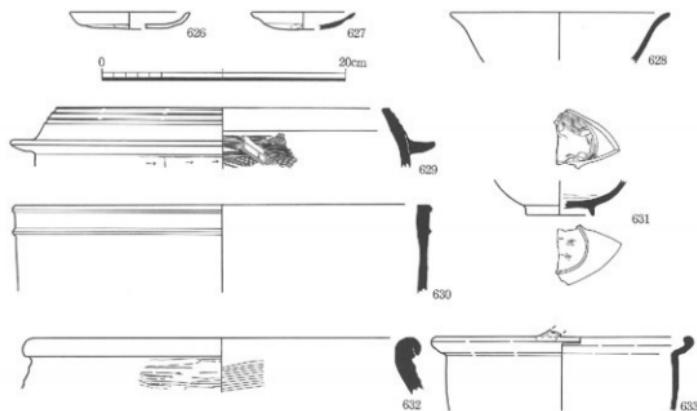
[S D 21] (第108・109図、図版63)

第7調査区の中央南端を東西に走る素掘りの溝である。S D 22・23と一部重複する。溝の東端は調査区の南側へ伸びる。規模は検出長約10m、幅0.6m、深さ0.08mを測る。

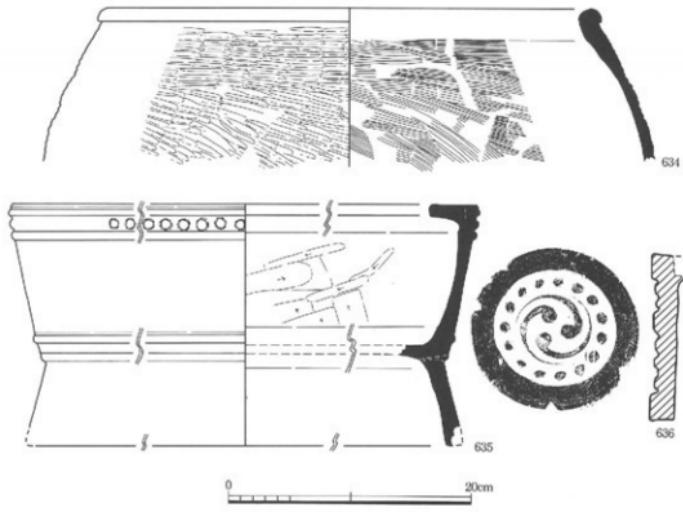
遺物は瓦質の土釜(629)・火鉢(630)、肥前系磁器碗(631)が図示できた。

[S D 22] (第108・109図、図版63)

第7調査区の中央に位置し、屈曲しながら東西に走る暗渠である。S D 19・20と一部重複する。西側は調査区外へ伸びる。規模は検出長17m、幅0.5m、深さ0.4mを測る。暗渠の中には最大10×20×30cmの川原石が充填されていた。



第109図 S D 20~22出土遺物実測図



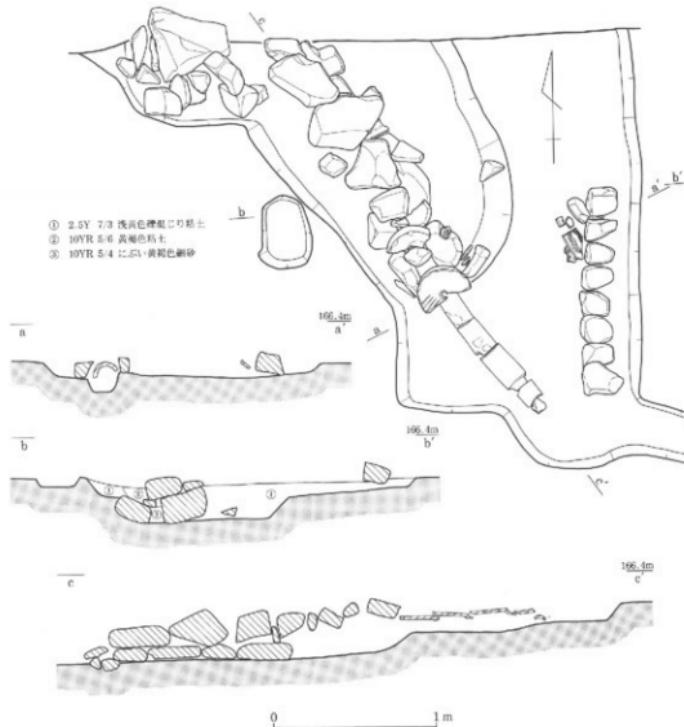
第110図 S D 23出土遺物実測図

遺物は瓦質甕（632）、陶器鍋（633）が図示できた。

〔S D23〕（第108・110図、図版63）

第7調査区の南東端に位置する。調査区の南辺に沿って東西に13m走り、東辺に沿って南北に7m走る素掘りの溝である。西側はSD21に切られている。規模は検出長20m、幅1m、深さ0.3mを測る。

遺物は瓦質の甕（634）・火鉢（635）、軒丸瓦（636）が図示できた。



第111図 S D24遺構実測図 (1/30)

〔S D24〕（第108・111・112図、図版29・63）

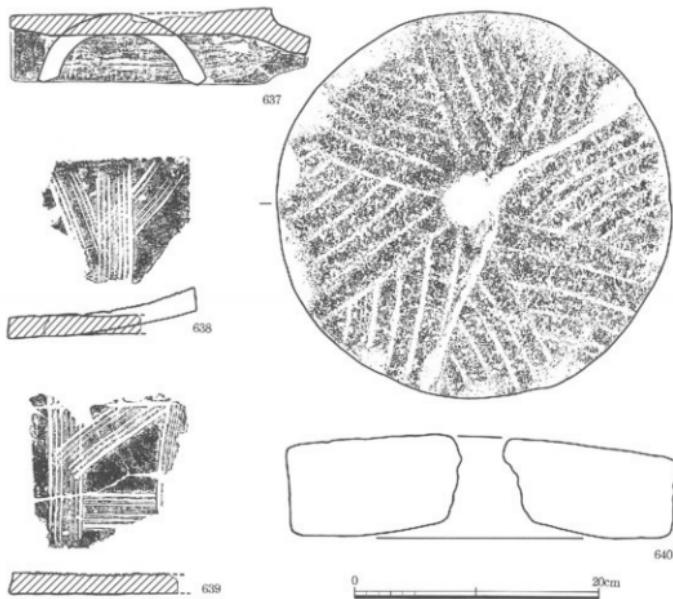
第8調査区に位置する。調査区の東端から北端中央に屈曲しながら走り、第7調査区のS D21に接続する可能性が高い。規模は検出長9m、最大幅2m、最小幅0.2m、深さ0.2mを測る。素掘りの溝であるが、溝の北端から屈曲部分にかけて瓦と川原石を利用した施設が施されていた。施設は南側が4個の丸瓦を利用して約1m、北側が最大30×30×40cmの川原石を充填した暗渠状を呈して約2mを測る。

遺物は丸瓦(637)、平瓦(638・639)、花崗岩製石臼(640)が図示できた。

〔S D25〕（第108図）

第7調査区の東側に位置する南北に走る溝である。溝の南端はS E 9の西側に接続し、北側は調査区外に伸びる。溝は検出長3m、幅0.5m、深さ0.3mの掘形の中に、最大10×10×20cmの川原石で蓋付きの石組構が設置されていた。石組の内法幅は0.1mを測る。

遺物は出土しなかった。



第112図 SD 24出土遺物実測図

(4) 土坑

[SK 25] (第113・116図、図版63)

第7調査区の北側に位置する。平面形は歪な長椭円形を呈し、規模は長径1.04m、短径0.5m、深さ0.11mを測る。主軸方向はN-20°-Wを示す。

遺物は肥前系陶器(641)、丸瓦、平瓦の破片が出土した。

[SK 26] (第114・116図、図版63・64)

第7調査区の北側、SK 25の南東側4mに位置する。平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.85m、短軸1.15m、深さ0.22mを測る。埋土は5層からなり、上層から焼土層、炭層、黄色粘土、黄色粘土のブロックを含む明褐色細砂混じりシルトであった。

遺物は土師質皿(642・643)、肥前系磁器染付从飯具(644)が図示できた。

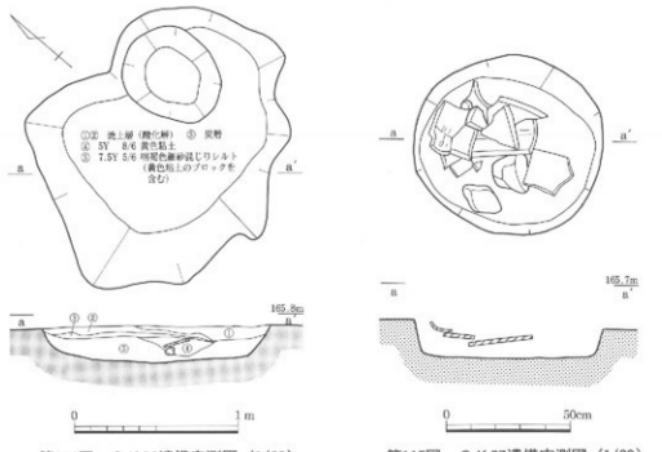
[SK 27] (第115・116図)

第7調査区の北側、SK 25の東側1mに位置する。平面形

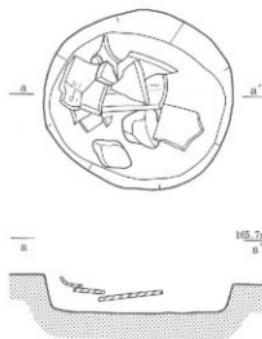


第113図 SK 25

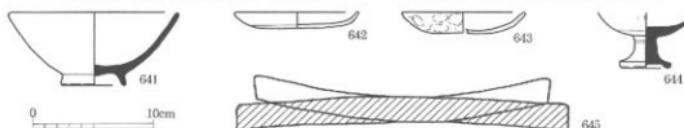
遺構実測図 (1/20)



第114図 S K26遺構実測図 (1/30)



第115図 S K27遺構実測図 (1/20)



第116図 S K25~27出土遺物実測図

は円形を呈し、規模は径0.75m、底径0.7m、深さ0.15mを測る。

遺物は丸瓦・平瓦が出土し、平瓦(645)が図示できた。

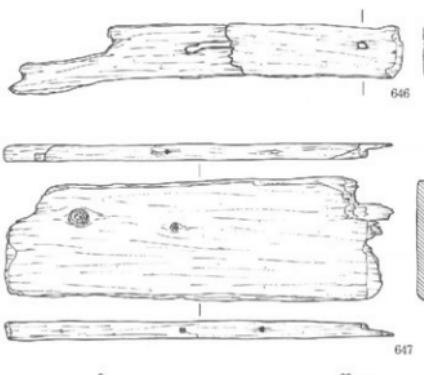
(5) 石組遺構

[SW1] (第117~119図、

図版30・64)

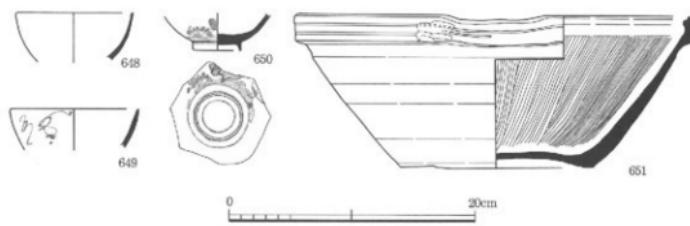
第4調査区の中央東端に位置する石組遺構である。平面形は掘形が隅丸長方形、石組が長方形を呈する。規模は掘形が長辺2.72m、短辺1.4m、石組の上端の長辺1.8m、短辺0.8m、底部の長辺1.6m、短辺0.7m、深さ0.6mを測る。

主軸方向は南北を示す。石組には最大30×30×40cmの川原

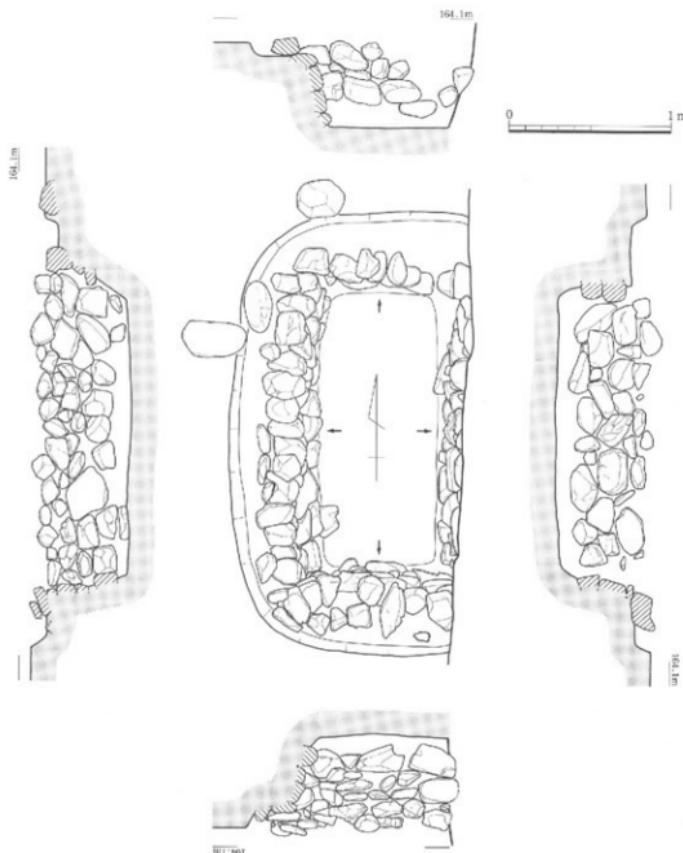


第117図 SW1出土遺物実測図 (1)

第3次発掘群



第118図 SW1出土遺物実測図(2)



第119図 SW1 遺構実測図(1/30)

石が使用されていた。

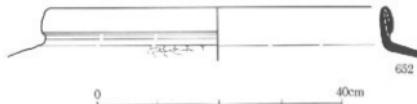
遺物は肥前系磁器染付碗（648～650）、堺播鉢（651）、不明木製品（646・647）が図示できた。

(6) 落ち込み

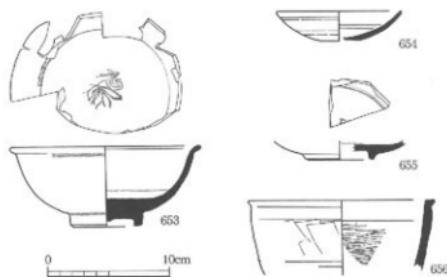
[N V 2] (第120図、図版64)

第7調査区の東端、S D23の東側が北東に向かって落ち込んでいる。調査区外に広がるために詳細は不明である。

遺物は備前窯（652）が出土した。



第120図 N V 2出土遺物実測図



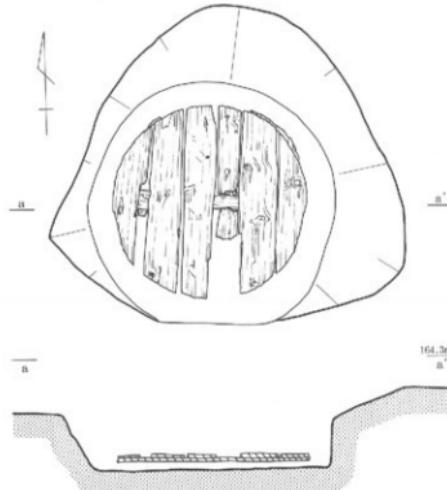
第121図 N R 1 (上層)出土遺物実測図

(7) 自然流路

[N R 1 (上層)] (第121図、図版64)

第3調査区から第4調査区にかけて検出された。第2次遺構群のN R 1が上層では川幅が約11mと減少している。

上層から出土した遺物として、青磁碗（653）、唐津皿（654）、肥前系磁器染付碗（655）、瓦質鉢（656）が図示できた。



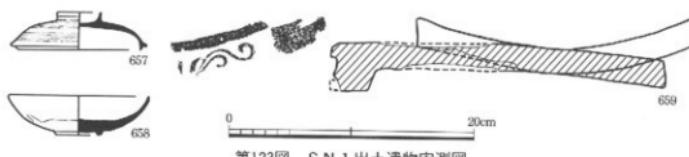
第122図 S N 1 遺構実測図 (1/20)

(8) 埋桶

[S N 1] (第122・123図、図版30・65)

第5調査区の南側中央、S B 4の西側1mに位置する。掘形の平面形は歪な円形を呈する。径1.4m、底径1m、残存の深さ0.3mを測る土坑に、残存底径80cmの木製桶が据えられていた。

遺物は肥前系磁器染付碗蓋（657）、綠釉碗（658）、軒平瓦（659）が出土した。



第123図 S N 1出土物実測図

(9) 埋甕

〔S L 4〕 (第124図、図版31・65)

第4調査区の北側中央、S E 5の東側0.2mに位置する。土師質甕(660)が据えられた状況で検出されたが、上半部は欠損している。掘形の平面形は円形を呈し、規模は径0.3m、底径0.21m、深さ0.1mを測る。

据えられていた甕は底径21cm、残存高12cmを測る。

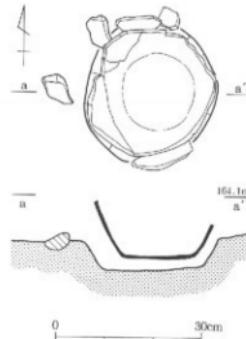
〔S L 5〕 (第126図、図版31・65)

第4調査区の北側中央、S L 4の東側1mに位置する。土師質甕(661)が据えられた状況で検出されたが、甕の肩部以上は甕内面に落ち込んでいた。掘形の平面形は円形を呈し、規模は径0.6m、底径0.33m、深さ0.32mを測る。

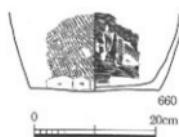
据えられていた甕は口径41cm、底径28cm、器高50cmを測る。

〔S L 6〕 (第127図、図版32・65)

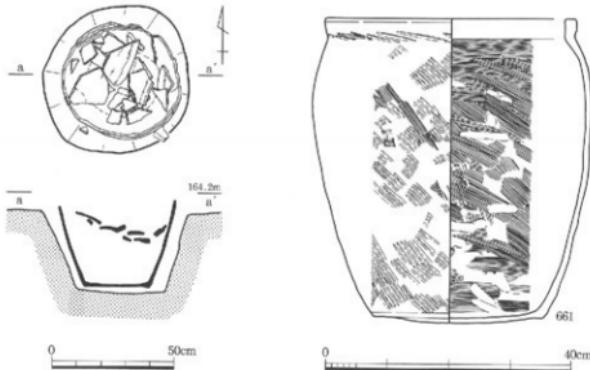
第4調査区の南東端に位置する。土師質甕(662)が据えられた状況で検出されたが、甕の肩部以上は甕内面に落ち込んでいた。



第124図 S L 4遺構実測図 (1/10)



第125図 S L 4出土物実測図



第126図 S L 5遺構実測図 (1/20) 及び出土物実測図

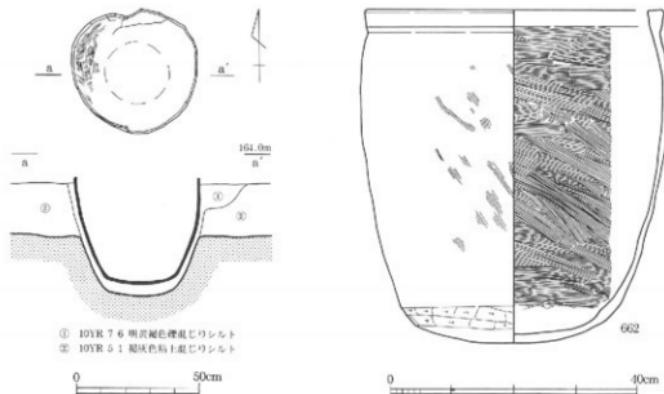
いた。掘形の平面形は円形を呈し、規模は径0.5m、底径0.3m、深さ0.44mを測る。

据えられていた甕は口径48cm、底径30cm、器高53cmを測る。

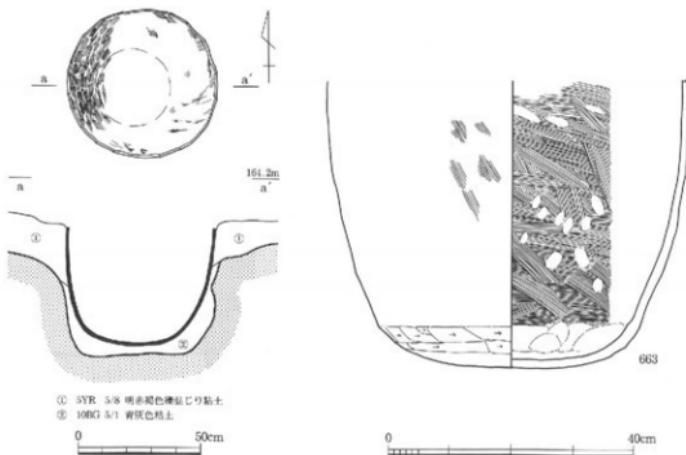
[S L 7] (第128図、図版32・65)

第4調査区の南東端、S L 6の東側1mに位置する。土師質甕(663)が据えられた状況で検出されたが、上半部は欠損している。掘形の平面形は円形を呈し、規模は径0.7m、底径0.45m、深さ0.56mを測る。

据えられていた甕は底径40cm、残存高46cmを測る。



第127図 S L 6 遺構実測図 (1/20) 及び出土遺物実測図



第128図 S L 7 遺構実測図 (1/20) 及び出土遺物実測図

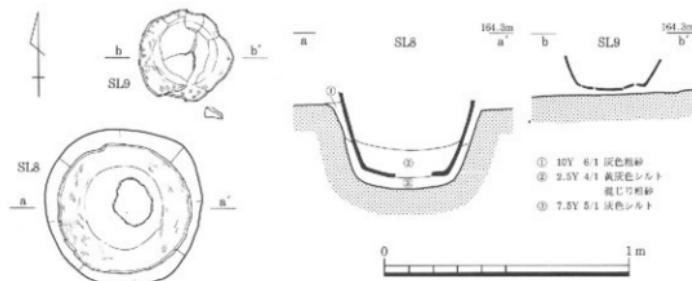
[S L 8] (第129・130図、図版65)

第5調査区の北側、S B 4 の西側3mに位置する。土師質甕(666)が据えられた状況で検出されたが、上半部及び底部は欠損している。甕の平面形は円形を呈し、規模は径0.65m、底径0.4m、深さ0.35mを測る。

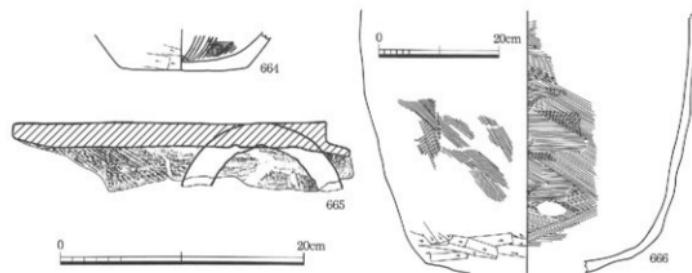
据えられていた甕は底径40cm、残存高43cmを測る。遺物は甕以外に土師質擂鉢(664)、丸瓦(665)が図示できた。

[S L 9] (第129・131図、図版33・65・66)

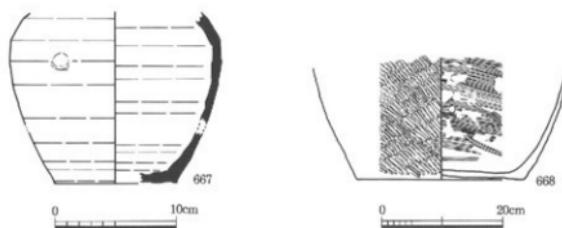
第5調査区の北側、S L 8 の北側0.2mに位置する。土師質甕(668)が据えられた状況



第129図 S L 8・9 遺構実測図 (1/20)



第130図 S L 8 出土遺物実測図



第131図 S L 9 出土遺物実測図

で検出されたが、上半部は欠損している。地山面で検出され、掘形等は確認できなかった。

据えられていた甕は底径26cm、残存高20cmを測る。甕以外に備前壺（667）が図示できた。

[S L10] (第132・133図、図版33・66)

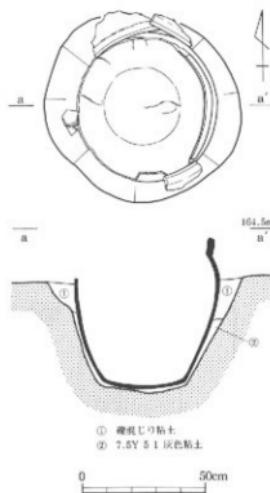
第5調査区の中央東側、S B 4 の南側 1m に位置する。土師質甕（669）が据えられた状況で検出された。掘形の平面形は円形を呈し、規模は径 0.8m、底径 0.4m、深さ 0.5m を測る。

据えられていた甕は口径 56cm、底径 40cm、器高 62cm を測る。甕以外には蓋として使用されていたと思われる板状木製品（670・671）が図示できた。

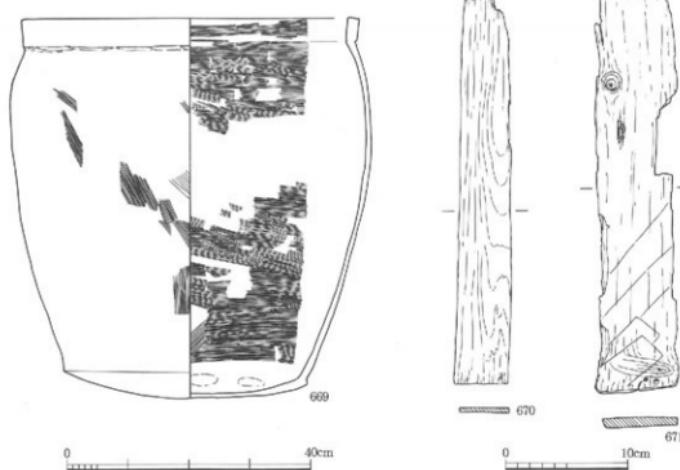
[S L11] (第134図、図版34・66)

第5調査区の中央東側、S L10 の南側 1m に位置する。土師質甕（672）が斜めに据えられた状況で検出されたが、甕の肩部以上は甕内面に落ち込んでいた。掘形の平面形は橢円形を呈し、規模は長径 0.88m、短径 0.75m、深さ 0.3m を測る。

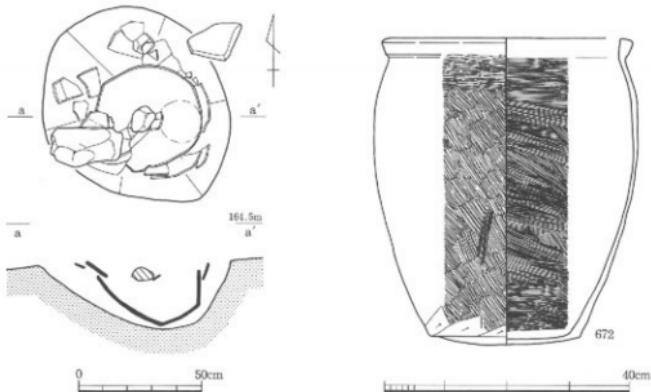
据えられていた甕は口径 40cm、底径 25cm、器高 49cm を測る。



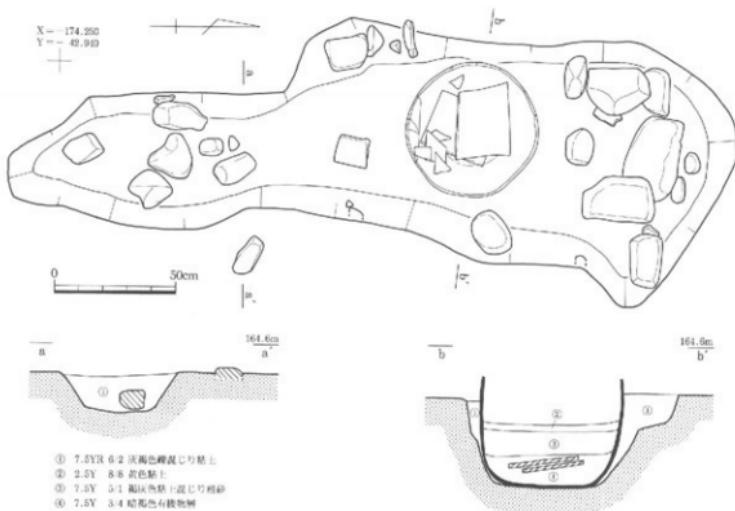
第132図 S L10 遺構実測図 (1/20)



第133図 S L10 出土遺物実測図



第134図 S L11遺構実測図 (1/20) 及び出土遺物実測図

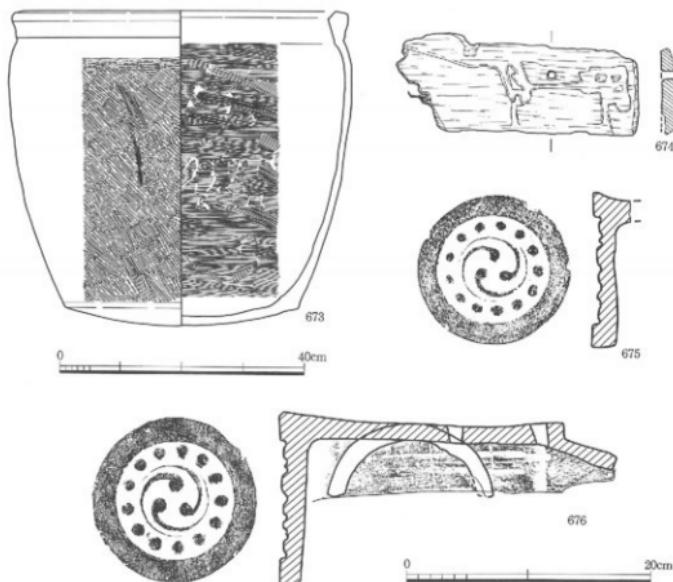


第135図 S L12遺構実測図 (1/20)

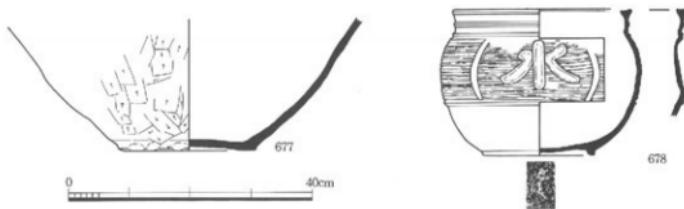
[S L12] (第135・136図、図版34・66)

第5調査区の中央東側、S L11の南側3mに位置する。長軸3m、幅0.5~1.1m、深さ0.18mの溝状の土坑内に土師質甕(673)が据えられた状況で検出されたが、甕の肩部以上は破損していた。甕の掘形の平面形は円形を呈し、規模は径0.7m、底径0.5m、深さ0.4mを測る。

据えられていた甕は口径56cm、底径38cm、器高52cmを測る。甕以外には板状木製品



第136図 S L 12出土遺物実測図



第137図 S L 13・14出土遺物実測図

(674)、軒丸瓦 (675・676) が図示できた。

〔S L 13〕 (第137図、図版35・67)

第7調査区の西端中央の側溝で検出された。備前甕 (677) が据えられていたが、上半部は欠損している。掘形等は不明である。

据えられていた甕は底径33cm、残存高21cmを測る。

〔S L 14〕 (第137図、図版35・67)

第7調査区の南端中央の側溝で検出された。丹波甕 (678) が据えられていたが、掘形等は不明である。

据えられていた甕は口径28cm、底径19cm、器高24cmを測り、「水」の字が刻まれていた。

第5節 第4次遺構群

第7調査区の西側で、確認された最上層の遺構面で検出された。第7調査区は、北西方向に地山面が傾斜し、その上に褐色細緻混じりシルト、明赤褐色細緻混じりシルト層が堆積している。この明赤褐色細緻混じりシルトの上面から井戸1、溝1、土坑3、埋桶1、埋甕1などの遺構が検出された。

(1) 井戸

[S E10] (第139・140図、図版68)

第7調査区の南西端に位置し、現地表面ですでに確認されていた石組井戸である。北西側はS D26に繋がる。掘形の平面形は方形、石組の平面形は梢円形を呈し、規模は掘形の長径2.8m、短径2.7m、石組部分の内法径0.85m、深さ約4mを測る。石組の上端は遺構面から3段程度（約30cm程度）上がる。石組には最大10×30×50cmの川原石が使用されていた。

遺物は肥前系磁器染付碗（679）が図示できた。

(2) 溝

[S D26]

第7調査区の南西側に位置し、調査区の西辺を南北に走る溝である。南端はS E10、北端はS K30に繋がる。規模は検出長6.2m、幅0.2～0.4m、深さ0.1mを測る。溝の南側には10×15×20cmの川原石が充填されていた。

遺物は出土しなかった。

(3) 土坑

[S K28] (第141図、図版67・68)

第7調査区の北西側に位置する。西側が調査区外に及ぶため、詳細は不明である。規模は検出長軸3.7m、検出短軸1.2m、深さ0.3mを測る。主軸方向は南北方向を示す。

遺物は肥前系磁器染付碗（680）、土師質焜炉（681）、線刻の鳥が描れた軒平瓦（682）、棟瓦（683）、軒丸瓦（684）、鉄釘（685）が図示できた。

[S K29] (第142・143図、図版68)

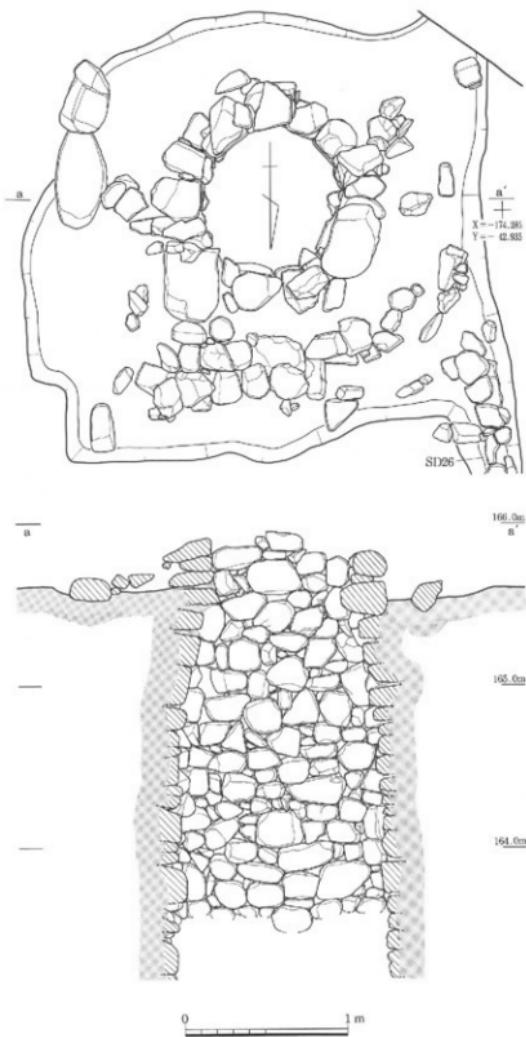
第7調査区の西側、S K28の南側に接するように位置する。平面形は円形を呈し、規模



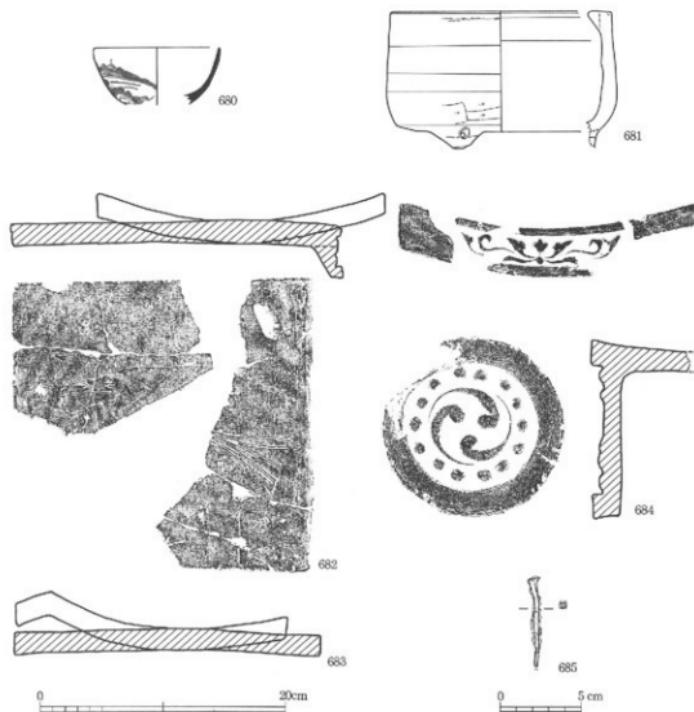
第138図 第4次遺構群
遺構配置模式図



第139図 S E10出土遺物実測図



第140図 S E 10遺構実測図 (1/30)



第141図 S K28出土遺物実測図

は径1.4m、深さ0.5mを測る。

遺物は肥前系磁器高台付染付皿（686）が図示できた。

〔S K30〕（第144・145図、図版67・68）

第7調査区の西側、S K29の南側に接するように位置し、南側はS D26と重複している。平面形は梢円形を呈し、規模は長径1.4m、短径1.2m、深さ0.6mを測る。

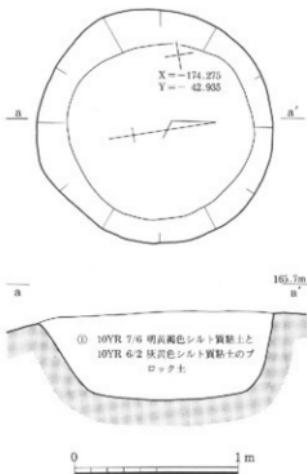
遺物は肥前系磁器染付碗（687・688）、道具瓦（689）、棧瓦（690）、不明瓦（691）が図示できた。

（4）埋桶

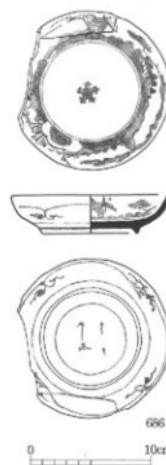
〔S N 2〕（第146図）

第7調査区の西側中央、S K29の東側2mに位置する。掘形の平面形は梢円形を呈する。長径1m、短径0.7m、深さ0.45mを測る土坑に、径50cmの木製桶が据えられていた。

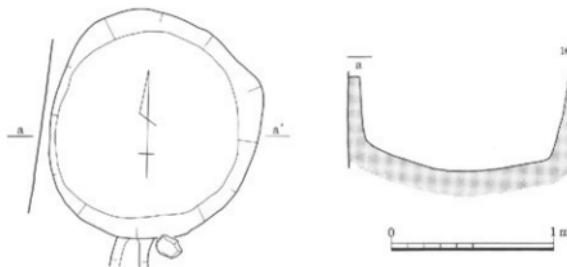
遺物は出土しなかった。



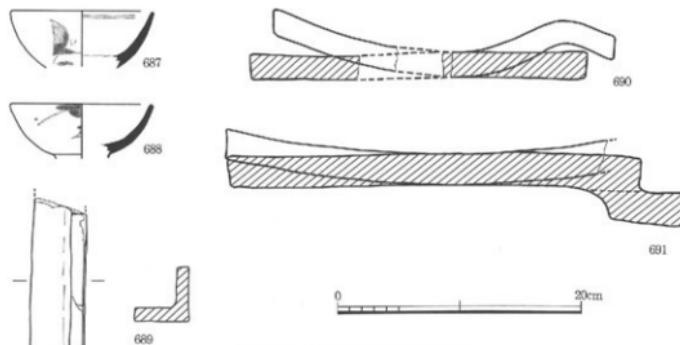
第142図 S K 29遺構実測図 (1/30)



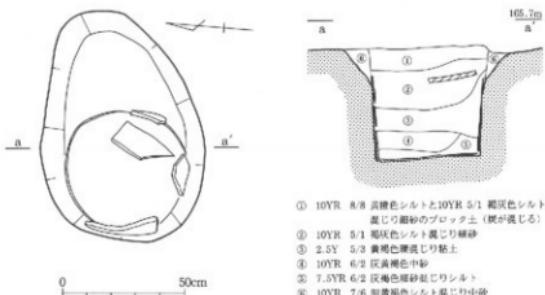
第143図 S K 29出土遺物実測図



第144図 S K 30遺構実測図 (1/30)



第145図 S K 30出土遺物実測図



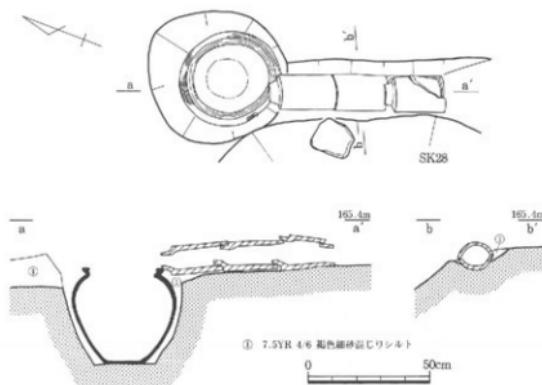
第146図 S N 2 遺構実測図 (1/20)

(5) 埋甕

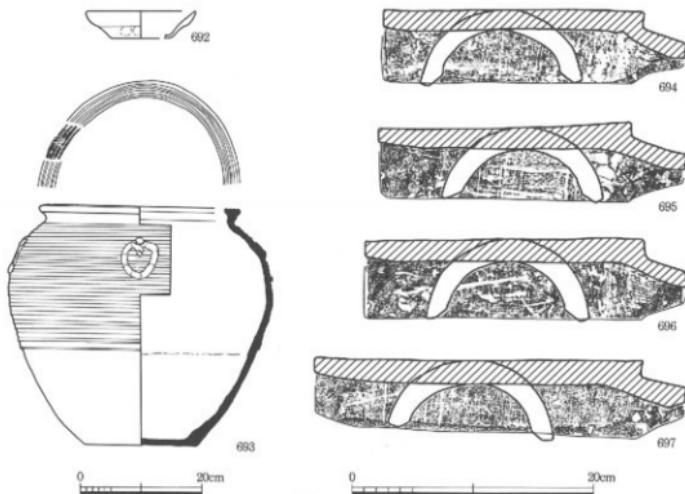
[S L15] (第147・148図、図版36・68)

第7調査区の北西端、SK28の北東側に接して位置する。丹波甕(693)が据えられた状況で検出され、この甕に向かって南東方向から丸瓦を2個合わせて造られた導水管が3組検出された。甕の掘形の平面形は円形を呈し、規模は径0.6m、底径0.25m、深さ0.4mを測る。

据えられていた甕は口径33cm、底径19cm、器高36cmを測る。甕以外に土師質皿(692)、丸瓦(694~697)が図示できた。



第147図 S L15 遺構実測図 (1/20)



第148図 S L15出土遺物実測図

第6節 包含層出土遺物

(1) 第1~3調査区 (第149図、図版68・69)

遺物はサヌカイト片2点(722・723)以外は中世土器である。

土師質土器では皿(698~701)、土釜(719・720)が図示できた。土釜は口縁部が玉縁状を呈する口径30cm(719)と口径20cm(720)のものとがある。

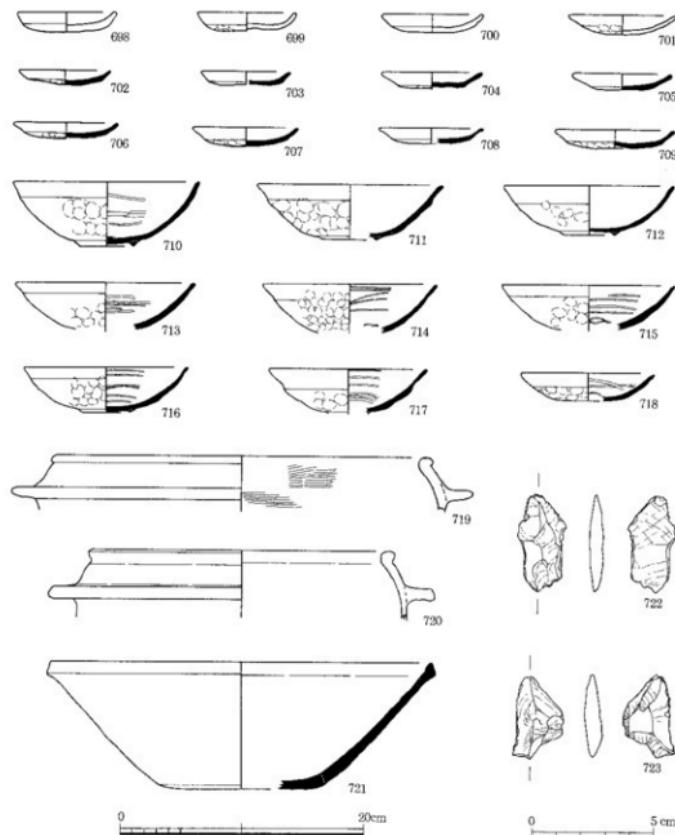
瓦器皿は口縁部が底部から屈曲しながら外傾するもの(702~705)と口縁部が底部から内巻気味に外傾するもの(706~709)とに大別できる。瓦器塊はIII-1期に分類される(710・711)、III-2に分類される(712~715)、III-3に分類される(716・717)、そしてIV-4に分類される(718)が図示できた。

須恵質練鉢(721)は東播系である。

(2) 第4調査区 (第150・151図、図版70・71)

この地区では土師質皿は口径7cm・器高2cmの白色系のいわゆるへそ皿(724~731)と口径11cm・器高2.7cm(732)、口径17cm・器高2.1cm(733)、口径18cm・器高3.8cm(734)のものが図示できた。

瓦器では小型塊(735)、皿(736)、IV-1に分類される塊(737)がある。



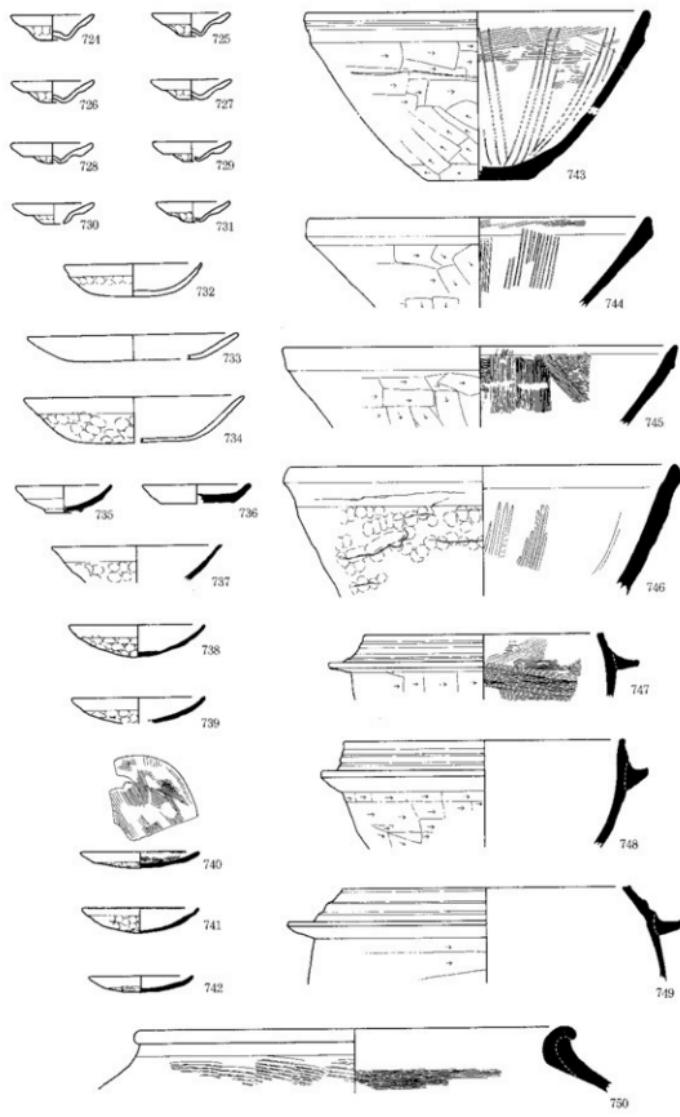
第149図 第1~3調査区包含層出土遺物実測図

瓦質土器では皿（738・739）が3類、（740）が5類、（741）が6類、（742）が9類に分類できる。播鉢は外面ヘラ削りが施されている（743~745）と未調整の（746）があり、土釜は口縁が外彫気味の（748）と内彫気味の（747・749）がある。他に甕（750）、鉢（751）、浅鉢形の火鉢（752）が図示できた。

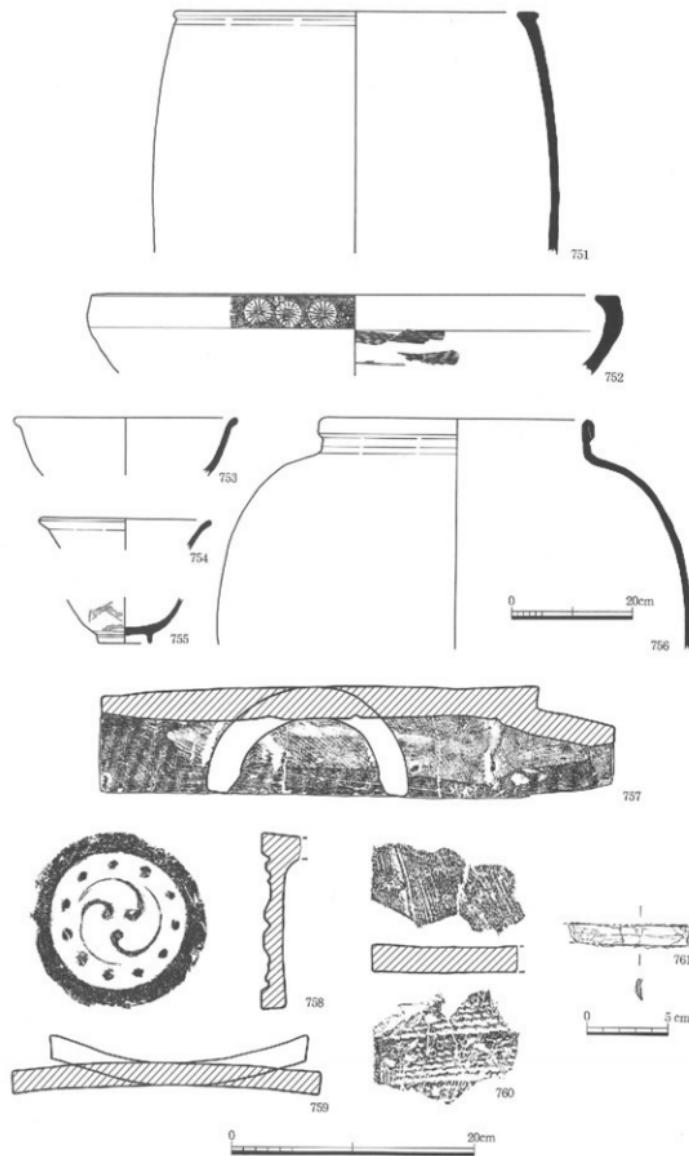
陶磁器では青磁碗（753・754）、肥前系磁器染付碗（755）、備前甕（756）がある。

瓦では巴文の軒丸瓦（758）、丸瓦（757）、平瓦（759・760）がある。

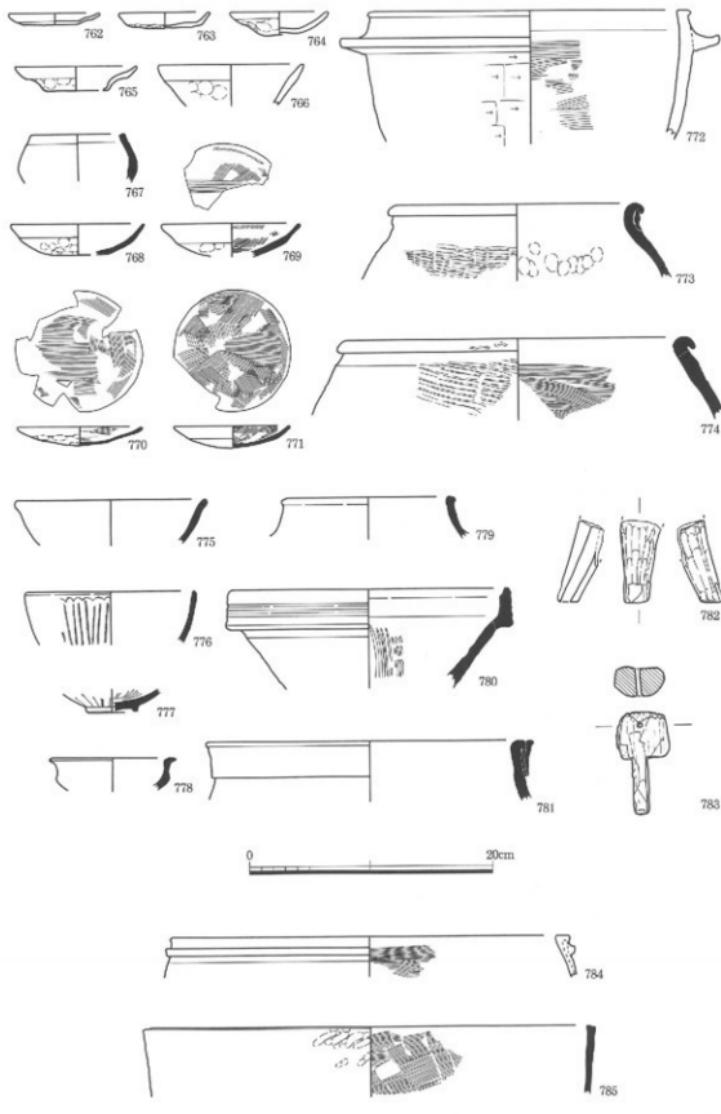
鉄製品では小刀（761）が出土した。



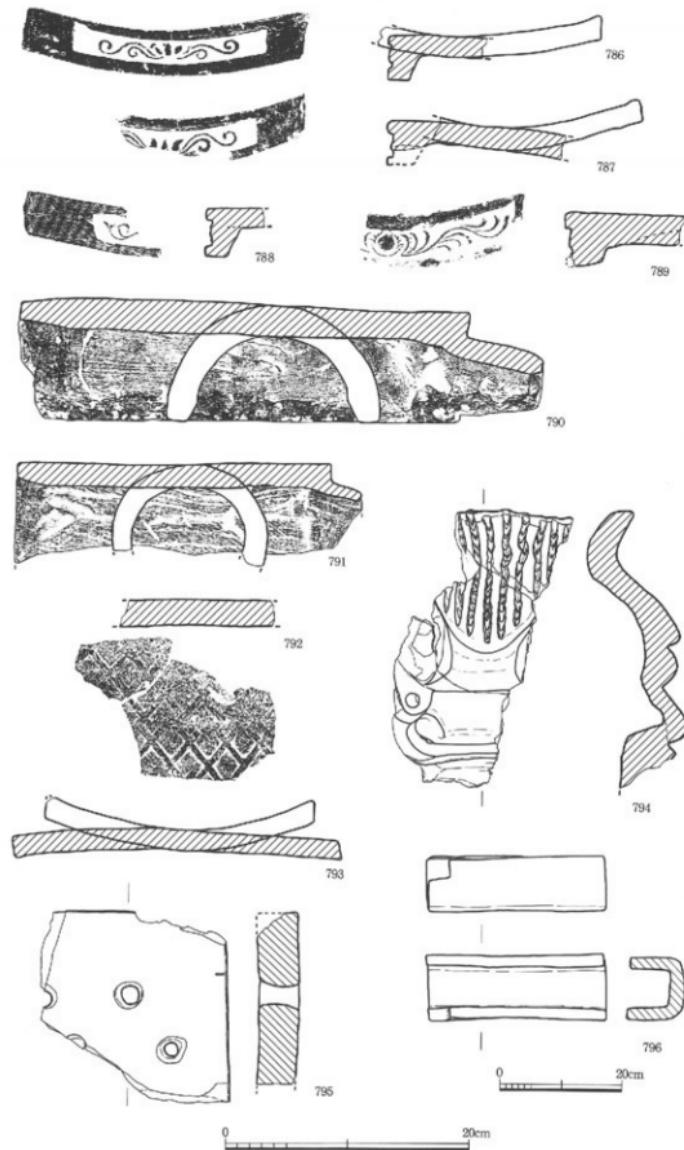
第150図 第4調査区包含層出土遺物実測図(1)



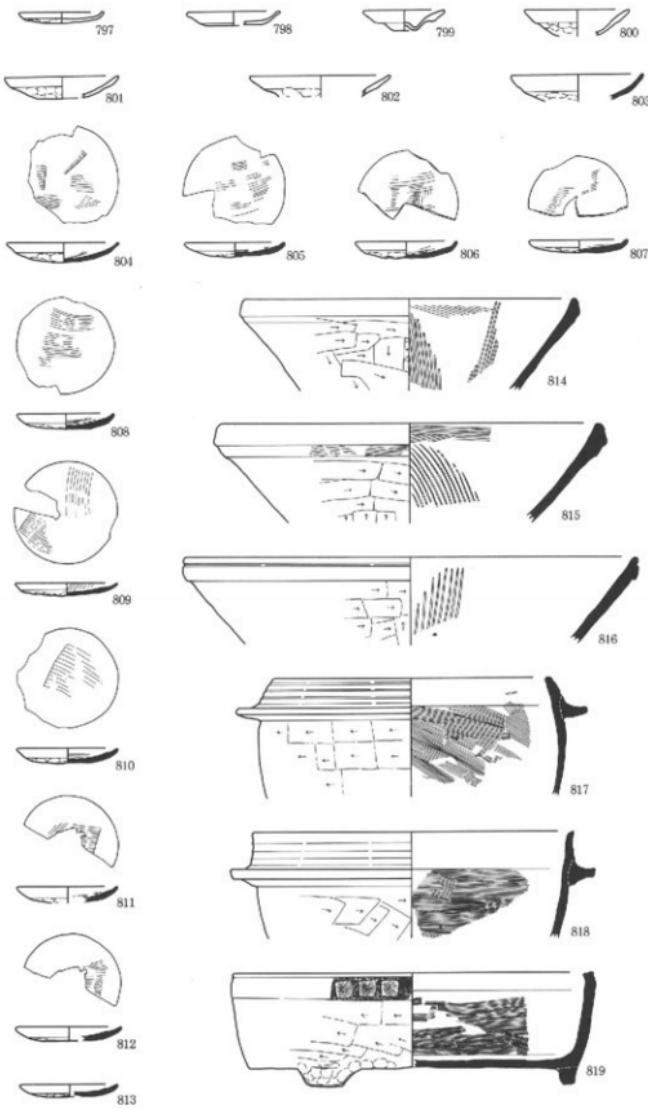
第151図 第4調査区包含層出土遺物実測図（2）



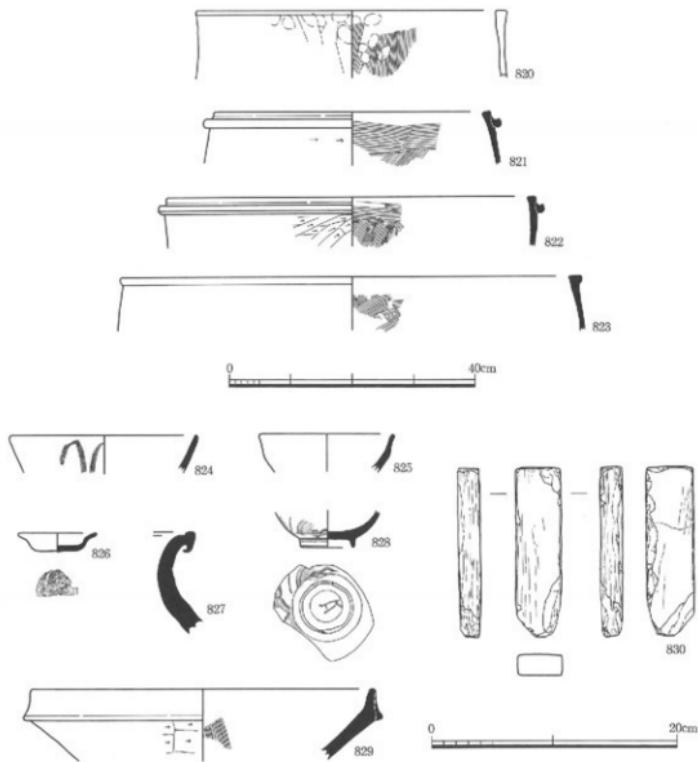
第152図 第5調査区包含層出土遺物実測図(1)



第153図 第5調査区包含層出土遺物実測図（2）



第154図 第6調査区包含層出土遺物実測図（1）



第155図 第6調査区包含層出土遺物実測図（2）

(3) 第5調査区 (第152・153図、図版71~73)

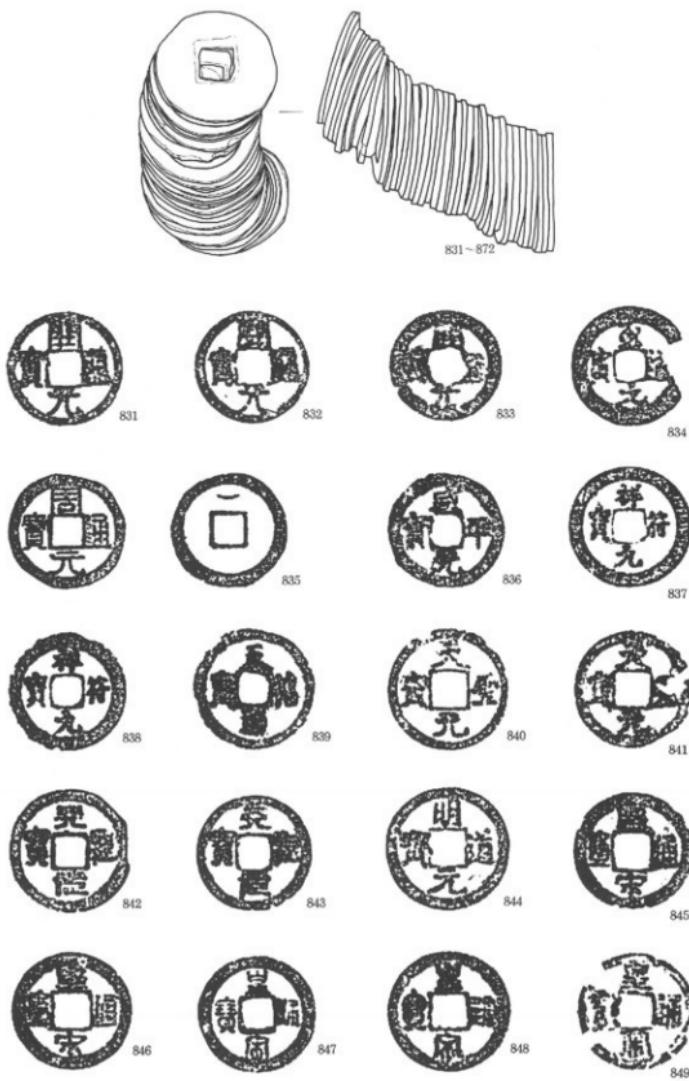
土師質土器では皿（762・763）、白色系のへそ皿（764~766）がある。さらに土釜（772）、井戸杵（784）、ミニチュアの獸足（782）が出土した。

瓦質土器では、3類の皿（768）、4類（769）、5類（770）、6類（771）がある。他に小壺（767）、甕（773・774）、井戸杵（785）が図示できた。

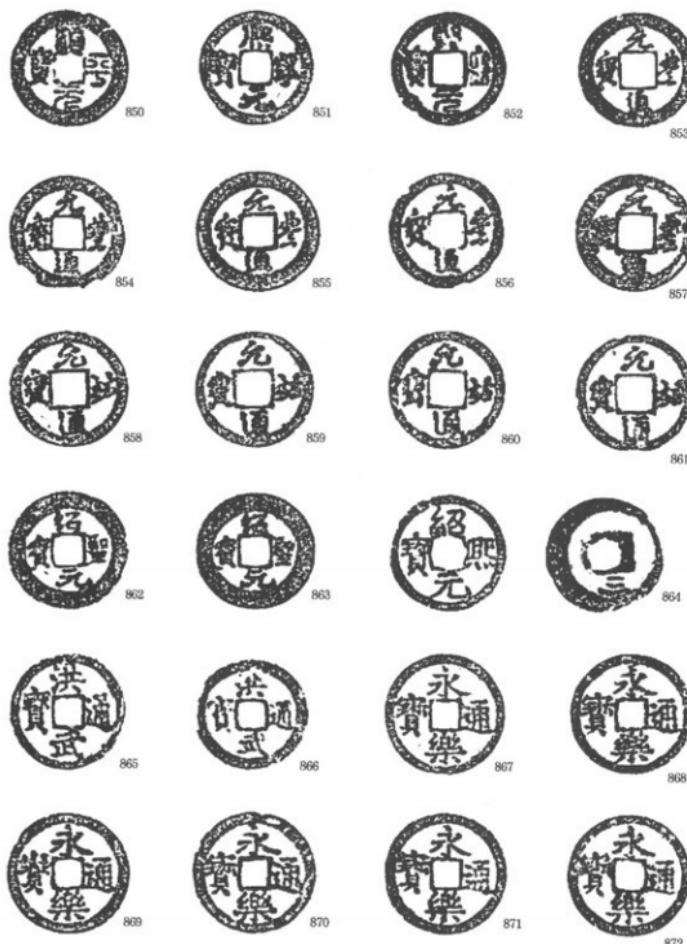
陶磁器では貿易陶磁の青磁碗（775・777）、龍泉窯蓮弁文青磁碗（776）があり、国内産陶器では產地不明香炉（778）、美濃壺（779）、備前播鉢（780）、常滑甕（781）が図示できた。

木製品では柄杓状の（783）が出土した。

瓦類では唐草文の軒平瓦（786~789）、丸瓦（790・791）、平瓦（792・793）、鬼瓦（794）があり、道具瓦として（795・796）が図示できた。

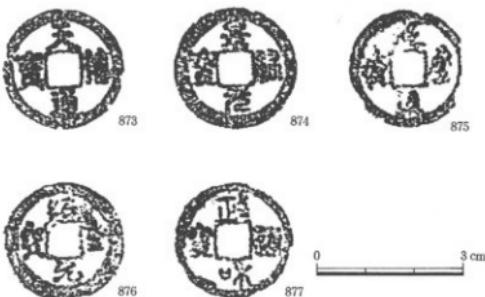


第156図 第6調査区包含層出土輸入錢拓影(1)



0 5 cm

第157図 第6調査区包含層出土輸入錢拓影（2）



第158図 第6調査区包含層出土輸入錢拓影（3）

第3表 第6調査区包含層出土輸入錢一覧表

遺物番号	銭貨名	初鑄造年	備考	遺物番号	銭貨名	初鑄造年	備考
831	開元通宝	621（唐）		855	元豐通寶	1078（北宋）	
832	開元通宝	621（唐）		856	元豐通寶	1078（北宋）	
833	開元通宝	621（唐）		857	元豐通寶	1078（北宋）	
834	至道元宝	995（北宋）		858	元祐通寶	1086（北宋）	
835	周元通寶	955（後周）	背文「一」	859	元祐通寶	1086（北宋）	
836	咸平元宝	998（北宋）		860	元祐通寶	1086（北宋）	
837	祥符元宝	1008（北宋）		861	元祐通寶	1086（北宋）	
838	祥符元宝	1008（北宋）		862	紹聖元宝	1094（北宋）	
839	天禧通寶	1017（北宋）		863	紹聖元宝	1094（北宋）	
840	天聖元宝	1023（北宋）		864	紹熙元宝	1190（南宋）	背文「三」
841	天聖元宝	1023（北宋）		865	洪武通寶	1368（明）	
842	天聖元宝	1023（北宋）		866	洪武通寶	1368（明）	
843	天聖元宝	1023（北宋）		867	永樂通寶	1408（明）	
844	明道元宝	1032（北宋）		868	永樂通寶	1408（明）	
845	皇宋通寶	1039（北宋）		869	永樂通寶	1408（明）	
846	皇宋通寶	1039（北宋）		870	永樂通寶	1408（明）	
847	皇宋通寶	1039（北宋）		871	永樂通寶	1408（明）	
848	皇宋通寶	1039（北宋）		872	永樂通寶	1408（明）	
849	皇宋通寶	1039（北宋）		873	天禧通寶	1017（北宋）	
850	治平元宝	1064（北宋）		874	景祐元宝	1034（北宋）	
851	熙寧元宝	1068（北宋）		875	元豐通寶	1078（北宋）	
852	熙寧元宝	1068（北宋）		876	紹聖元宝	1094（北宋）	
853	元豐通寶	1078（北宋）		877	政和通寶	1111（北宋）	
854	元豐通寶	1078（北宋）	・				

(4) 第6調査区(第154~158図、第3表、図版73~75)

土師質土器では皿(797・798)、白色系のへそ皿(799~802)、井戸枠(820)がある。へそ皿では(799)だけが口径7cmを測り、他は9cm以上である。

瓦質土器では、3類の皿(803)、8類(804)、9類(805~813)がある。さらに擂鉢(814~816)、土釜(817・818)、浅鉢形の火鉢(819)、井戸枠(821~823)が図示できた。

陶磁器では貿易陶磁の龍泉窯蓮弁文青磁碗(824)があり、国内産陶器では美濃焼天目茶碗(825)、産地不明小皿(826)、常滑焼甕(827)、肥前系磁器染付碗(828)、信楽焼擂鉢(829)が図示できた。

石製品では砥石(830)が出土した。

その他として土層断面中から中国銭42枚が残存していた縫錢(831~872)が出土し、側溝からも中国銭(873~877)が出土した。

(5) 第7・8調査区(第159~161図、第4表、図版75・76)

土師質土器では皿(878)、擂鉢(879)、焙烙(880)、火鉢(891)が出土した。

瓦質土器では擂鉢(881~883)、甕(884・885)、土釜(886)、浅鉢形の火鉢(892・893)と深鉢形の火鉢(894・895)が図示できた。

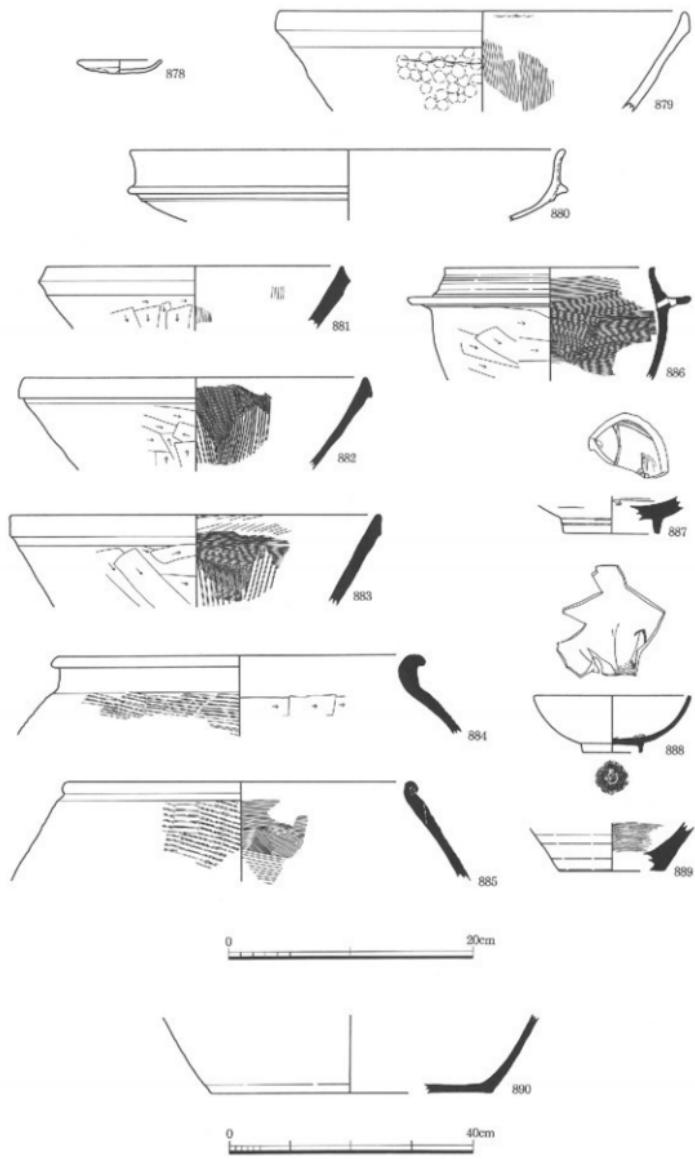
陶磁器では国内産の肥前系磁器染付碗(887・888)、肥前系陶器壺(889)、備前甕(890)が図示できた。

瓦類では丸瓦(896)が図示できた。

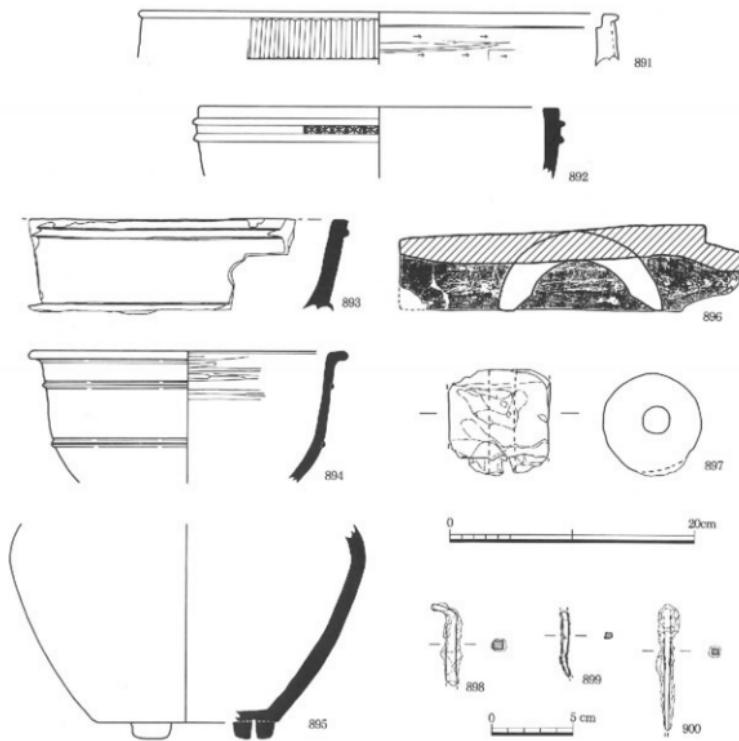
その他では、轆の羽口(897)、鉄釘(898~900)、中国銭(901~908)が出土した。

第4表 第7・8調査区包含層出土輸入銭一覧表

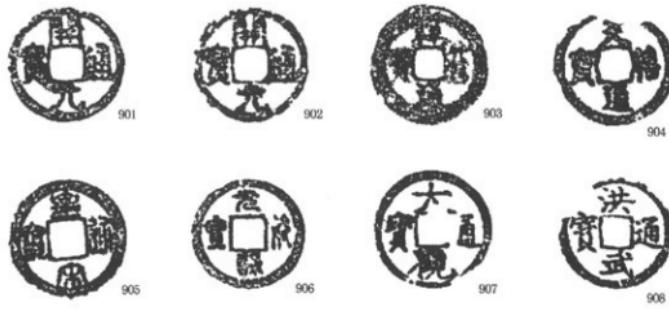
遺物番号	銭貨名	初鑄造年	備考
901	開元通宝	621(唐)	
902	開元通宝	621(唐)	
903	祥符通宝	1008(北宋)	
904	天禧通宝	1017(北宋)	
905	皇宋通宝	1039(北宋)	
906	元祐通宝	1086(北宋)	
907	大觀通宝	1107(北宋)	
908	洪武通宝	1368(明)	



第159図 第7・8調査区包含層出土遺物実測図（1）



第160図 第7・8調査区包含層出土遺物実測図（2）



第161図 第7・8調査区包含層出土輸入銭拓影

第3章　まとめ

第1節　遺構の分布

本調査では、多くの遺構と遺物が確認された。

遺構群は大きく4群に区分することができる。まず第1調査区・第2調査区の第1次遺構群、第3調査区から第6調査区の第2次遺構群、第1調査区から第8調査区の第3次遺構群、第7調査区・第8調査区の第4次遺構群である。

第1次遺構群は井戸、掘立柱建物、土坑によって構成されている。時期的には、出土瓦器塼の編年からIII-1、年代的には12世紀後半ごろと考えられる。

第2次遺構群は、遺物の検討から14世紀後半から16世紀の時期が考えられる。この時期の遺物と遺構が一番多く検出された。

第3次遺構群は17世紀前半以降と考えられる。

第4次遺構群は18世紀以降と考えられる。

第2節　焼土層

今回の調査では、第4調査区から第8調査区までの包含層中から層厚約0.4mの焼土層が確認された。また、焼土層は、KG T91-1・92-2^①(楼門の前の子院跡の調査)、1974年度調査・KG T95-1^②(旧境内南側子院群の調査)、さらにKG T98-1^③でも検出された。

当寺の焼失記録は2回あり、金剛寺經疏類に書かれた当時の学頭禪恵の奥書に見られる。^④一つは延元2年(1337)「延元二年武士乱入干当□被焼失之、成流浪身・・」、もう一つは正平15年(1360)3月17日「將軍大将畠山入道(国清)辰時乱入、大門往生講堂并坊僧余坊、当院持仏堂坊、共ニ焼失了」である。延元2年は、細川軍に属した和泉衆を中心とした攻撃で一部子院が焼失したようである。

今回、検出された焼土層は、出土瓦器塼及び瓦質土器の時期そして焼失記事に見られる「大門」の位置から、正平15年の被災に伴うものと思われる。

第3節 『金剛寺境内図』との関係

今回の調査地は、天野山金剛寺に伝えられている年代不詳（近世初期？）の『金剛寺境内図』によれば、主要伽藍の北側、西除川の東側に該当する。この場所を便宜的に第1子院群と呼称する。この子院群は道を挟んで西側に3院、東側に4院、道の突き当たりの部分に1院描かれている。この合計8院については、西側南端の子院を第1院として時計回りで第8院まで仮称する。そして、子院群の東側は寺域外になり、南北に築地が描かれ、築地（土塀？）は南側で東側に広がり、北側大門を取り囲むように巡る。北端は松木が描かれており、築地はその直前で西に屈曲しているが、西除川までは達していない。

今回の調査区は、この子院群の西側の第2院と第3院、突き当たりの第4院の一部、東側の第6院の一部を検出したようである。おそらく第2院と第3院の境がS A 3によると思われる。また、第3院と第4院との境は、第4調査区と第5調査区の境となる畦下に埋没していると思われる。

また、現地形図と調査区とを重ねれば、第3調査区と第4調査区の間には西側の西除川に流れ込む自然の小流路があり、遺構群を分けている。この部分は、現在残されている『金剛寺境内図』では松が描かれており、これより北側には子院が描かれていない。つまり、少なくとも、この絵図製作時点では第1次遺構群はすでに痕跡を残していない。結果、この絵図に描かれた伽藍は第2次遺構群以降と考えられる。

さらに絵図を見ると子院の建物は塀と門、そして平均3棟の茅葺き屋根（桧皮？）が描かれている。3棟のうち1棟は小型の建物で、持仏堂と考えられる建物である。発掘調査では瓦の出土数が少なく、建物の屋根材が植物材であったことを証明している。このことから、調査では明確な子院建物は復元できなかったが、絵図によりその一端がうかがえる。

各子院の名称については、絵図には記載されていない。このため、残されている小字名から類推するしかない。この付近の寺院に関する小字名は、第1院付近に「サクラモトボウ」、第2院付近が「ミヤウクワイン」、第3院から第4院付近が「ボウゾワイン」、第4院から第5院付近が「ヒガシノボウ」、第6院付近が「ダイモンイン」、第7院付近が「キクモトボウ」、第8院が「アイゼンイン」の名が見られる。

この小字に見られる地名が院・坊名の名残りと考えれば、文書に残されている院名・坊名と対比すると「サクラモトボウ」は桜本坊、「ボウゾワイン」は宝藏院、「ヒガシノボウ」は東之坊、「ダイモンイン」は大門坊、「キクモトボウ」は菊本坊が該当する。「ミヤウクワイン」「アイゼンイン」については調査史料からは抽出することはできなかった。

また、史料での初出は宝藏院が永正元年（1504）「秋之坊真惠田地売券」の四至限北宝藏院田として見られる。^{#6}また、大門坊は応永26年（1419）の「諸打物譜」奥書による。^{#6}菊本坊及び東之坊は文禄3年（1594）の検地帳で見られた。^{#7}

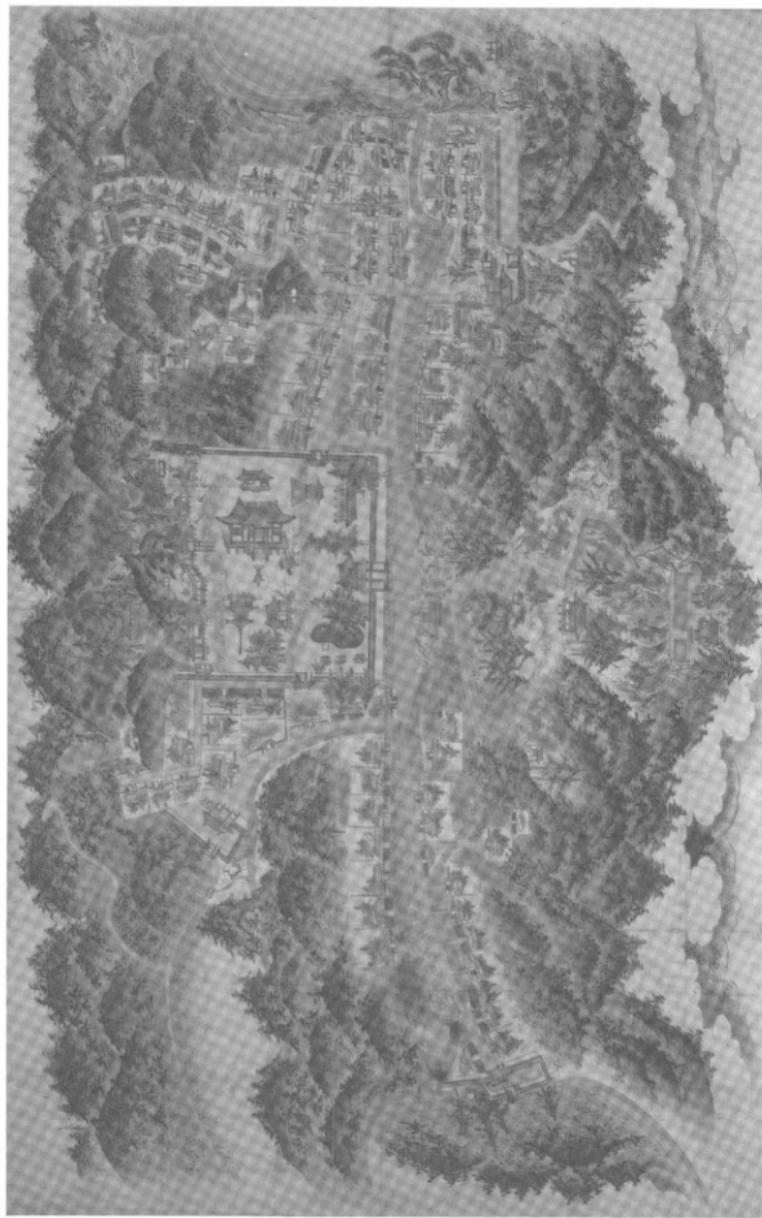
- 註1 • KG T91-1 本報告書（その2）掲載
• KG T92-2 河内長野市遺跡調査会 1993年3月 『河内長野市遺跡調査会報Ⅳ 金剛寺遺跡』
- 註2 • 1974年度調査
金剛寺坊跡調査会 1975年2月 『天野山金剛寺 中世墓地発掘調査』
• KG T95-1 河内長野市遺跡調査会 1997年3月 『河内長野市遺跡調査会報Ⅹ 天野山金剛寺遺跡』
- 註3 • KG T98-1 本報告書（その2）掲載
- 註4 河内長野市役所 1975年11月 『河内長野市史第五巻 資料編二』
- 註5 註4に同じ
- 註6 註4に同じ
- 註7 河内長野市役所 1977年3月 『河内長野市史第六巻 資料編三』



第162図 「金剛寺境内図」(部分)



第163図 調査地周辺地籍図



第164図 「金剛寺境内図」

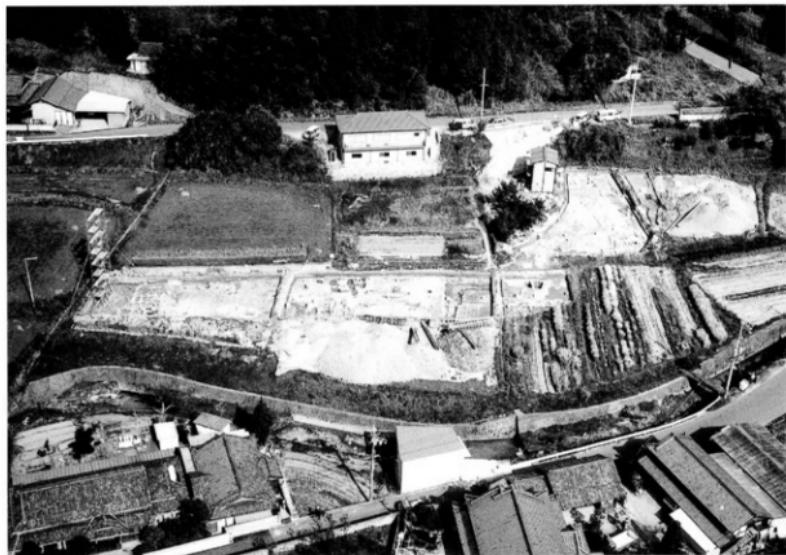
図 版



第4～8調査区付近調査前風景



第1～3調査区（KG T89-1）全景（西から）



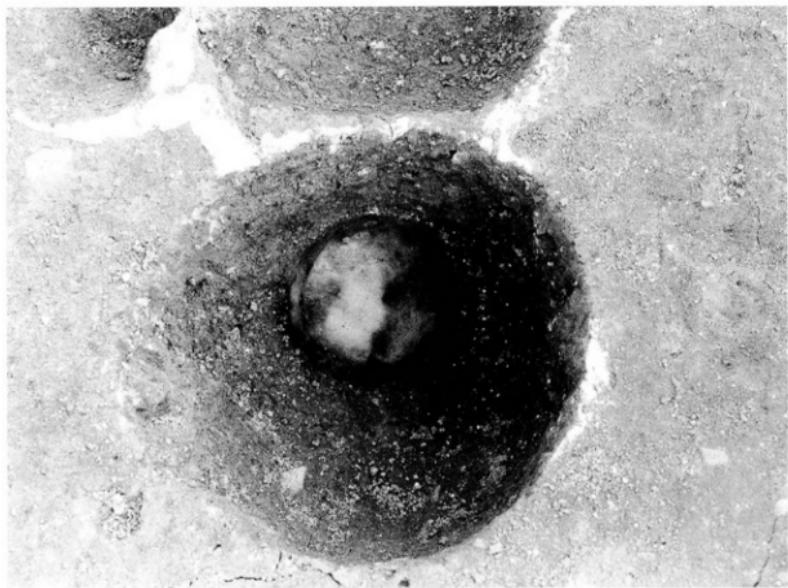
第4～8調査区（KG T88-1）全景（西から）



第1～3調査区全景（南から）



S B 1 (北から)



S B 2 - P 1 遺物出土状況 (北から)



SD1・SE1 (西から)



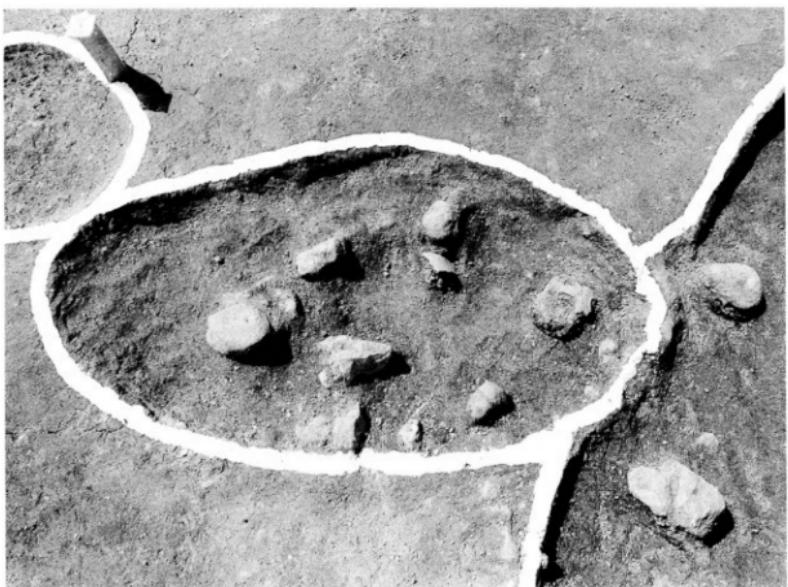
SE2 (西から)



SE 2 遺物出土状況（東から）



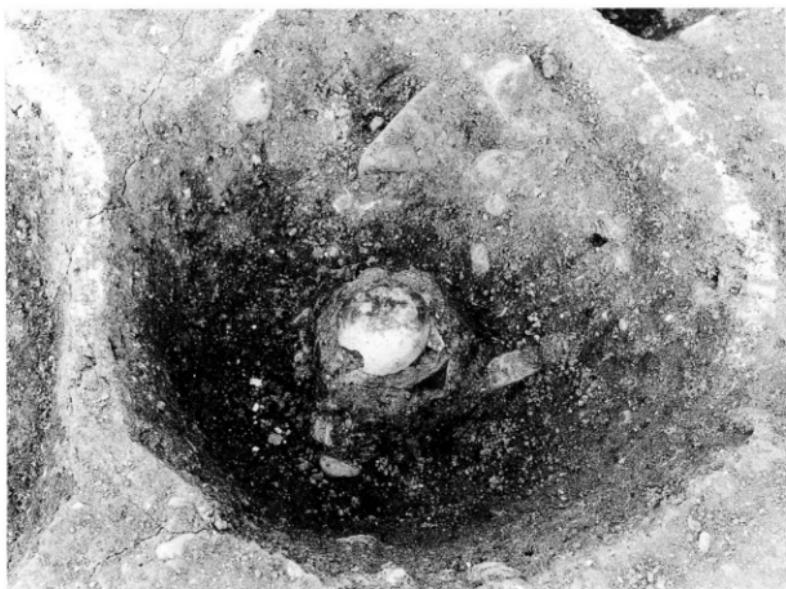
SE 3 (西から)



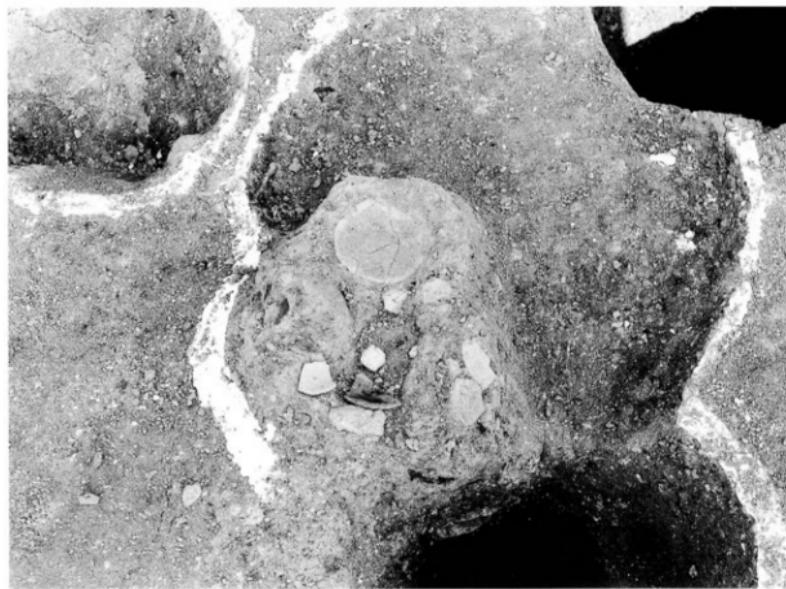
SK 1 (北東から)



SK 2 (北西から)



SK 4 遺物出土状況 (南から)



SK 5 遺物出土状況 (東から)



SK 6 遺物出土状況 (西から)



SK 9 (西から)



第4調査区全景（南から）



第5・6調査区全景（北から）



S A 1 (南から)



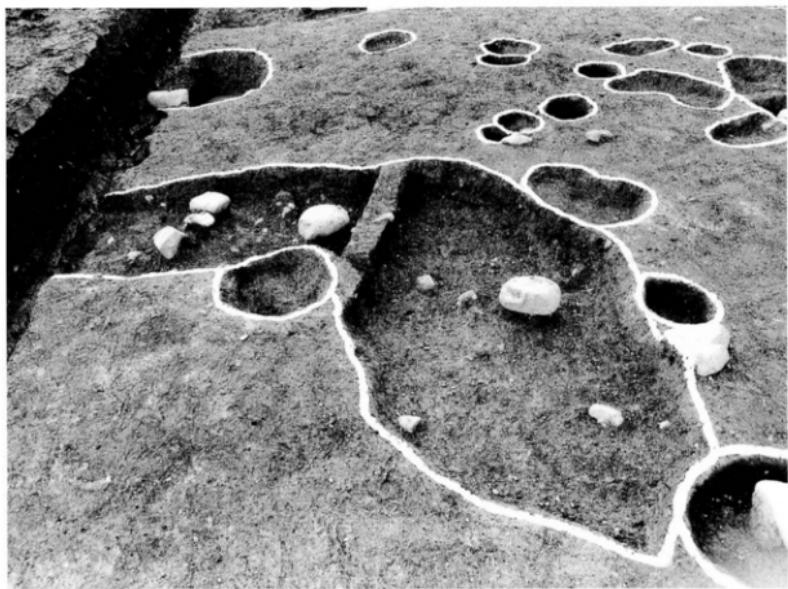
S E 4 (北から)



S E 4 竹管検出状況 (西から)



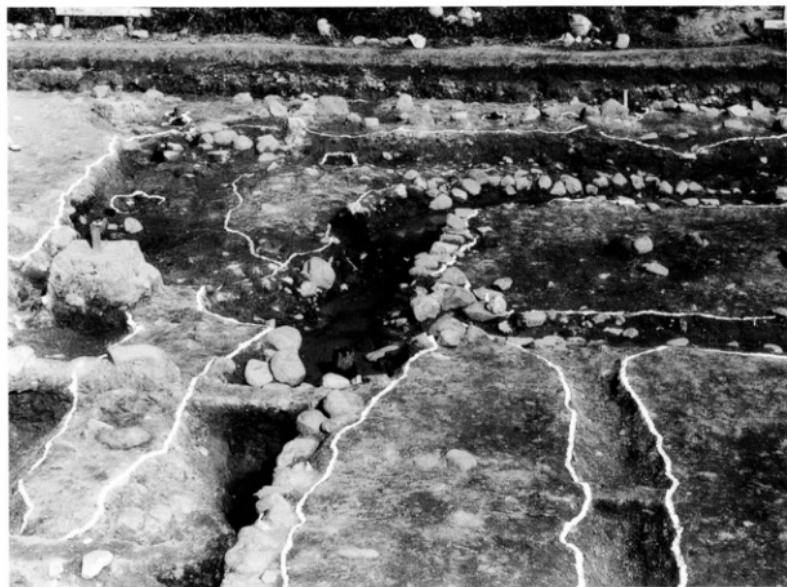
S D 2 (西から)



S D 3 (南から)



SD 6 石垣部分（西から）



SD 7~10（西から）

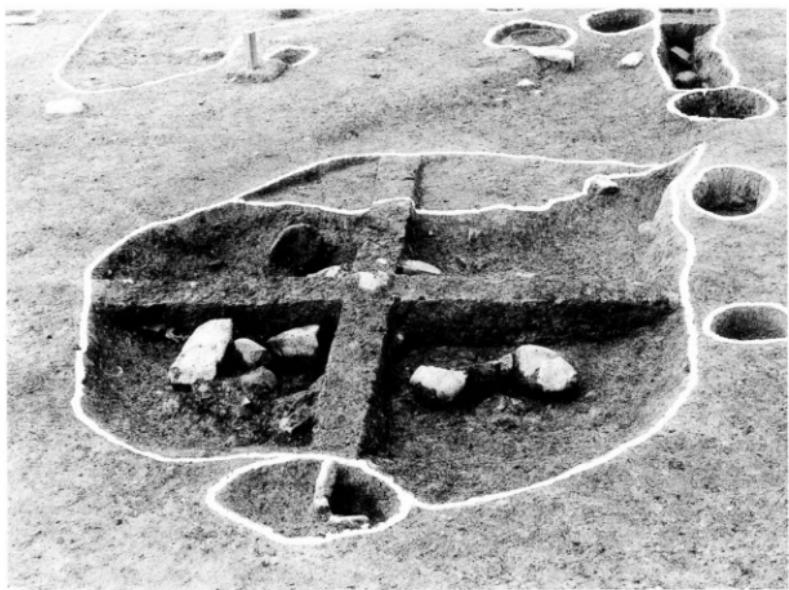


S D11・12 (北から)



S K12 (東から)

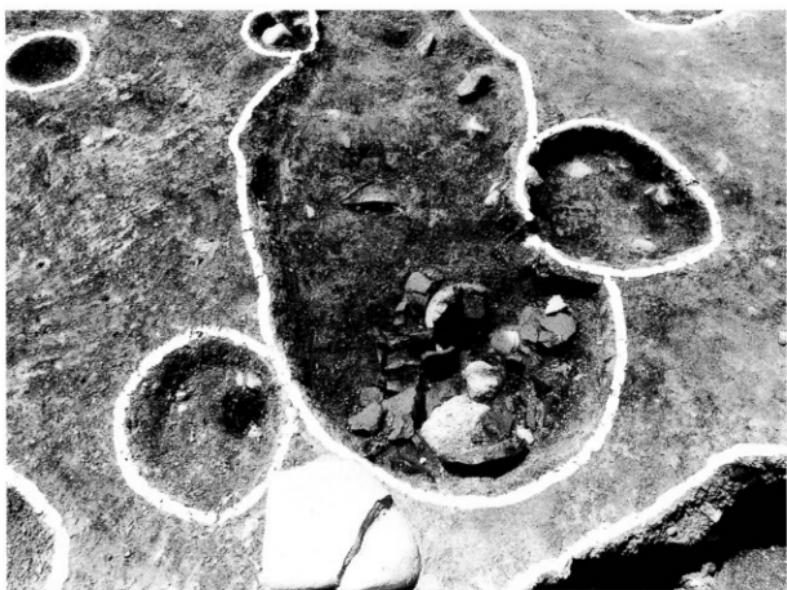
图版 15
第2次遺構群



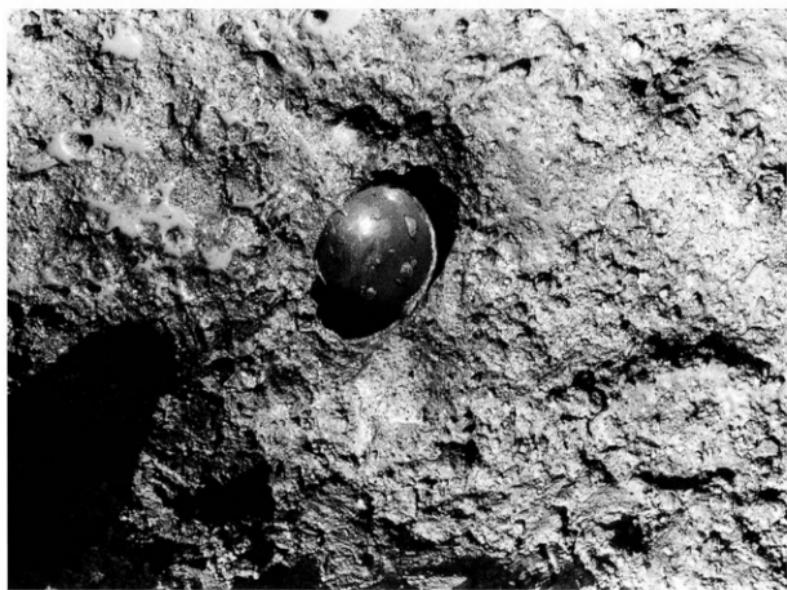
S K 15 (南から)



S K 16 (東から)



S K 21 (北から)



S K 22漆器碗出土状況



S K 23 (西から)



S X 1 遺物出土状況 (北から)

S X 3 遺物出土状況(北から)

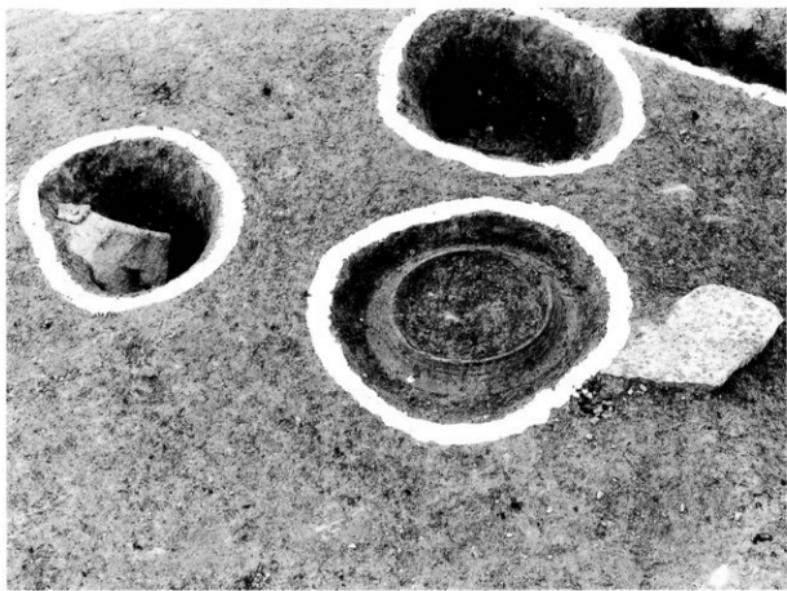


S X 3 (東から)





S X 4 遺物出土状況（東から）



S X 4・5（北から）



S X 6 遺物出土状況（北から）



S X 6 遺物出土状況（東から）



S X 7 (北から)



N V 1 漆器碗出土状況



N R 1 (東から)



S L 1 (東から)



S L 2 遺物出土状況（北から）



S L 3 遺物出土状況（南東から）



第7調査区全景（南から）



S B 4 (南から)



S B 4 埋植・埋葬検出状況（南から）



S B 4 埋植・埋葬検出状況（西から）



SE 5 (東から)



SE 6 (西から)



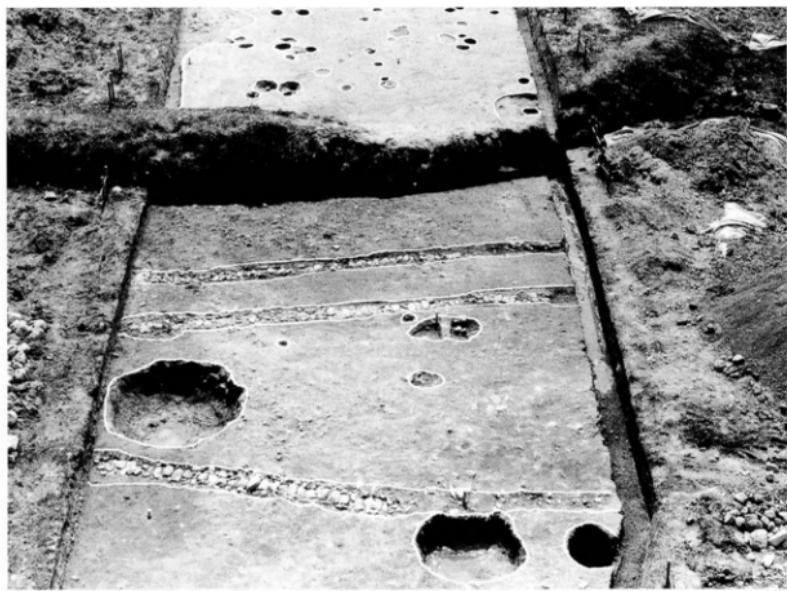
SE 6 (東から)



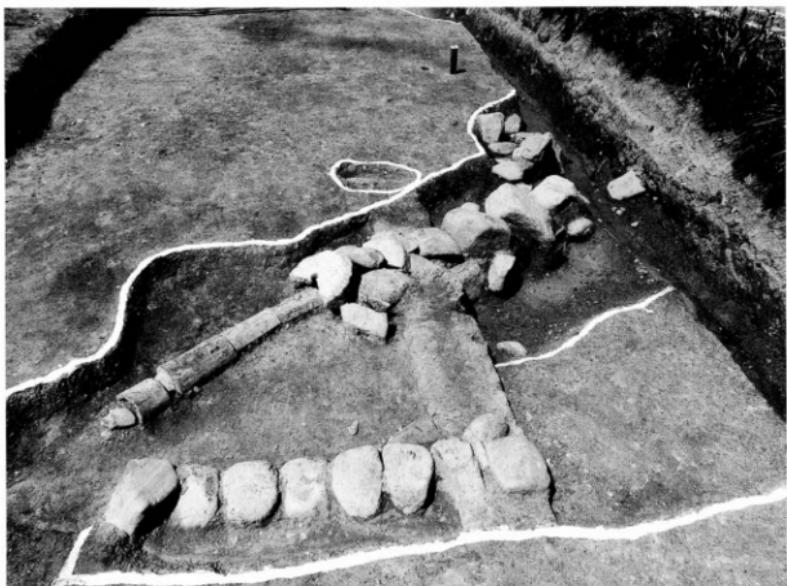
SE 8 (北から)



SE 9 (北から)



SD 13~15 (北から)



S D24 (東から)



S D24瓦・石臼検出状況 (南西から)



S W 1 (北から)



S N 1 埋桶検出状況 (南から)



S L 4 遺物出土状況（南から）



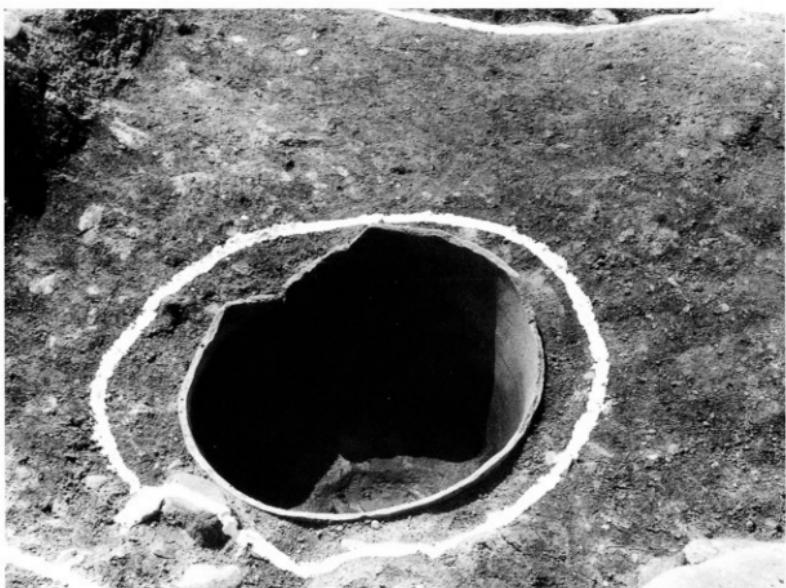
S L 5 遺物出土状況（南から）



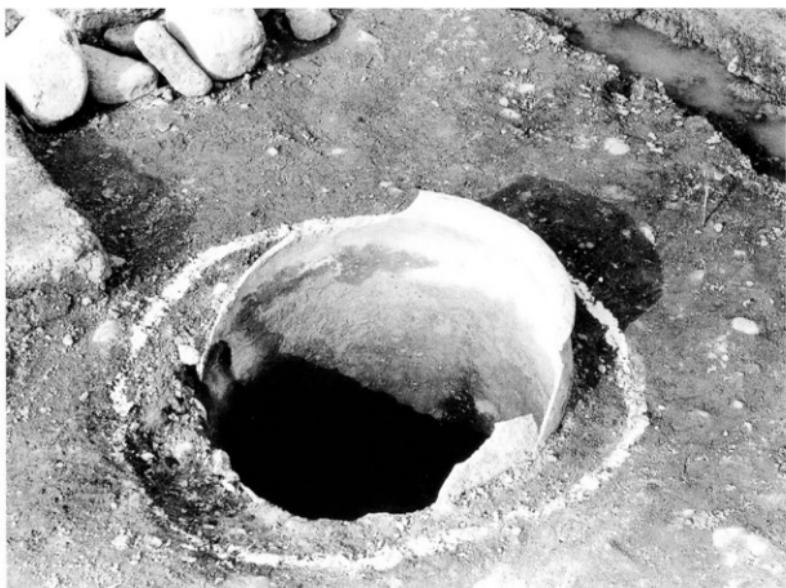
S L 6 遺物出土状況（南から）



S L 7 遺物出土状況（東から）



S L 9 遺物出土状況（西から）



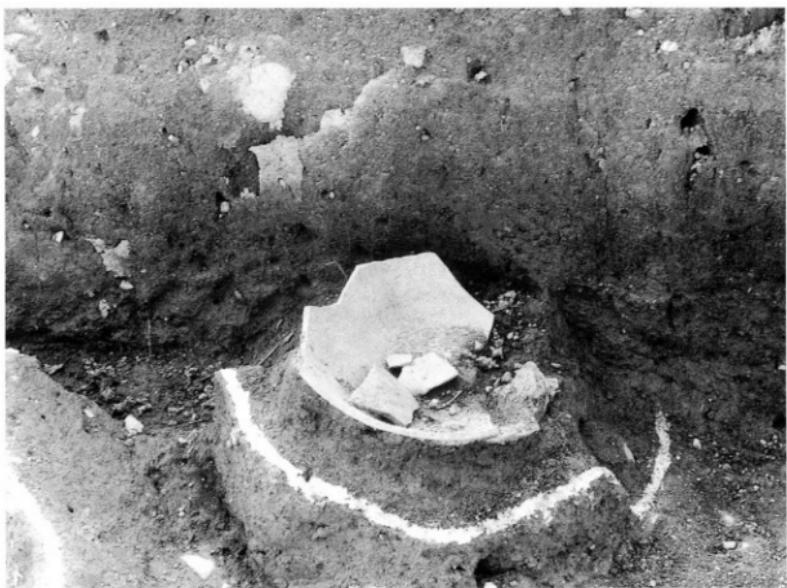
S L 10 遺物出土状況（南西から）



S L11遺物出土状況（南から）



S L12遺物出土状況（東から）



S L13遺物出土状況（東から）



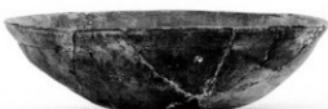
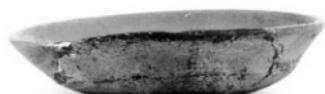
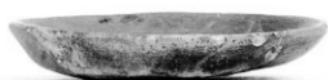
S L14遺物出土状況（北西から）



S L15 (北東から)



S L15遺物出土状況（西から）



SB 1 (1)、SB 2 (2)、SE 1 (3~5・7・8)、SE 2 (10・11・13~17)



18



24



19



25



20



26



21



27



22



28

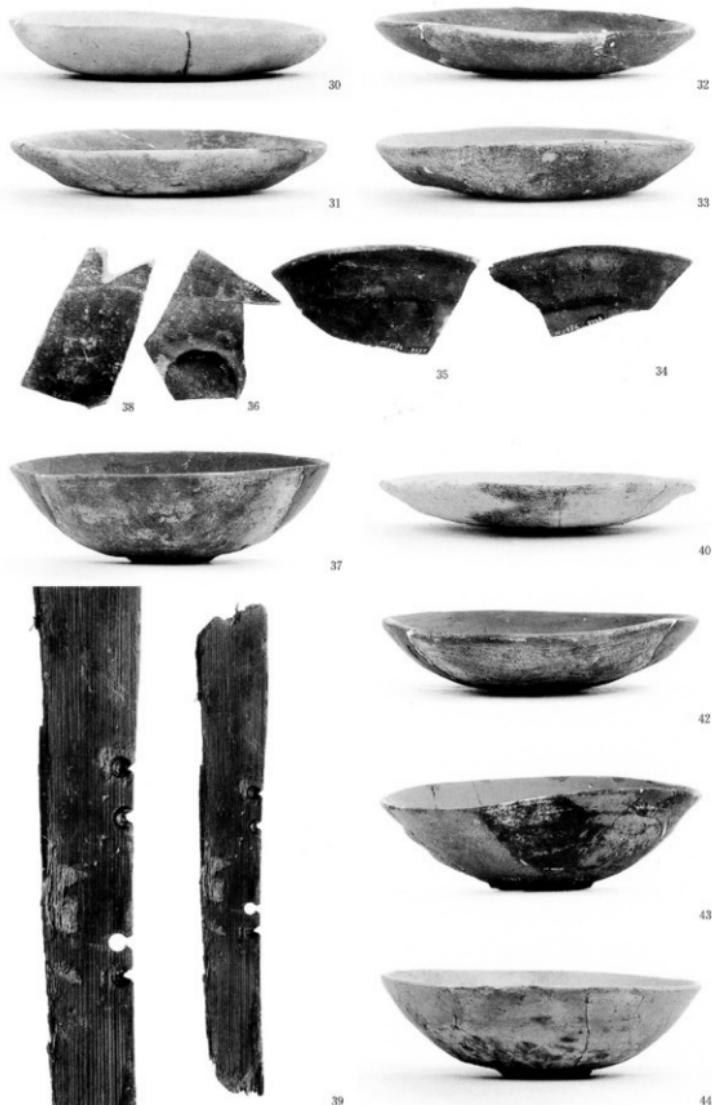


23

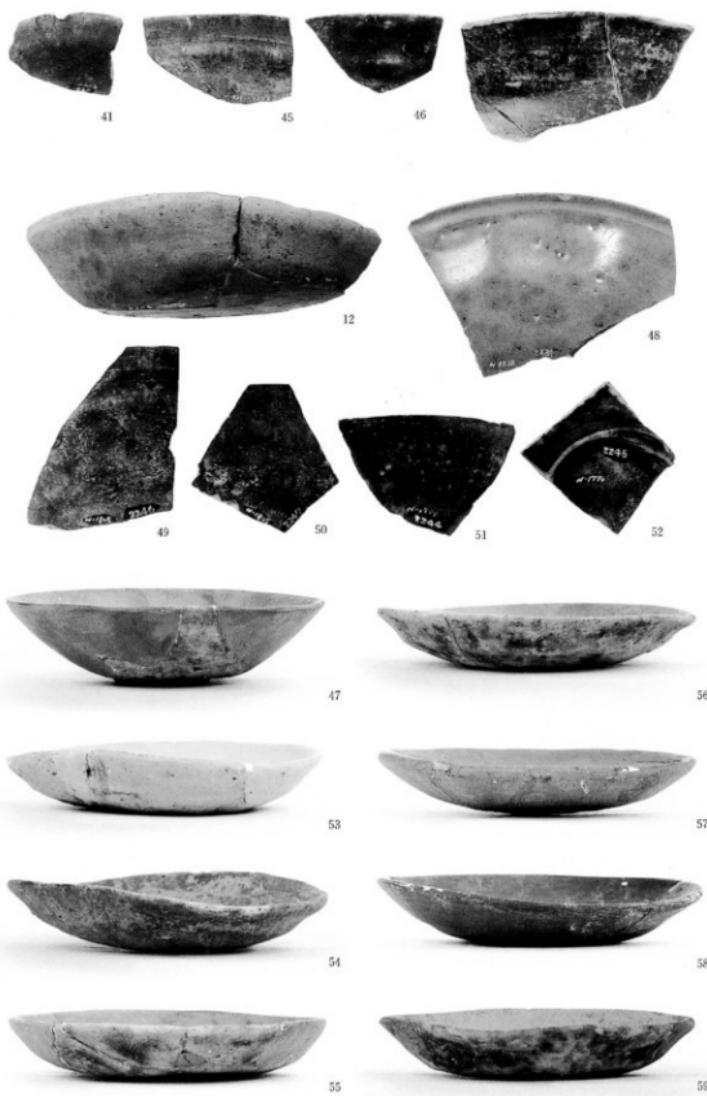


29

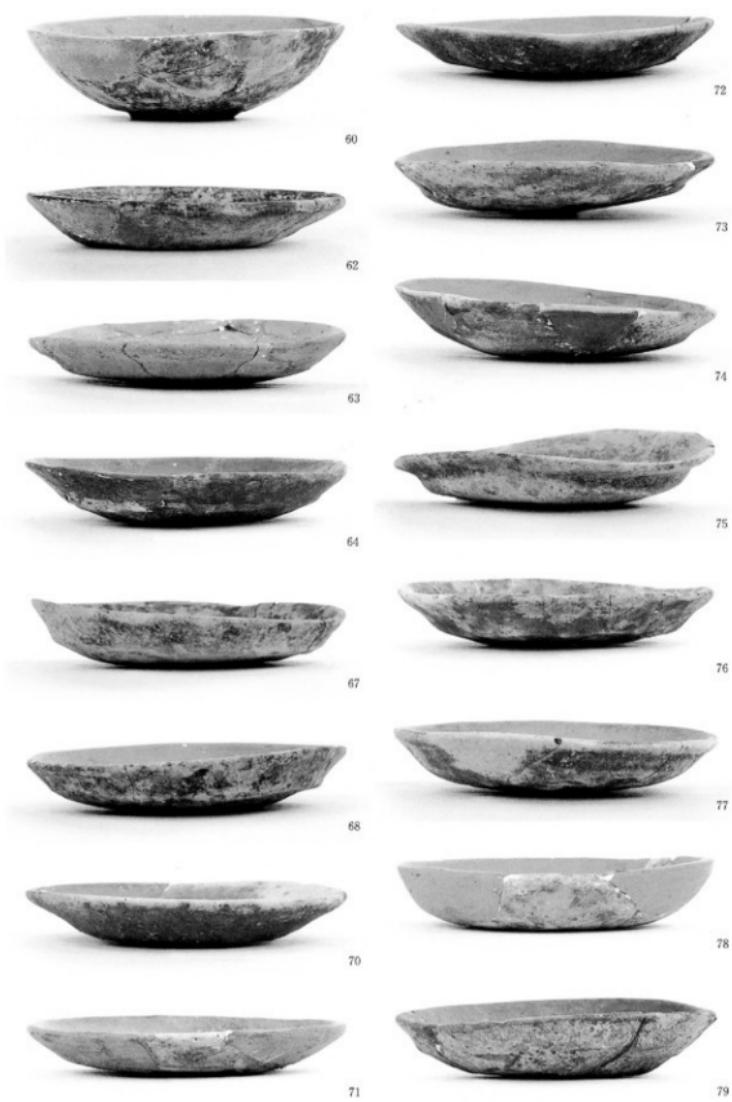
S E 2 (18~28)、S E 3 (29)



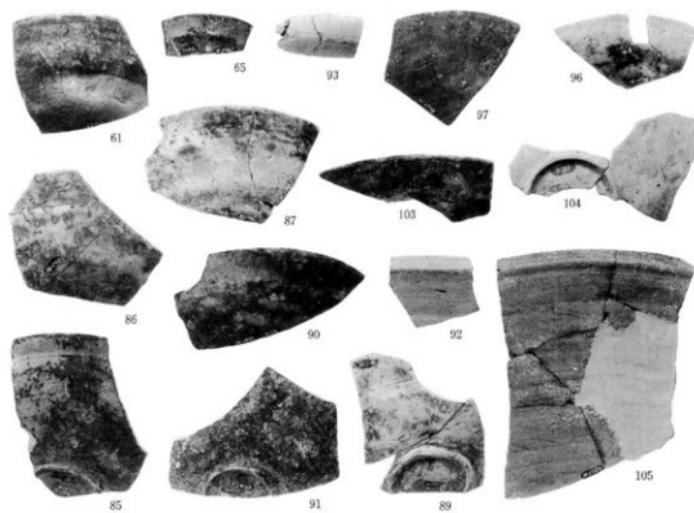
S E 3 (30~39)、S D 1 (40~42~44)



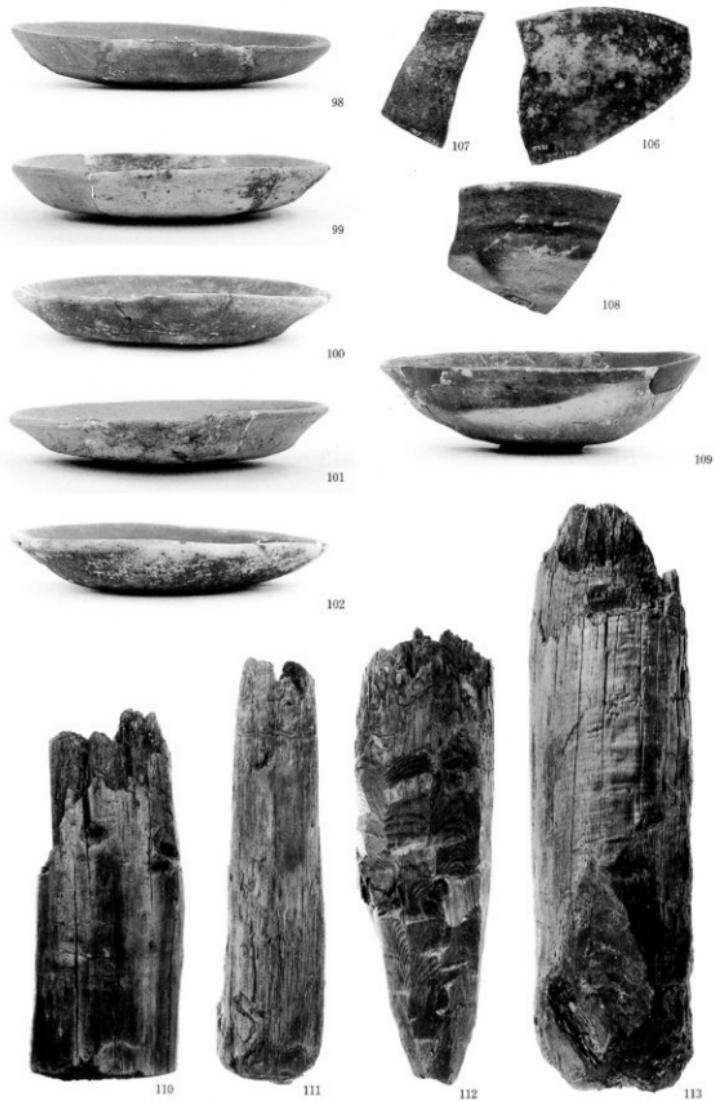
S E 2 (12)、S D 1 (41·45·46)、S K 1 (47·48)、S K 2 (49·50)、S K 3 (51·52)、S K 4 (53~59)



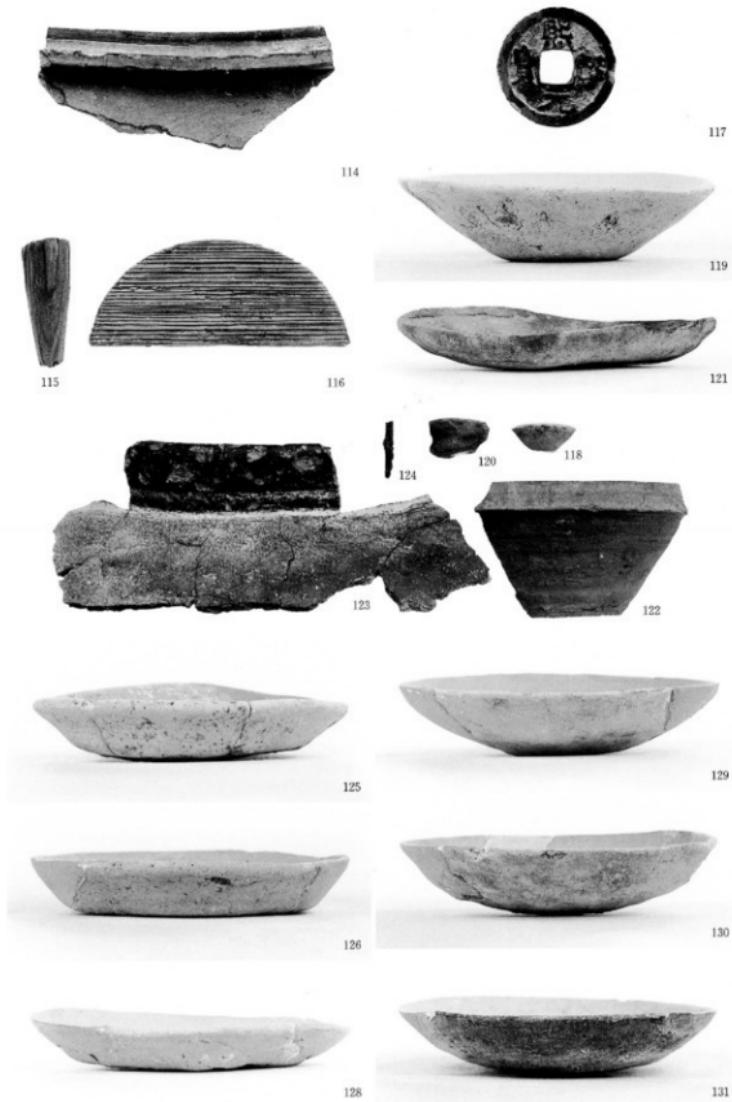
SK 4 (60)、SK 5 (62~64)、SK 6 (67·68·70~79)



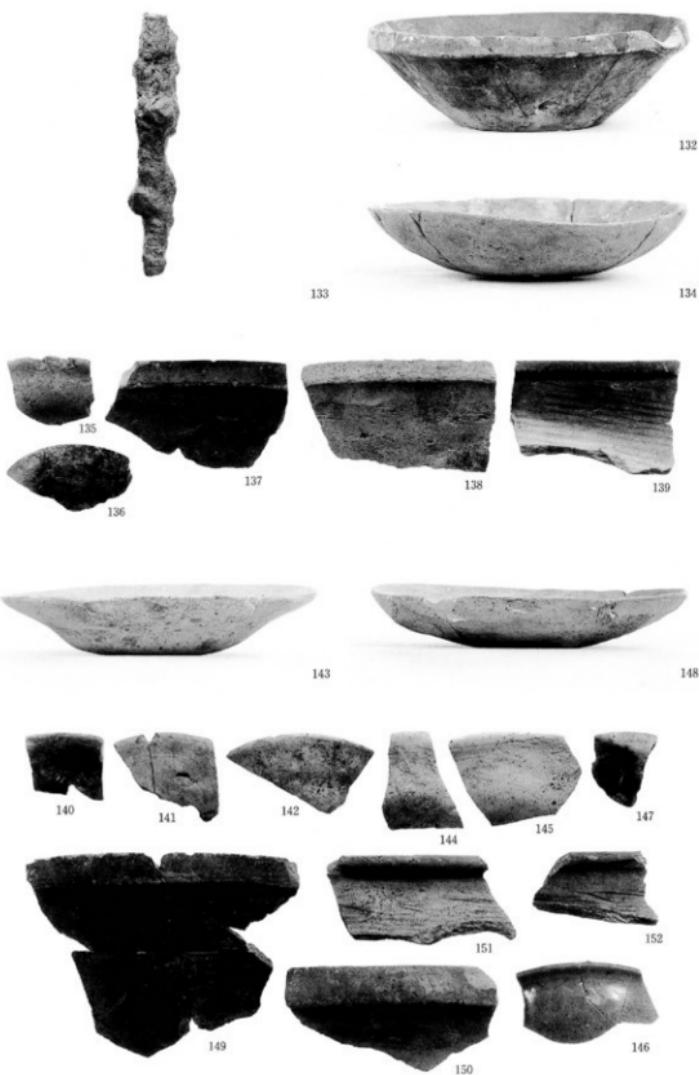
SK 4 (61)、SK 5 (65)、SK 6 (80~92)、SK 7 (93~97)、SK 9 (103~105)



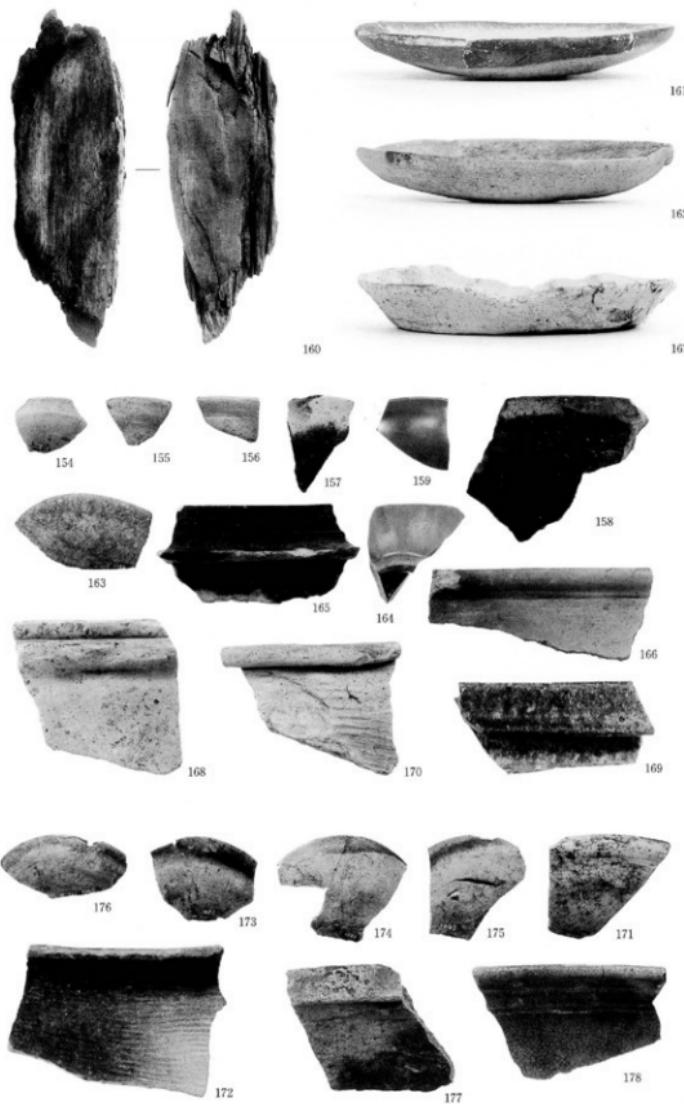
SK 8 (98・99)、SK 9 (100～102)、SP 1 (106・107)、SP 2 (108)、SP 3 (109)、SA 1 (110～113)



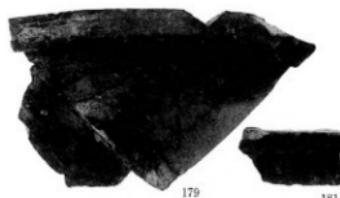
S E 4 (114~117)、SD 2 (118~124)、SD 3 (125·126·128~131)



S D 3 (132~133)、S D 4 (134)、S D 5 (135~139)、S D 6 (140~152)



S D 7 (154~160)、S D 8 (161~166)、S D 9 (167~169)、S D 10 (170)、S K 10 (171)、S K 11 (172)
S K 12 (173~178)



183



184



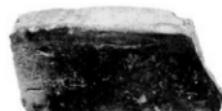
185



186



187



188



189



190



191



192



193



203



211

SK13 (179)、SK15 (181)、SK16 (182~184)、SK17 (185~186)、SK18 (187~190)
SK19 (191~193)、SK20 (194)、SK22 (203)、SK23 (208~209)、SK24 (210~211)



S K21 (195)、S K22 (198~202・204~206)、S K23 (207)



212



221



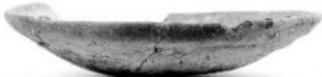
213



222



215



223



216



224



217



225



218



226



219



227

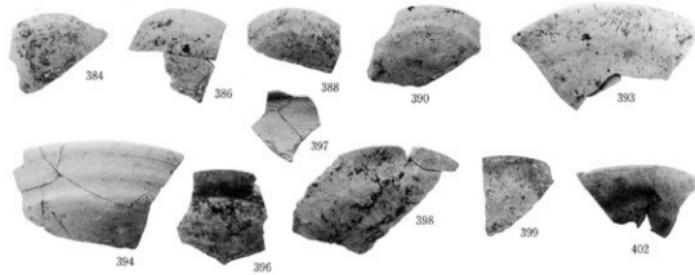
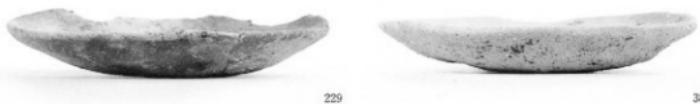


220



228

S X 1 (212・213・215～228)



S X 1 (214・229~231)、S X 2 (232~240)、S X 3 ⑤ (384~386・388・390・393・394・396~399・402)



392



387



395



389



400



391



401



403



241~282

S X 3 ⑤ (387・389・391・392・395・400・401・403)、S X 3 ① (241~282)



283~329

S X 3 ② (283~329)



330~353

S X 3 ③ (330~353)



354~383

S X 3 ④ (354~383)



404~443

S X 4 (404~443)



445~481

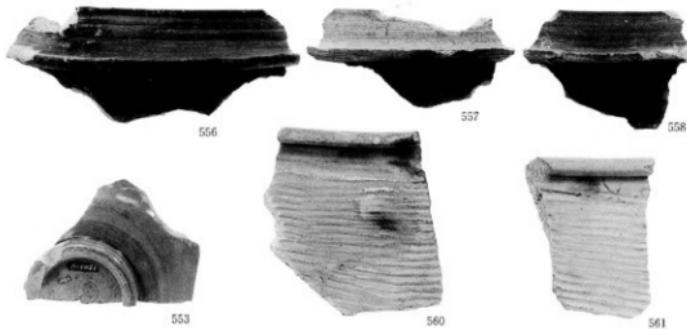
S X 6 (445~481)



S X 6 (482~521)



522~526



556

557

558

553

560

561



555

552

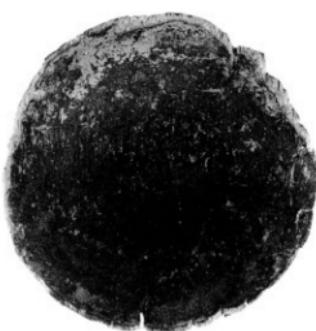
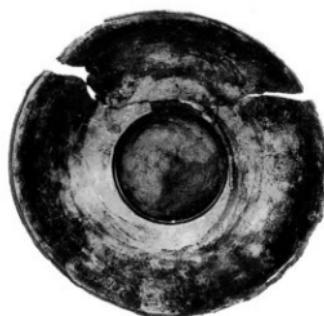
S X 7 (522~526)、N V 1 (552・553・555~558・560・561)



444



539

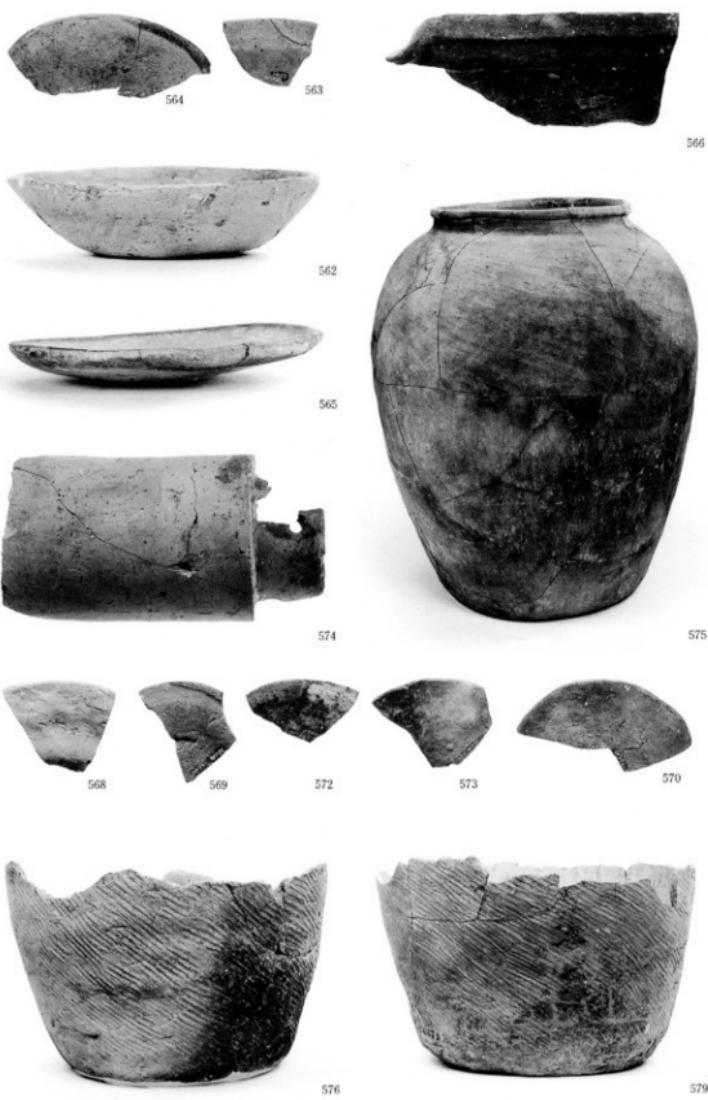


554

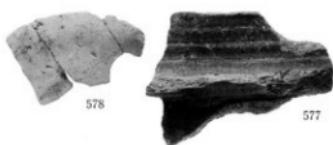


567

S X 5 (444)、N V 1 (554 · 559)、S P 8 (567)



S P 4 (564)、S P 5 (562)、S P 6 (563)、S P 7 (565)、S P 8 (566)、NR 1下層 (568~570・572~574)
S L 1 (575)、S L 2 (576)、S L 3 (579)



582



591



590



580

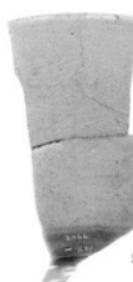


585



586

S L 3 (577・578)、S B 4 (580・582・585・586・590・591)



587



584



608



607



606



609



589



588



594

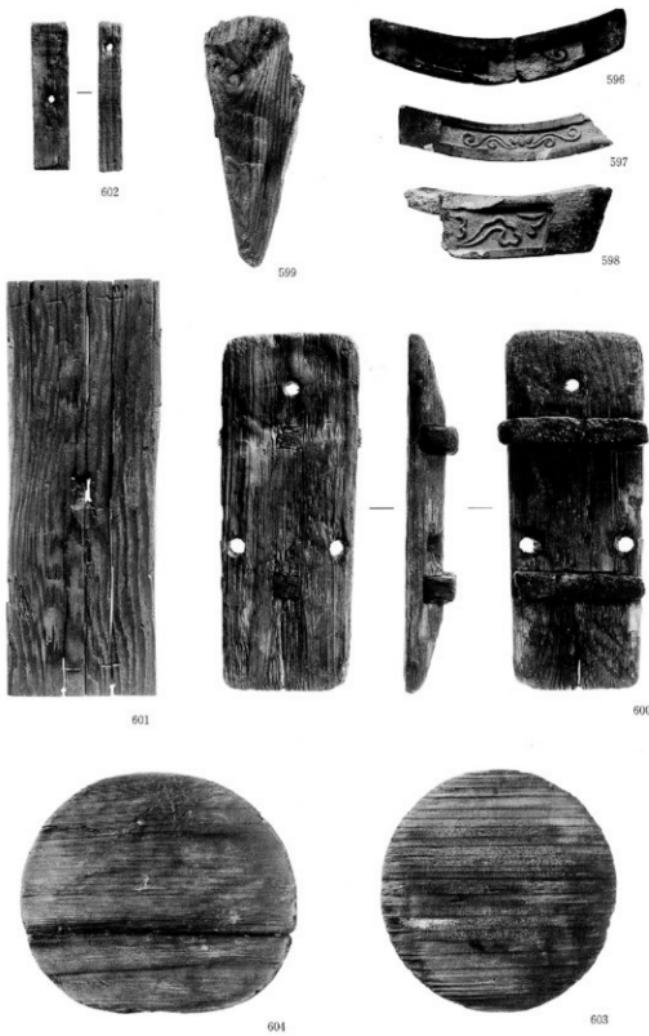


595

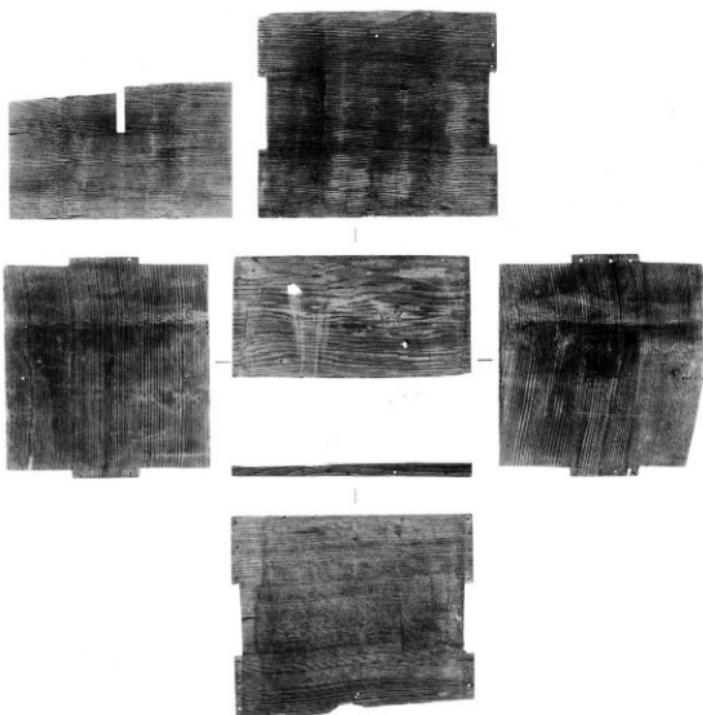


593

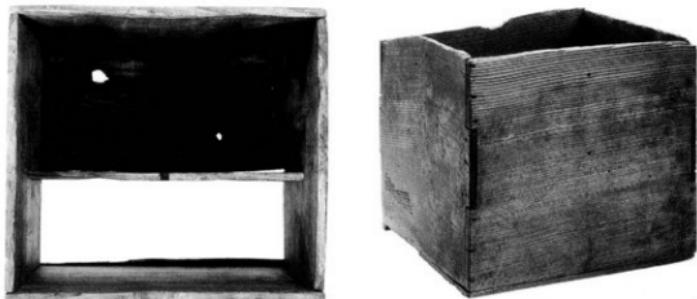
S B 4 (584 · 587~589 · 593~595 · 606~609)



S B 4 (596~604)

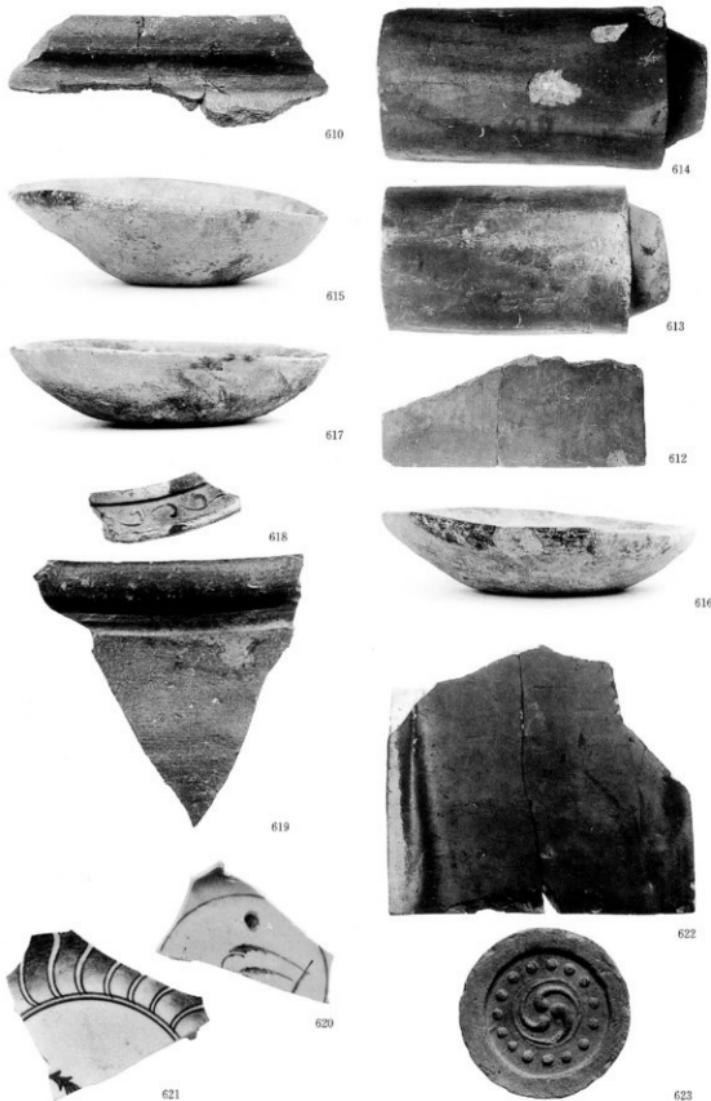


605

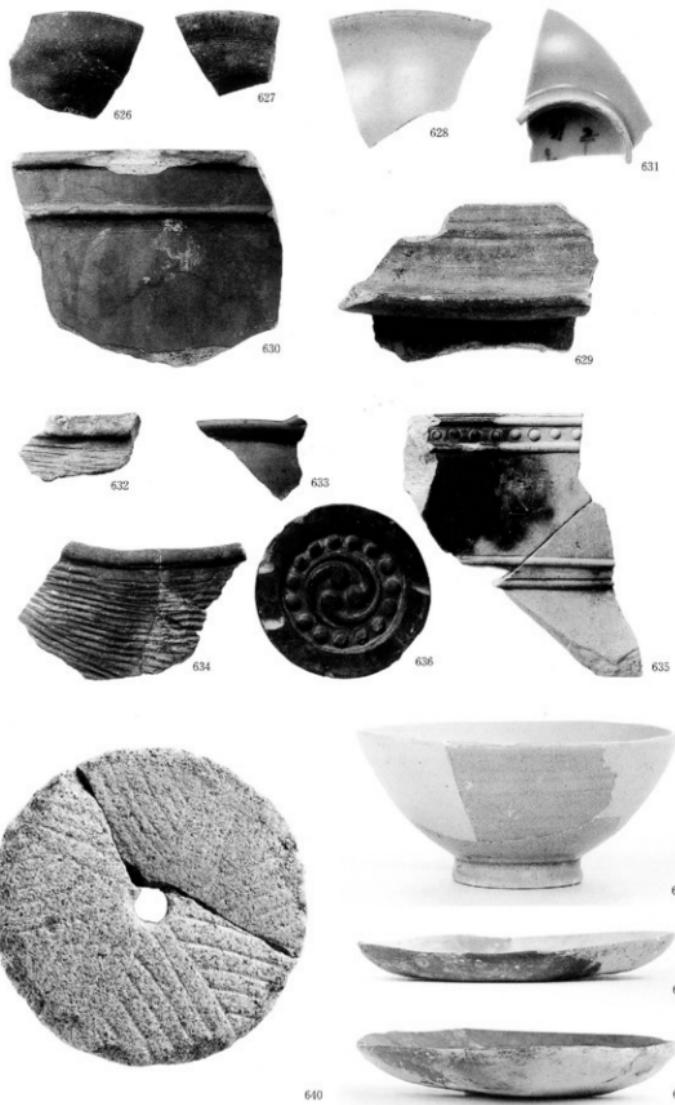


605

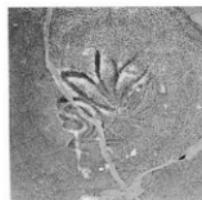
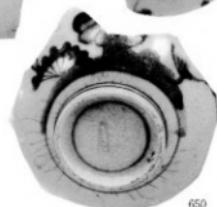
S B 4 (605)



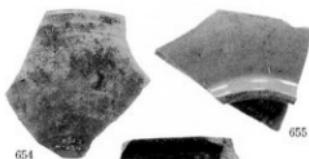
SE 5 (610)、SE 6 (612~614)、SE 8 (615~619)、SE 9 (620~623)



S D20 (626~628)、S D21 (629~631)、S D22 (632・633)、S D23 (634~636)、S D24 (640)
S K25 (641)、S K26 (642・643)



646



655



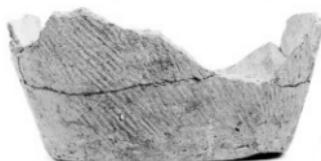
S K26 (644)、SW1 (646~651)、NV2 (652)、NR1上層 (653~656)



657



658



660

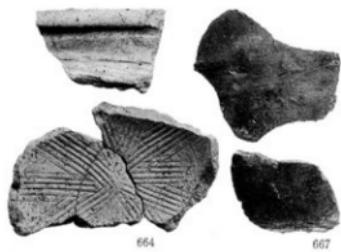


661



662

663



664

667



666

SN 1 (657·658)、SL 4 (660)、SL 5 (661)、SL 6 (662)、SL 7 (663)、SL 8 (664·666)
SL 9 (667)



668



669



672



670

671



673



674

S L 9 (668)、S L10 (669~671)、S L11 (672)、S L12 (673·674)



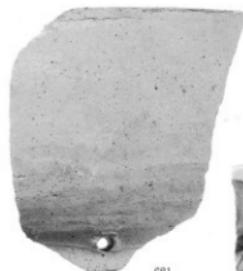
677



678



689



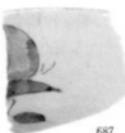
681



680



685



687



688



682



684



S L13 (677)、S L14 (678)、S K28 (680~682・684・685)、S K30 (687~689)



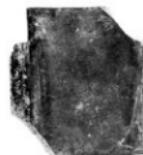
679



693



686



683



690



691



694



695



696



697

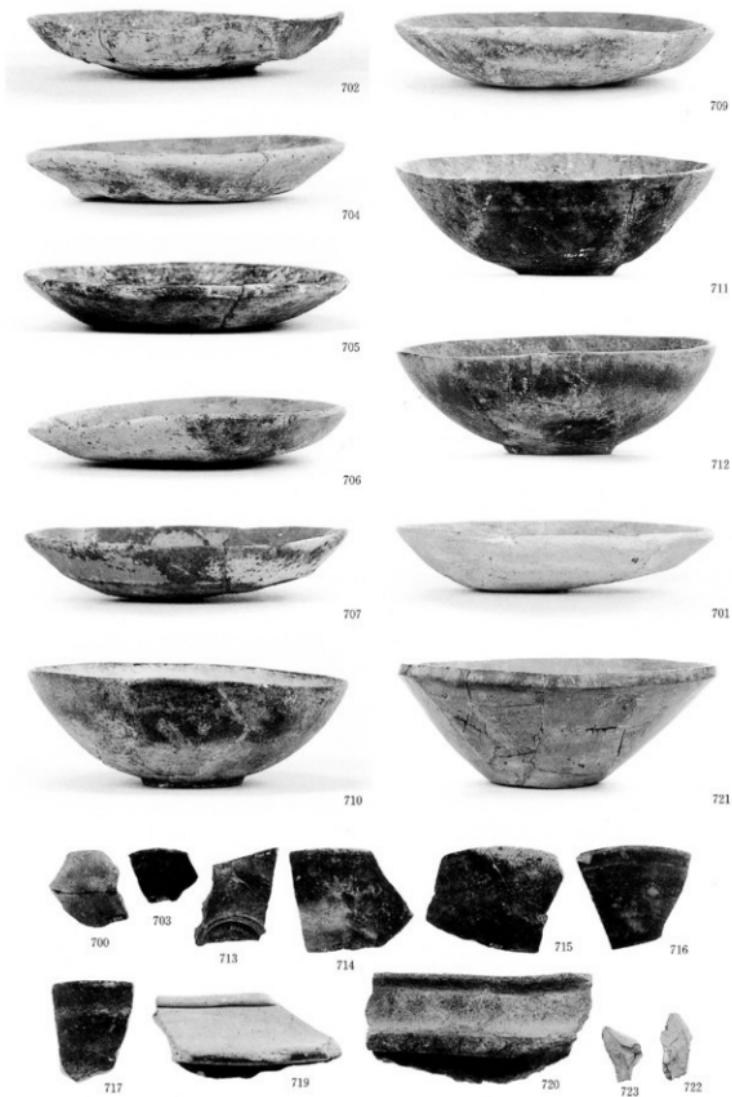


698



699

S E 10 (679)、S K 28 (683)、S K 29 (686)、S K 30 (690・691)、S L 15 (693～697)
第1～3調査区包含層 (698・699)



第1～3調査区包含層 (700～707・709～717・719～723)



724



732



725



734



726



735



727



736



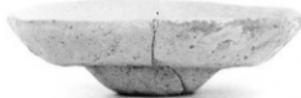
728



760



757



729



758



759



740

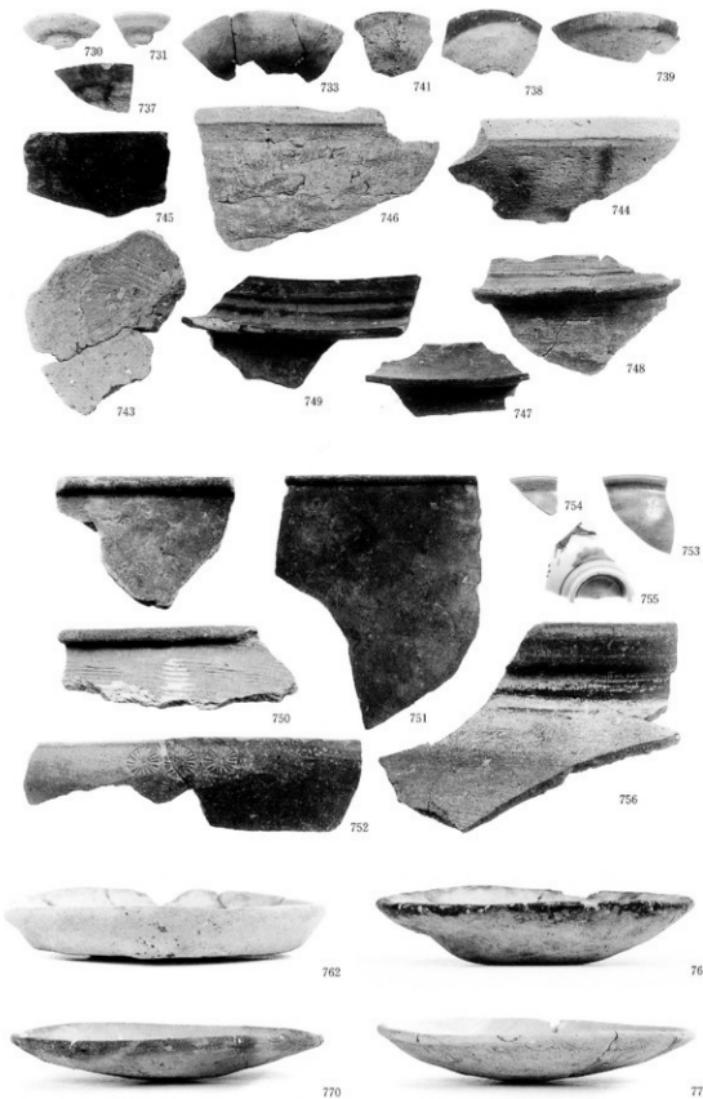


761



742

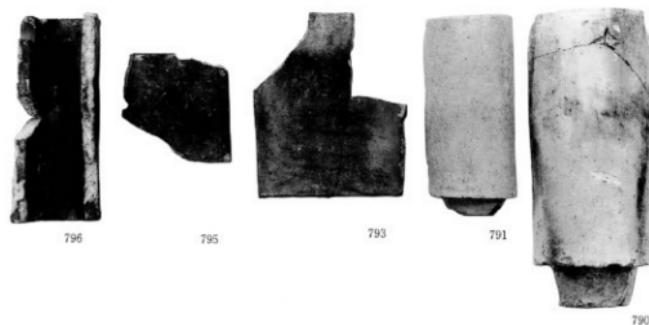
第4调查区包含层 (724~729 · 732 · 734~736 · 740 · 742)



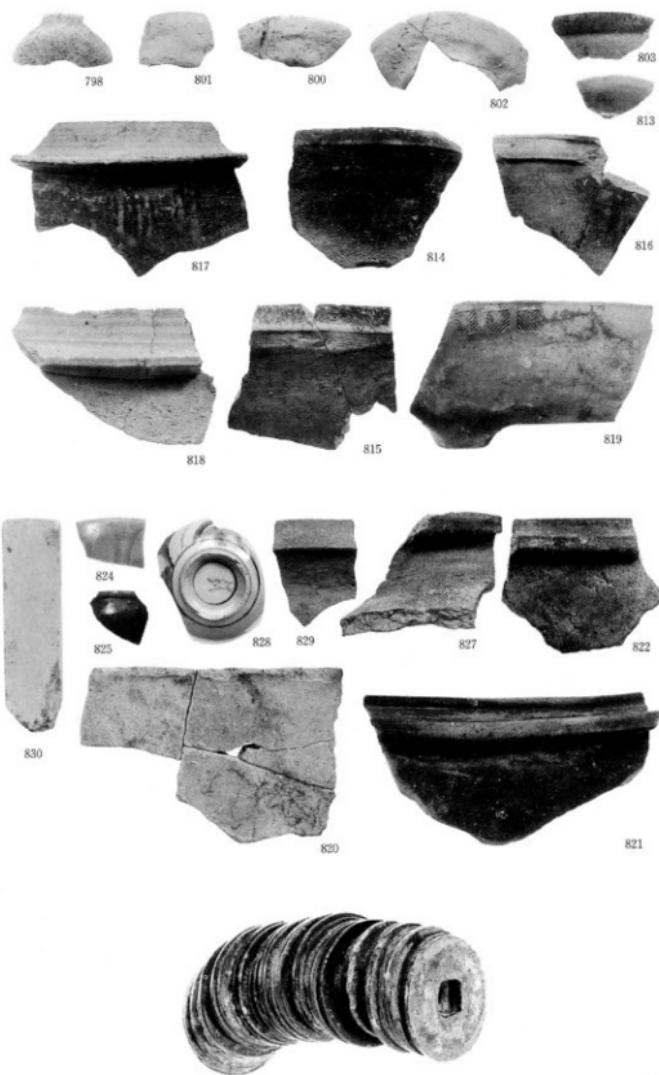
第4調査区包含層（730・731・733・737～739・741・743～756）、第5調査区包含層（762・764・770・771）



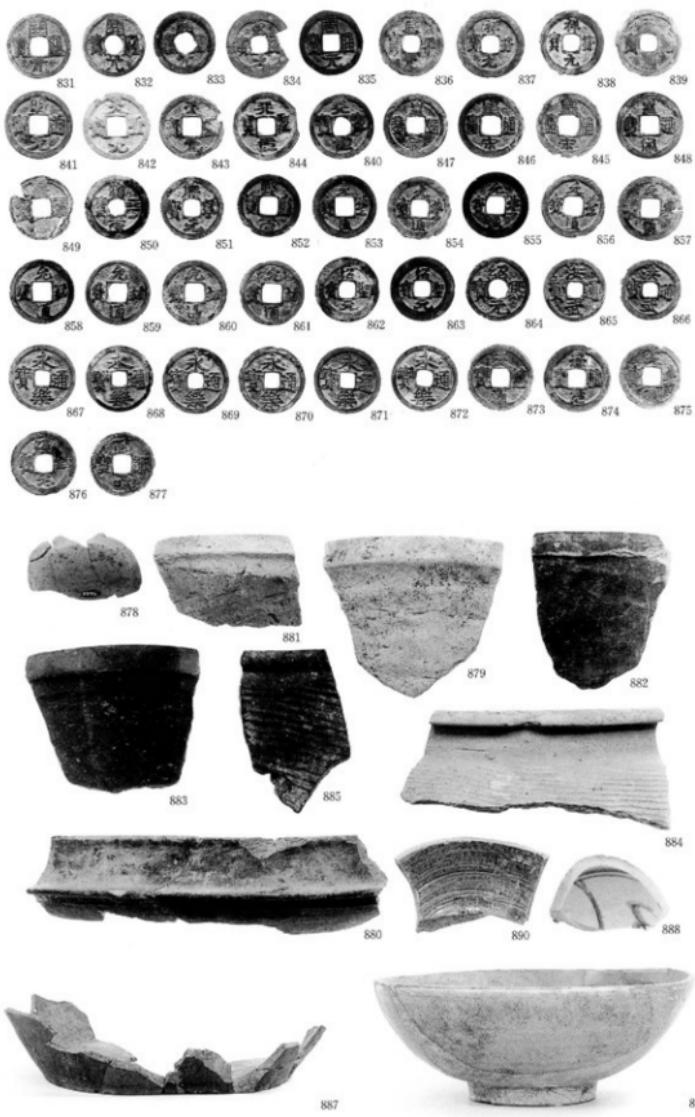
第5調査区包含層 (763・765~769・772・773・775~786・788・789・792・794)



第5調査区包含層（790・791・793・795・796）、第6調査区包含層（797・799・804～812）



第6调查区包含层 (798·800~803·813~822·824·825·827~872)



第6调查区包含层(832~877)、第7·8调查区包含层(878~885·887~890)



第7·8调查区包含层 (884·886·891~895·897~908)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	あまのさんこんごうじいせき
書名	天野山金剛寺遺跡（その1）
副書名	河内長野市遺跡調査報告XXIII
シリーズ名	河内長野市遺跡調査報告
シリーズ番号	XXIII
編著者名	尾谷雅彦
編集機関	河内長野市教育委員会 河内長野市遺跡調査会
所在地	〒586-8501 大阪府河内長野市原町396-3 電 0721-53-1111
発行年月日	2001年3月31日

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
天野山金剛寺 遺跡 (KGT88-1)	大阪府 河内長野市 天野町	27216	府16 河14	34° 25' 42"	135° 31' 58"	1989.2.16 1989.3.31	約1000m ²	道路改良事業
天野山金剛寺 遺跡 (KGT89-1)	大阪府 河内長野市 天野町	27216	府16 河14	34° 25' 44"	135° 31' 58"	1989.12.27 1990.3.24	約600m ²	道路改良事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
天野山金剛寺 遺跡	社寺	中世・近世	土釜埋納遺溝 10基	輸入銭	古文書に見られる、正平15年 (1360) の焼土層を検出

河内長野市遺跡調査報告書

天野山金剛寺遺跡（その1）

2001年3月31日発行

発 行 大阪府河内長野市原町396-3

河内長野市教育委員会

河内長野市遺跡調査会

0721-53-1111

印 刷 神中島弘文堂印刷所

